
今治市地域福祉計画策定のための
アンケート調査結果報告書

平成27年3月

今 治 市

目次

I 調査の概要.....	1
1 調査目的.....	1
2 調査実施の概要.....	1
対象者.....	1
実施期間.....	1
回収状況.....	1
3 調査方法.....	1
4 留意点.....	1
II 市民アンケート調査結果(あなた自身のことと暮らしについて).....	2
問1 あなた自身のことについて、おたずねします。.....	2
①性別.....	2
②年齢.....	2
③世帯構成.....	3
④同居している家族.....	3
⑤健康状態について.....	4
⑥現在の暮らしの経済状況について.....	4
⑦職業について.....	5
⑧現在の住まい.....	5
⑨現在のお住まいの地区.....	6
⑩転居等について.....	6
⑪現在の地区に住み続けたいと思うか.....	7
⑪-1 住み続けたい理由.....	7
⑪-2 住み続けたくない理由.....	8
問2 日常生活や福祉・医療のことで困っていることや不安なことについて.....	9
問3 日常生活や福祉・医療のことで相談されたことについて.....	10
問3-1 相談相手、相談した際の満足度について.....	10
問4 買い物や病院などへ行く時の移動手段について.....	11
III 市民アンケート調査結果(福祉について).....	12
問5 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか.....	12
問5-1 「福祉」の関心がある分野.....	12

問6 「福祉」のあり方は、どのようであるべきだと思いますか.....	13
問7 「福祉」について理解を深めるために必要と思う機会について.....	13
IV 市民アンケート調査結果(お住まいの地域について).....	14
問8 「地域」という言葉を聞いて思い浮かべる範囲.....	14
問9 自治会への加入について.....	15
問10 地域組織の活動への参加について.....	15
問10-1① どのような活動に参加していますか.....	16
問10-1② どのような目的で参加していますか.....	16
問10-2 現在参加していない理由、参加する上で支障となっていること.....	17
問11 民生児童委員の制度を知っていますか.....	18
問11-1① 知っている民生児童委員の活動について.....	18
問11-1② 地区を担当する民生児童委員を知っていますか.....	19
問12 地区に社会福祉協議会(支部も含む)があることを知っていますか.....	19
問12-1 知っている社会福祉協議会の活動.....	20
問13 地区における支援を必要とする世帯の緊急事態に対応できるような体制について.....	21
問14 災害発生時に手助けが必要な人が近所にいますか.....	21
問15 災害時に住民が支え合う地域づくりのために必要だと思うもの.....	22
問16 虐待について.....	23
問17 虐待への最初の対応について.....	23
問18 日頃の近所付き合いについて.....	24
問18-1 具体的な近所付き合いについて.....	24
問19 現在の近所付き合いの満足度.....	25
問20 日常生活が不自由になったとき、近所の人に手助けしてほしいこと.....	26
問21 困っている世帯があった場合、手助けを行えること.....	27
問22 地域社会のあり方について.....	27
V 市民アンケート調査結果(地域活動について).....	28
問23 ボランティアなどの参加状況.....	28
問23-1① 参加している地域活動について.....	28
問23-2① 地域活動に参加していない理由.....	29
問23-2② 参加できる機会があれば、参加したいと思う地域活動.....	30
問24 地域活動の継続または参加条件について.....	31
問25 地域で集まったり話し合ったりする場所.....	32

VI 市民アンケート調査結果(福祉サービスについて).....	33
問 26 国、県、市が行っている福祉サービスについて.....	33
問 26-1 充実していないと思う分野.....	33
問 27 これから行政が行う福祉サービスのあり方.....	34
問 28 適切に福祉サービスが利用できるようにするために優先させるべきこと.....	34
問 29 福祉サービスを充実させていく上で、行政と住民の関係について.....	35
問 30 つながりと支えあいのある地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組むべきこと.....	35
VII 市民アンケート調査結果(各世代との交流について).....	36
問 31 他の世代の方々と接する機会について.....	36
問 32 他の世代の方々と交流への興味について.....	36
問 33 他の世代の方々と交流する場があれば参加したいと思いますか.....	37
VIII 市民アンケート調査結果(その他).....	38
問 34 今後、今治市が優先して取り組むべき施策.....	38
問 35 支えあい、助け合えるまちづくりを進めるためのご意見・ご要望(抜粋).....	40
IX 福祉関係団体アンケート調査結果(貴団体の概要について).....	43
問 1 貴団体の区分(形態)について.....	43
問 2 活動分野について.....	43
問 3 提供している支援・サービスについて(抜粋).....	44
問 4 活動範囲(地域)について.....	48
問 5 活動における財源の確保について.....	49
問 6 主な活動場所について.....	50
問 7 経営・運営状況について.....	51
X 福祉関係団体アンケート調査結果(利用者(市民)の生活課題について).....	52
問 8 利用者のニーズや評価の把握について.....	52
問 9 現在提供している支援・サービスの必要量について.....	53
問 9 現在提供している支援・サービスの内容について.....	54
問 10 支援対象者やサービス利用者(市民)が困っていたり不安に感じていると思うこと.....	55
問 11 困っていること、不安なことの意見・感想及び考えられる解決策について.....	56
問 12 支援することが困難で、他団体との連携により解決できたケースについて(抜粋).....	60
XI 福祉関係団体アンケート調査結果(経営や活動などの課題について).....	67
問 13 活動上、困っていることについて.....	67

問 14 活動の活性化や支援・サービスの質の向上のための課題について.....	68
XII 福祉関係団体アンケート調査結果(交流・連携・協働について).....	69
問 15 他の団体や公共団体などとの交流や協力について.....	69
①現在、交流や協力している団体について.....	69
①今後、交流や協力したいと思う他の団体について.....	70
②現在、交流や協力している内容について.....	71
②今後、交流や協力したい内容について.....	72
問 16 行政との協働について.....	73
①どのような形の協働を行っていますか.....	73
②行政との協働についての考え.....	74
②-1 それぞれの理由.....	74
③今後の行政との協働についての考え.....	75
④行政と協働するうえで、行政が担う役割についての期待.....	75
XIII 福祉関係団体アンケート調査結果(地域活動を活性化させる取り組み).....	76
問 17 今後、地域福祉活動を活性化させるために必要な取り組みについて.....	76
問 18 市に対してどのような支援を要望されますか.....	78
問 19.20 今治市の課題と解決策について(抜粋).....	79
問 21 市へのご意見・ご要望(抜粋).....	83

Ⅰ 調査の概要

1 調査目的

今治市では、平成22年3月に「つながりと支え合いのある安心して暮らすことのできるまち」を基本理念とする「今治市地域福祉計画」を策定し、子どもから高齢者まで全ての人々が支え合い・助け合えるまちづくりに取り組んでまいりましたが、平成27年度末で計画期間が終了することに加え、この間、地域福祉を取り巻く環境が大きく変化していることから、「日常生活での課題」や「地域での助け合いに関する考え方」等についてのニーズ等を把握し、「第2期今治市地域福祉計画」づくりの基礎資料とするために「今治市地域福祉計画策定のためのアンケート調査」を行いました。

2 調査実施の概要

対象者

- ・市民アンケート:平成26年10月31日現在、今治市在住の18歳以上の住民3,000名(無作為抽出)
- ・福祉関係団体アンケート:今治市の福祉関連等社会活動団体から抽出した308団体

実施期間

平成26年12月12日～平成26年12月26日

回収状況

	配布数	回収数	回収率
市民アンケート	3,000 件	1,326 件	44.2%
福祉関係団体アンケート	308 件	214 件	69.5%

3 調査方法

郵送により配布後、回答用紙を返信用封筒にて回収。

4 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. グラフは原則として回答者の比率(百分率)で表現しています。
2. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数を示しています。
3. 百分率による集計では、回答者数を100.0%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
4. 複数回答の場合、百分率の合計が100.0%を超える場合があります。

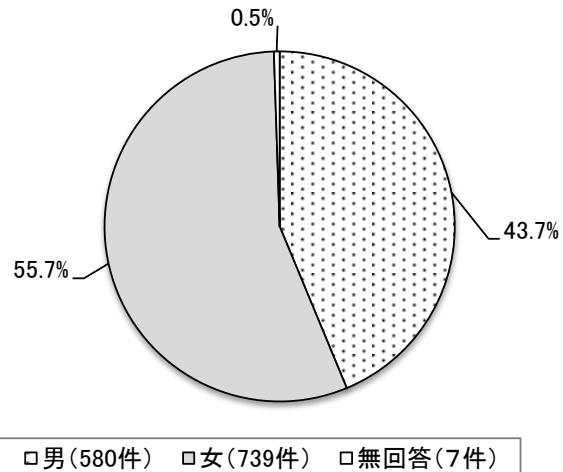
Ⅱ 市民アンケート調査結果(あなた自身のことと暮らしについて)

問1 あなた自身のことについて、おたずねします。

①性別

性別をみると、「男性」43.7%「女性」55.7%となっており、女性の方が多くなっています。

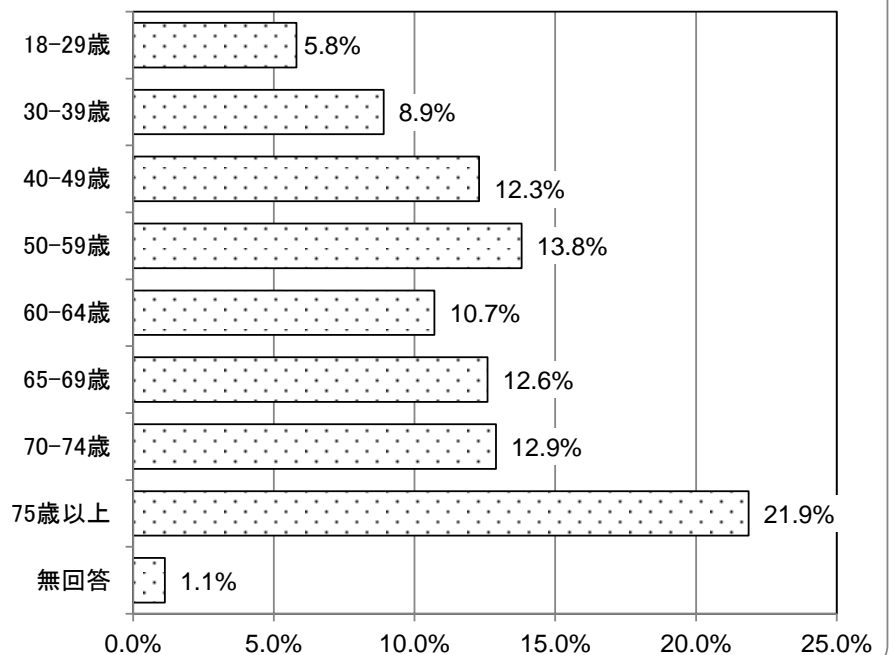
問1 ①性別(n=1,326)



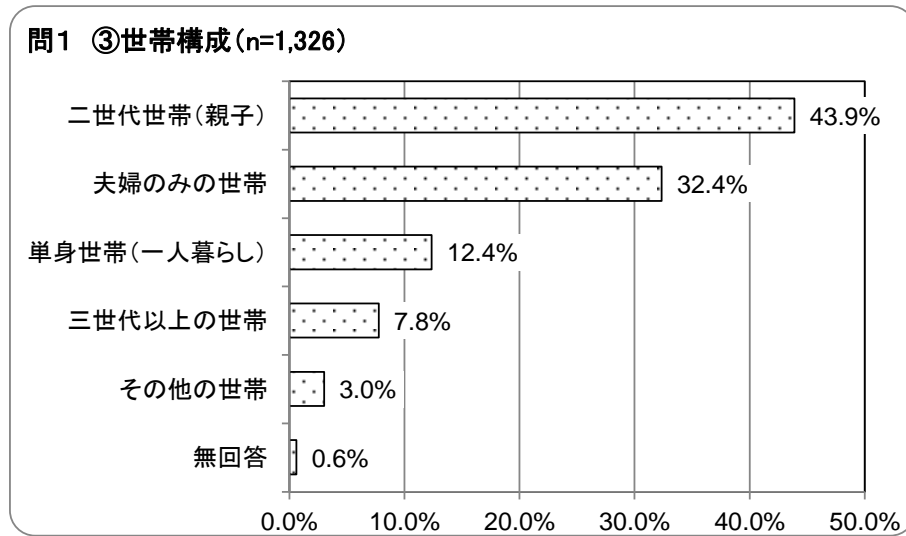
②年齢

年齢をみると、「75歳以上」が21.9%と最も割合が高く、次いで「50-59歳」13.8%、「70-74歳」12.9%、「65-69歳」12.6%、「40-49歳」12.3%の順となっています。

問1 ②年齢(n=1,326)

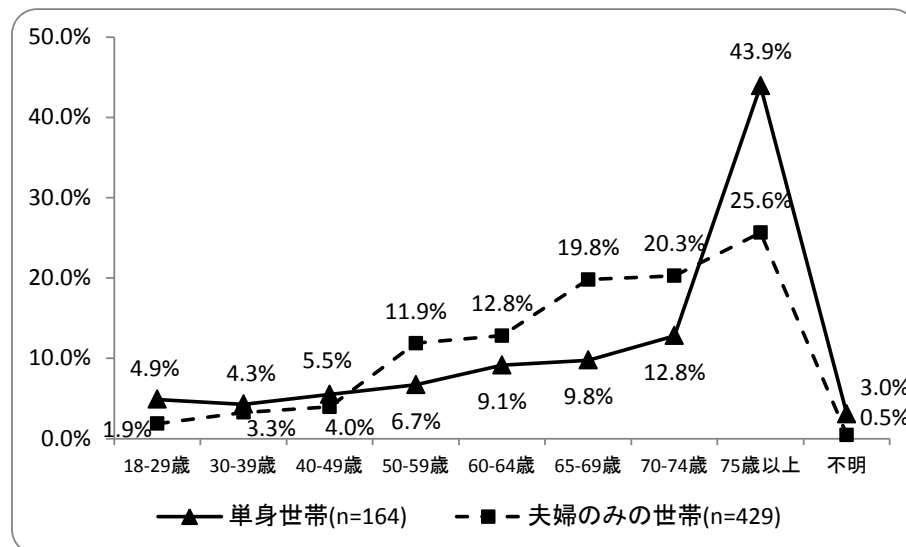


③世帯構成

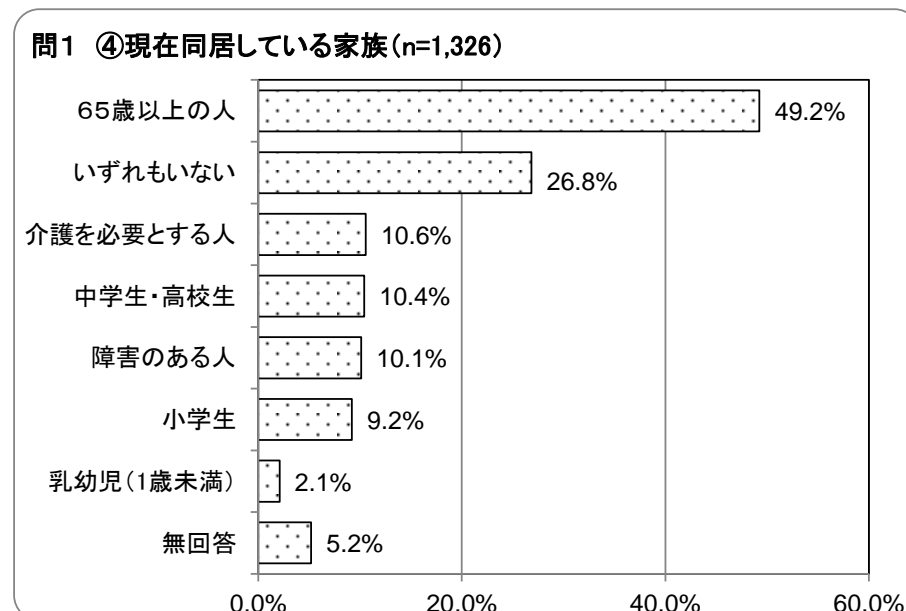


世帯構成をみると、「二世帯世帯(親子)」が 43.9%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみの世帯」32.4%、「単身世帯(一人暮らし)」12.4%、「三世帯以上の世帯」7.8%の順となっています。

また、単身世帯及び夫婦のみの世帯を年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、75歳以上の割合が最も高くなっています。



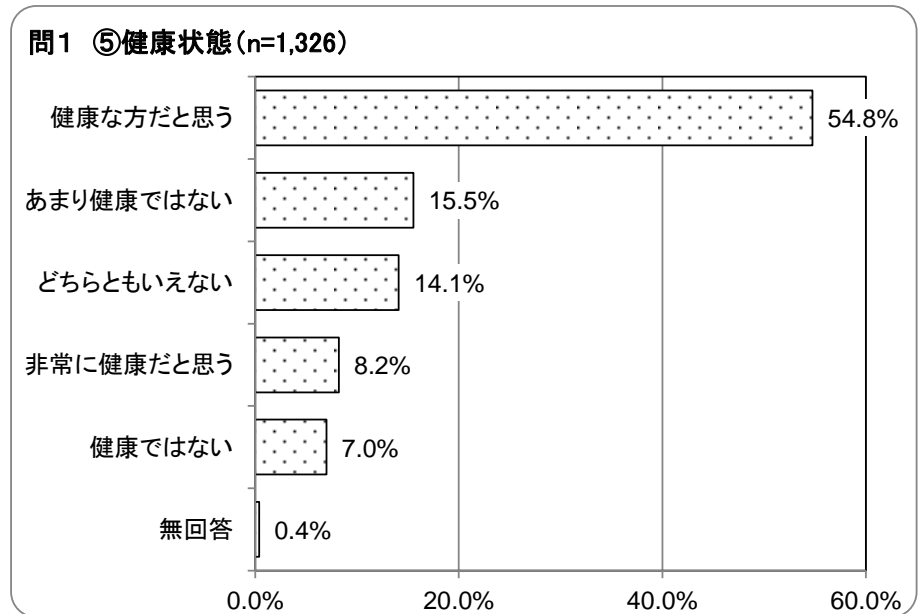
④同居している家族



現在同居している家族をみると、「65歳以上の人」が 49.2%と最も割合が高く、次いで「いずれもない」26.8%、「介護を必要とする人」10.6%、「中学生・高校生」10.4%の順となっています。

⑤健康状態について

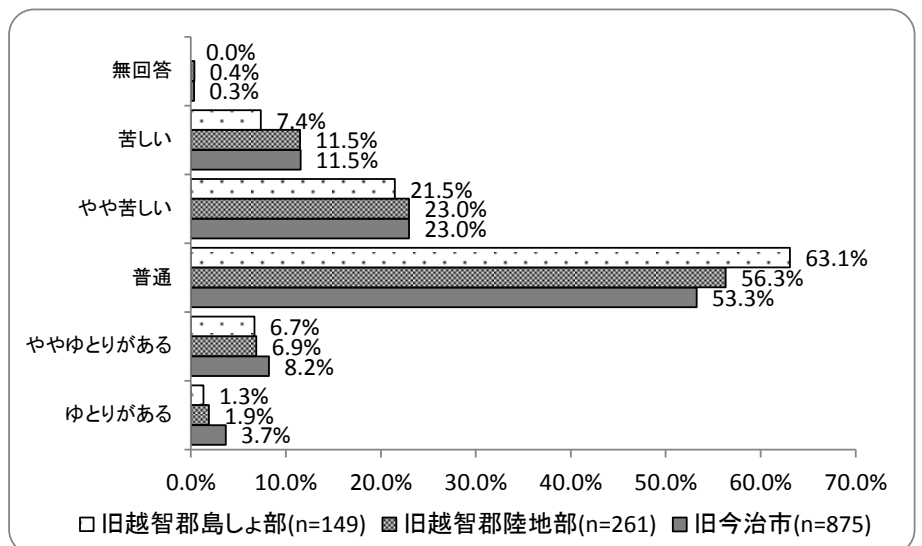
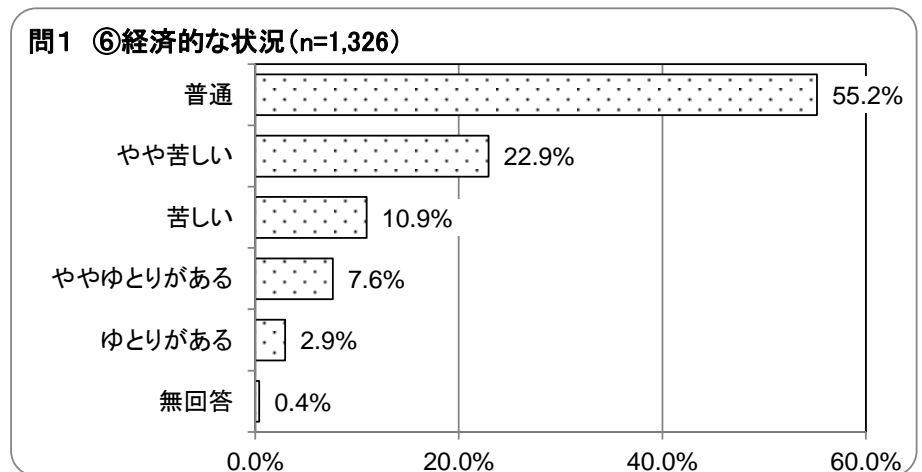
健康状態をみると、「健康な方だと思う」が 54.8%と最も割合が高く、次いで「あまり健康ではない」15.5%、「どちらともいえない」14.1%、「非常に健康だと思う」8.2%の順となっています。



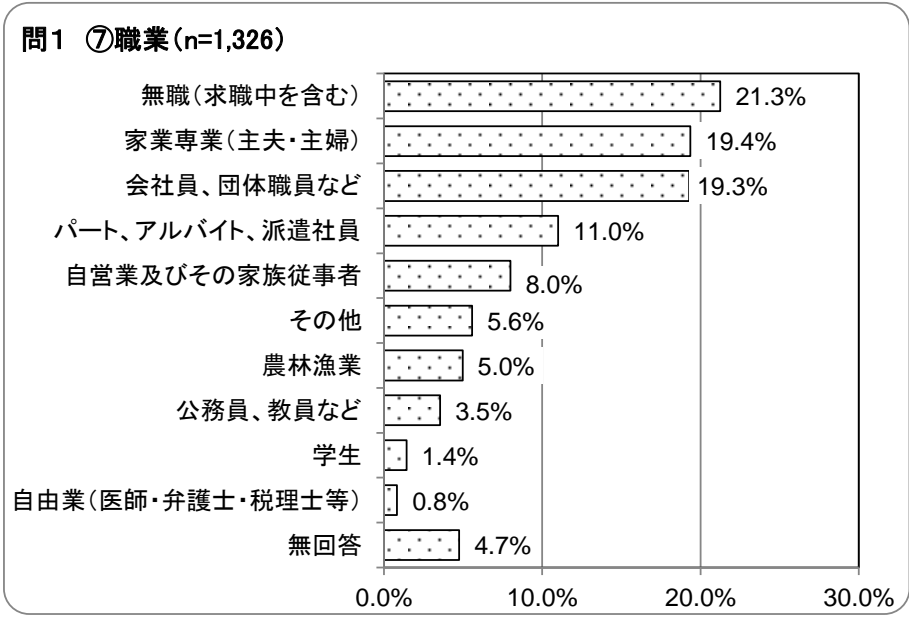
⑥現在の暮らしの経済状況について

現在の暮らしの経済状況をみると、「普通」が 55.2%と最も割合が高く、次いで「やや苦しい」22.9%、「苦しい」10.9%、「ややゆとりがある」7.6%の順となっています。

また地域別にみると、旧今治市において「ゆとりがある」割合が他の地区より僅かに高く、旧越智郡島しょ部において「苦しい」割合が他の地区より僅かに低くなっています。

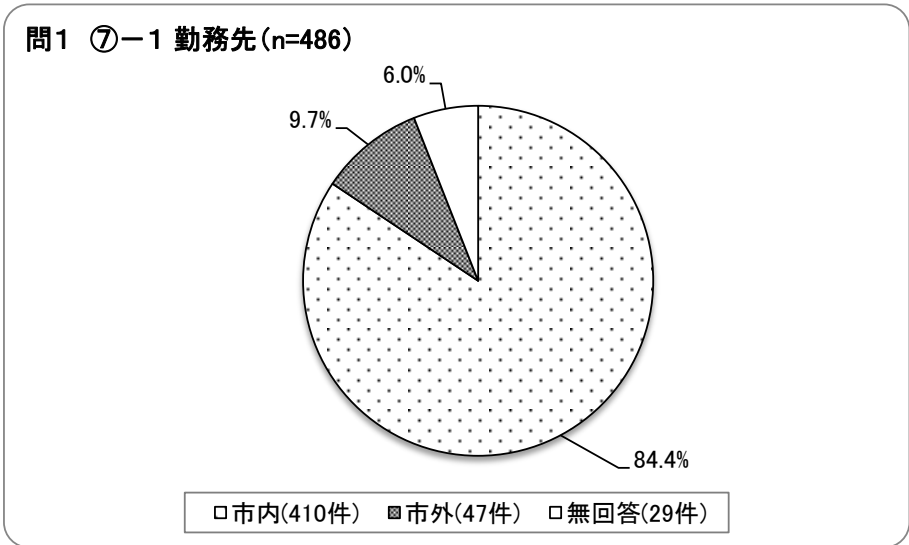


⑦職業について

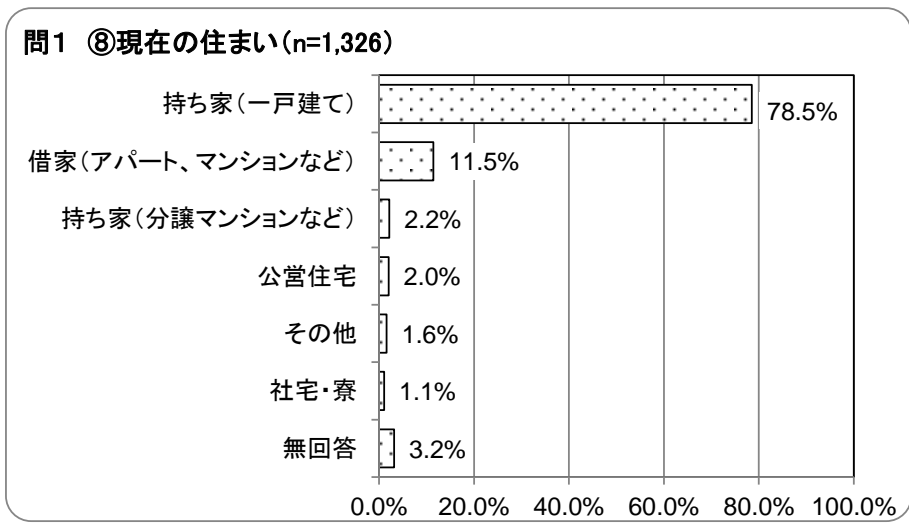


職業をみると、「無職(求職中を含む)」が 21.3%と最も割合が高く、次いで「家業専業(主夫・主婦)」19.4%、「会社員、団体職員など」19.3%、「パート、アルバイト、派遣社員」11.0%の順となっています。

また勤務先をみると、「市内」が 84.4%、「市外」が 9.7%となっています。



⑧現在の住まい



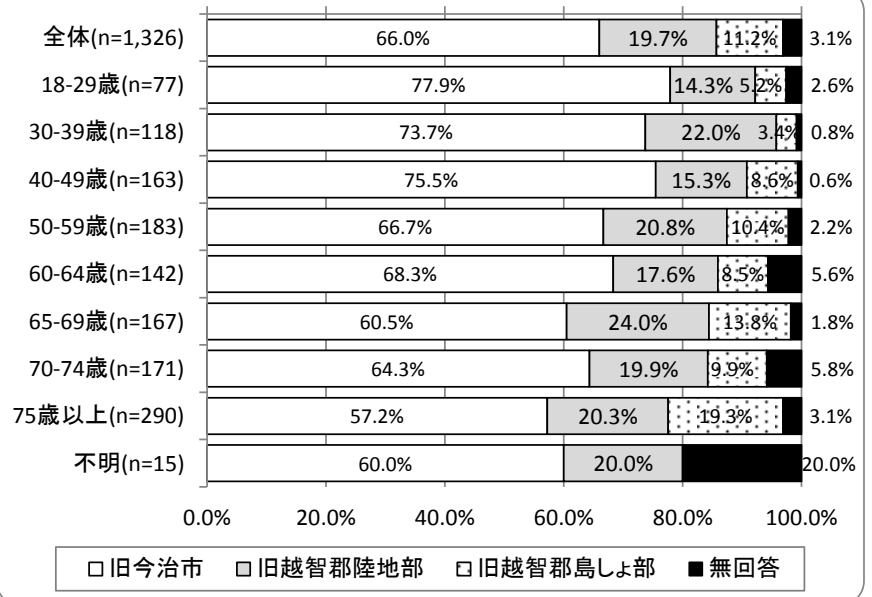
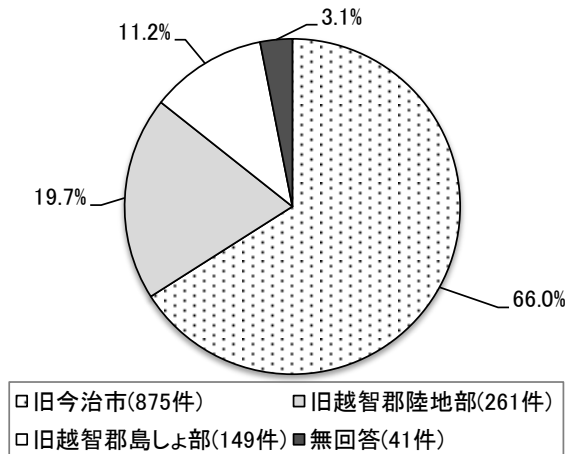
現在の住まいをみると、「持ち家(一戸建て)」が 78.5%と最も割合が高く、次いで「借家(アパート、マンションなど)」11.5%、「持ち家(分譲マンションなど)」2.2%、「公営住宅」2.0%の順となっています。

⑨現在のお住まいの地区

現在のお住まいの地区をみると、「旧今治市」が66.0%と最も割合が高く、次いで「旧越智郡陸地部」19.7%、「旧越智郡島しょ部」11.2%の順となっています。

年齢別にみると、旧越智郡島しょ部で「75歳以上」の割合が他の年齢層と比較して高くなっています。

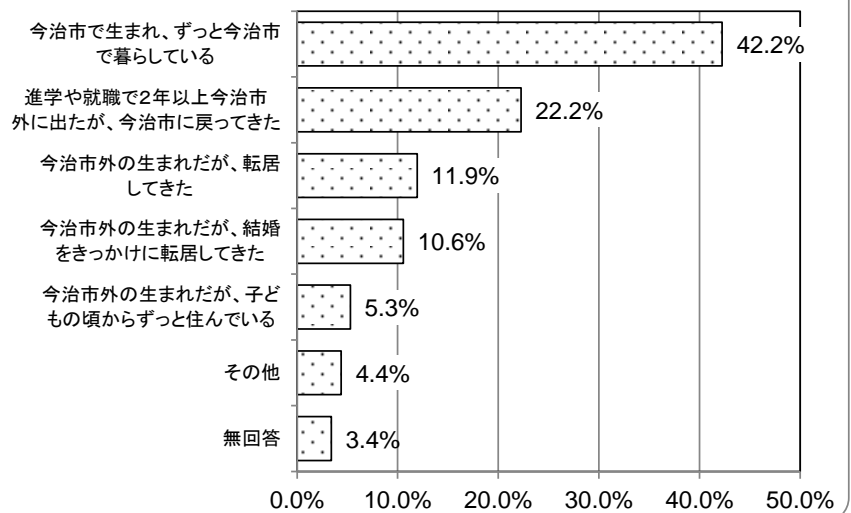
問1 ⑨現在お住まいの地区 (n=1,326)



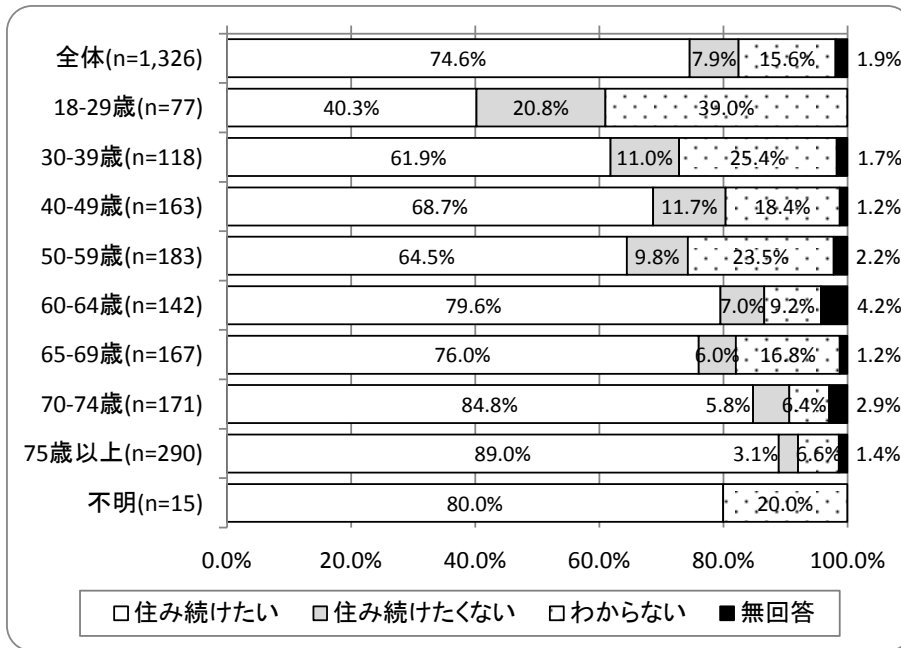
⑩転居等について

転居等についてみると、「今治市で生まれ、ずっと今治市で暮らしている」が42.2%と最も割合が高く、次いで「進学や就職で2年以上今治市外に出たが、今治市に戻ってきた」22.2%、「今治市外の生まれだが、転居してきた」11.9%、「今治市外の生まれだが、結婚をきっかけに転居してきた」10.6%、「今治市外の生まれだが、子どもの頃からずっと住んでいる」5.3%、「その他」4.4%、「無回答」3.4%の順となっています。

問1 ⑩転居等について (n=1,326)



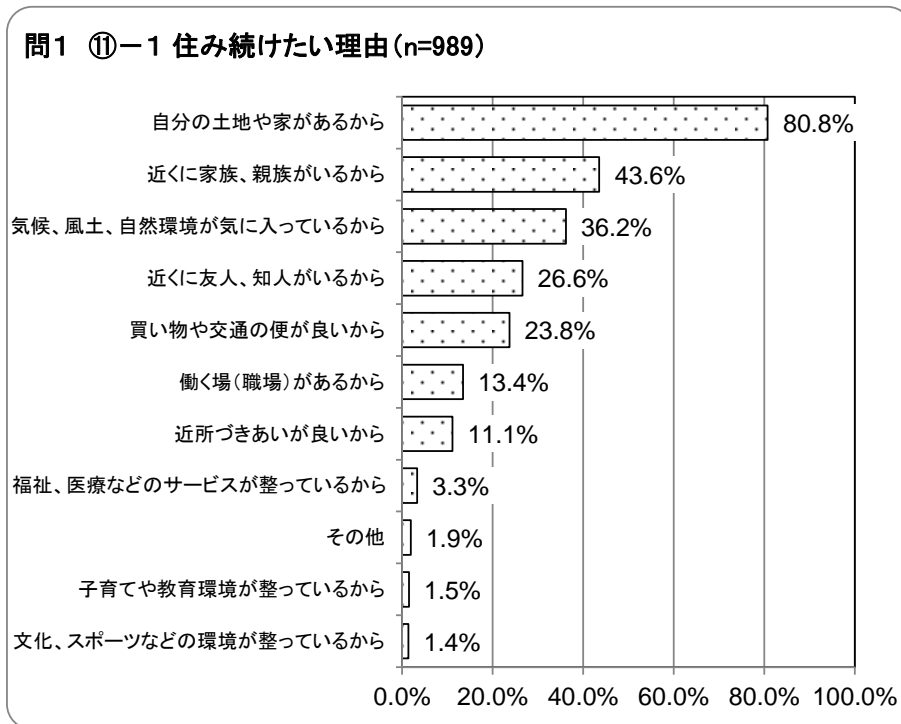
①現在の地区に住み続けたいと思うか



現在の地区に住み続けたいかをみると、全体では「住み続けたい」が74.6%と最も割合が高く、次いで「わからない」15.6%、「住み続けたくない」7.9%の順となっています。

年齢別にみると、18-29歳では「住み続けたい」40.3%となっており、他の年齢層と比較して割合が低くなっています。

①-1 住み続けたい理由

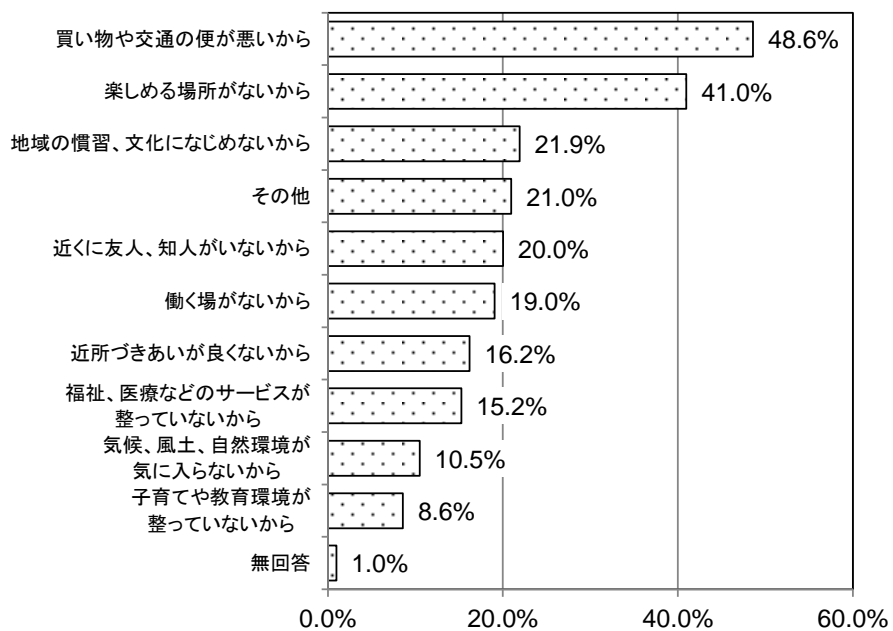


現在の地区に住み続けたい理由をみると、「自分の土地や家があるから」が80.8%と最も割合が高く、次いで「近くに家族、親族がいるから」43.6%、「気候、風土、自然環境が気に入っているから」36.2%、「近くに友人、知人がいるから」26.6%、「買い物や交通の便が良いから」23.8%の順となっています。

⑪-2 住み続けたくない理由

現在の地区に住み続けたくない理由をみると、「買い物や交通の便が悪いから」が48.6%と最も割合が高く、次いで「楽しめる場所がないから」41.0%、「地域の慣習、文化になじめないから」21.9%の順となっています。

問1 ⑪-2 住み続けたくない理由(n=105)

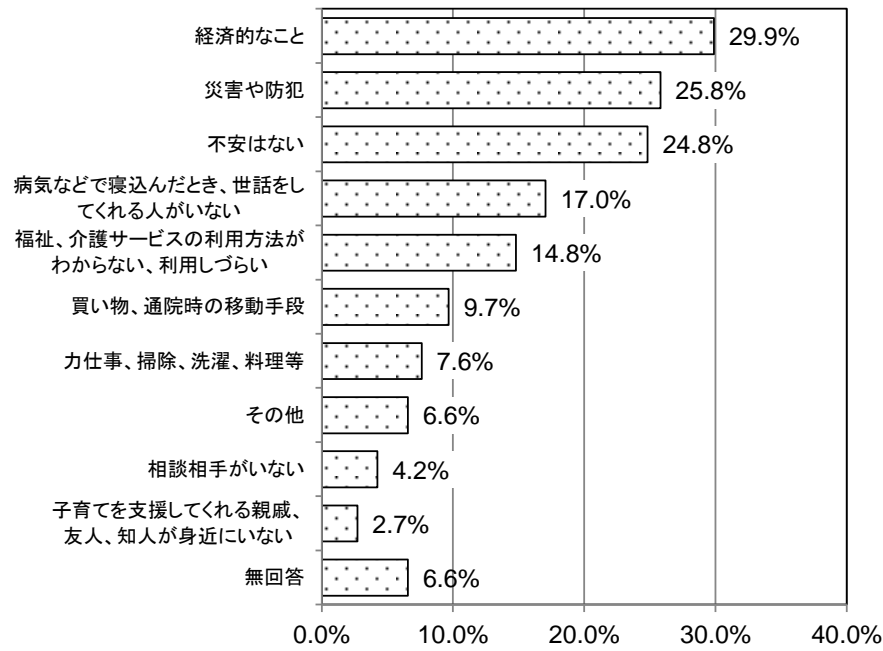


<その他の意見(抜粋)>

都会に比べて便利ではない、一人の生活に自信がない、慣れ親しんだ我家で暮したい、交通が不便 等

問2 日常生活や福祉・医療のことで困っていることや不安なことについて

問2 日常生活等で困っていること、不安なこと(n=1,326)



日常生活や福祉・医療のことで困っていることや不安なことについてみると、「経済的なこと」が29.9%と最も割合が高く、次いで「災害や防犯」25.8%、「不安はない」24.8%、「病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいない」17.0%、「福祉、介護サービスの利用方法がわからない、利用しづらい」14.8%の順となっています。

地区別でみると、旧越智郡島しょ部において「買い物、通院時の移動手段」が他の地区より割合が高くなっています。

また、世帯構成別では単身世帯(一人暮らし)において「病気などで寝込んだとき、世話を

してくれる人がいない」が他の世帯構成と比較して割合が高くなっています。

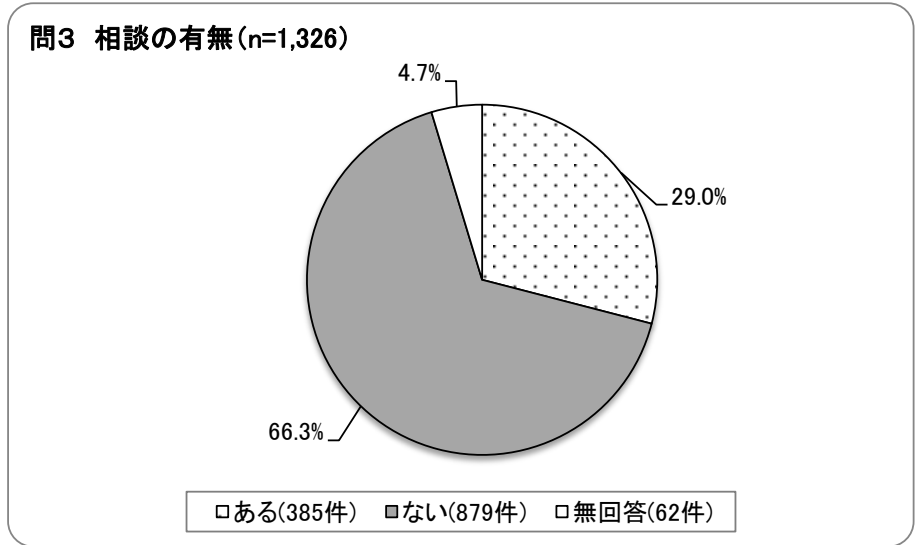
<その他の意見(抜粋)>

現時点ではない、橋代が高いので通院とかの時に不安、地元の医師が不安、治療費 等

属性	区分	全体	病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいない	子育てを支援してくれる親戚、友人、知人が身近にいない	災害や防犯	相談相手がない	福祉、介護サービスの利用方法がわからない、利用しづらい	経済的なこと	力仕事、掃除、洗濯、料理等	買い物、通院時の移動手段	不安はない	その他	無回答
地区別	市全体	1,285	217	35	336	53	191	385	98	123	326	86	71
	旧今治市	875	151	30	223	40	136	275	56	66	221	50	48
	旧越智郡陸地部	261	36	5	74	5	40	78	23	25	69	23	11
	旧越智郡島しょ部	149	30	0	39	8	15	32	19	32	36	13	12
	不明	41	9	1	6	3	5	11	3	5	3	1	16
世帯構成	単身世帯(一人暮らし)	164	79	3	34	13	26	40	20	26	25	11	14
	夫婦のみの世帯	429	57	7	105	16	57	103	25	50	120	38	28
	二世帯世帯(親子)	582	78	24	166	23	92	201	39	40	146	30	37
	三世帯以上の世帯	103	5	2	28	3	11	38	11	8	28	2	6
	その他の世帯	40	7	0	9	1	8	12	6	4	5	5	2
	不明	8	0	0	0	0	2	2	0	0	5	1	0

問3 日常生活や福祉・医療のことで相談されたことについて

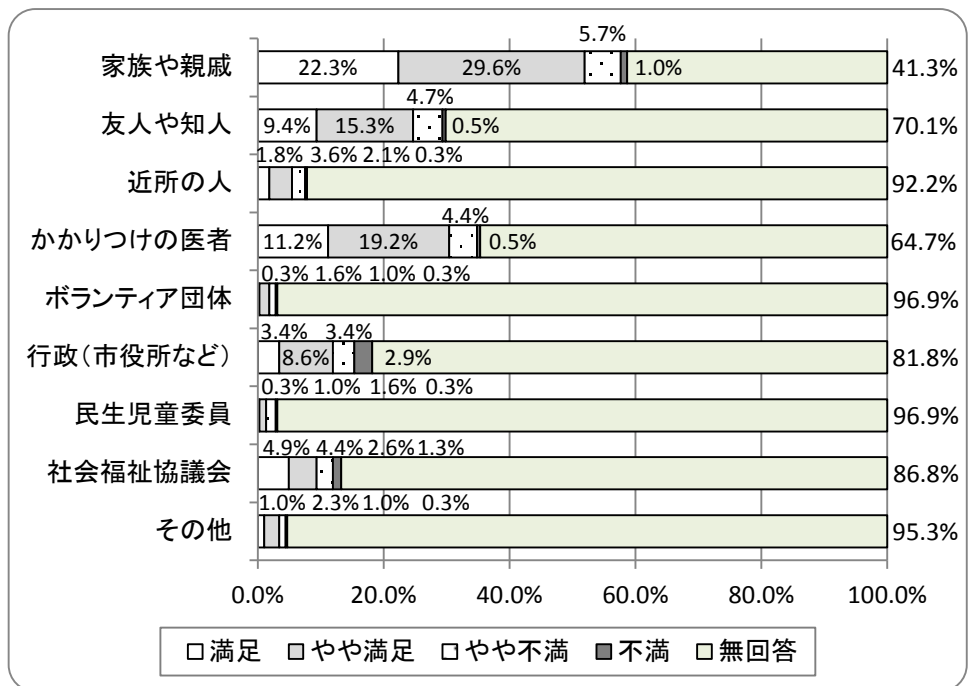
日常生活や福祉・医療のことで相談されたことについてみると、「ない」は66.3%、「ある」は29.0%となっています。



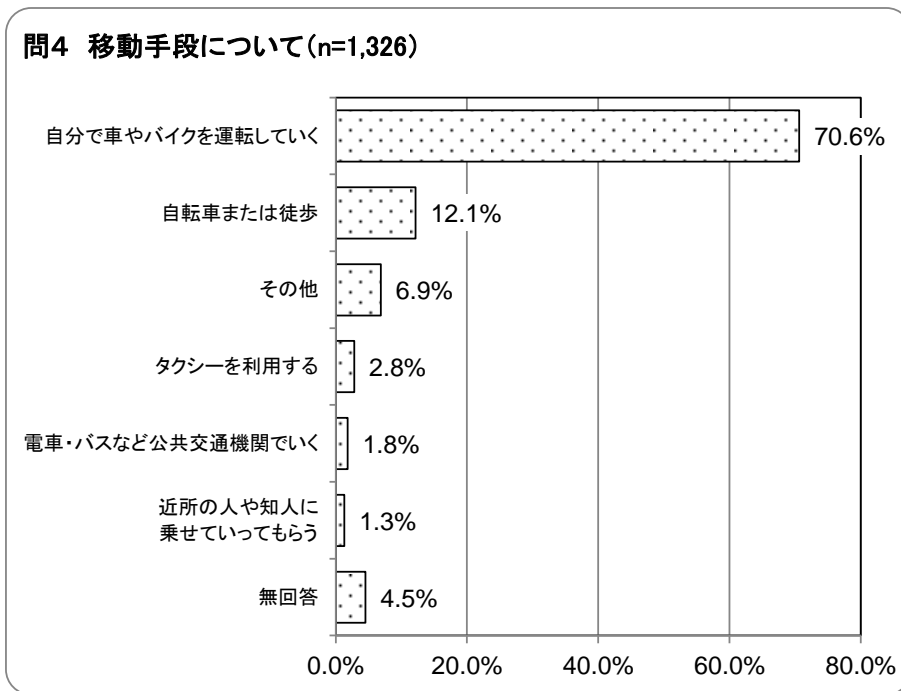
問3-1 相談相手、相談した際の満足度について

相談相手についてみると「家族や親戚」、「かかりつけの医者」、「友人や知人」、「行政(市役所など)」の順に多くなっています。

また、相談した際の満足度の高い項目をみると、「家族や親戚」22.3%、「かかりつけの医者」11.2%、「友人や知人」9.4%となっています。



問4 買い物や病院などへ行く時の移動手段について



買い物や病院などへ行く時の移動手段についてみると、「自分で車やバイクを運転していく」が70.6%と最も割合が高く、次いで「自転車または徒歩」12.1%、「その他」6.9%、「タクシーを利用する」2.8%の順となっています。

地区別に見ると旧今治市、世帯構成別に見ると単身世帯(一人暮らし)において「自転車または徒歩」の割合が他の項目と比較して高くなっています。

<その他の意見(抜粋)>

家族に連れて行ってもらう、老人ホームの車、介護タクシー 等

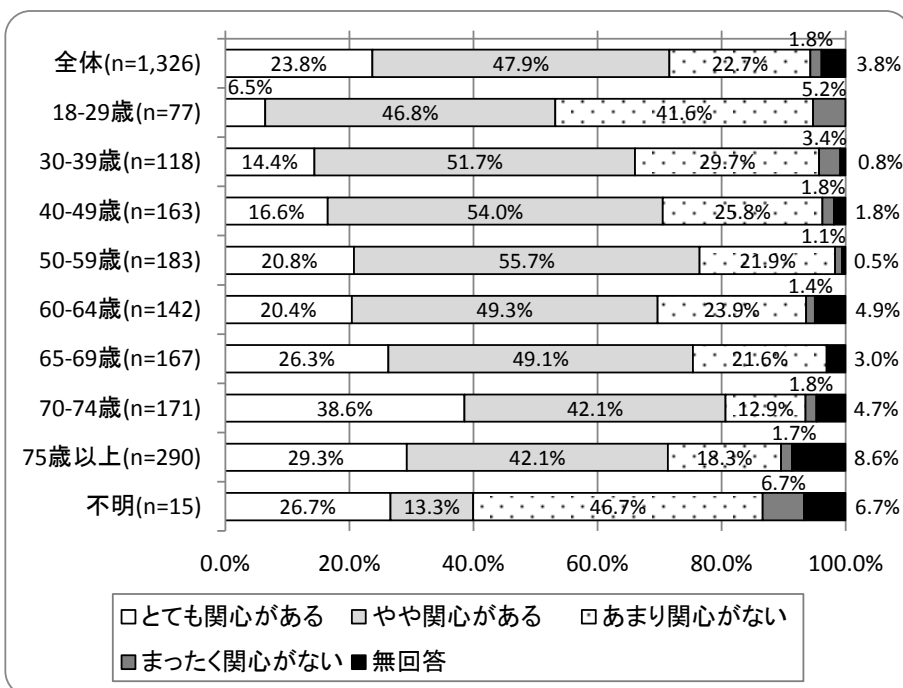
属性	区分	全体	自転車または徒歩	自分で車やバイクを運転していく	近所の人や知人に乗せていってもら	電車・バスなど公共交通機関でいく	タクシーを利用する	その他	無回答
地区別	市全体	1,285	155	913	17	24	37	90	49
		100.0%	12.1%	71.1%	1.3%	1.9%	2.9%	7.0%	3.8%
	旧今治市	875	130	606	9	13	28	53	36
		100.0%	14.9%	69.3%	1.0%	1.5%	3.2%	6.1%	4.1%
	旧越智郡陸地部	261	11	205	5	6	4	25	5
	100.0%	4.2%	78.5%	1.9%	2.3%	1.5%	9.6%	1.9%	
	旧越智郡島しょ部	149	14	102	3	5	5	12	8
	100.0%	9.4%	68.5%	2.0%	3.4%	3.4%	8.1%	5.4%	
	不明	41	6	23	0	0	0	1	11
	100.0%	14.6%	56.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	26.8%	
世帯構成	単身世帯(一人暮らし)	164	38	71	7	7	12	13	16
		100.0%	23.2%	43.3%	4.3%	4.3%	7.3%	7.9%	9.8%
	夫婦のみの世帯	429	54	312	3	9	9	24	18
		100.0%	12.6%	72.7%	0.7%	2.1%	2.1%	5.6%	4.2%
	二世帯世帯(親子)	582	59	441	4	7	9	40	22
		100.0%	10.1%	75.8%	0.7%	1.2%	1.5%	6.9%	3.8%
	三世帯以上の世帯	103	5	86	2	1	2	6	1
	100.0%	4.9%	83.5%	1.9%	1.0%	1.9%	5.8%	1.0%	
	その他の世帯	40	4	22	1	0	4	6	3
	100.0%	10.0%	55.0%	2.5%	0.0%	10.0%	15.0%	7.5%	
	不明	8	1	4	0	0	1	2	0
	100.0%	12.5%	50.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	

Ⅲ 市民アンケート調査結果(福祉について)

問5 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか

「福祉」への関心についてみると、全体では「とても感心がある」が23.8%、「やや関心がある」47.9%と7割以上で関心があるとなっています。

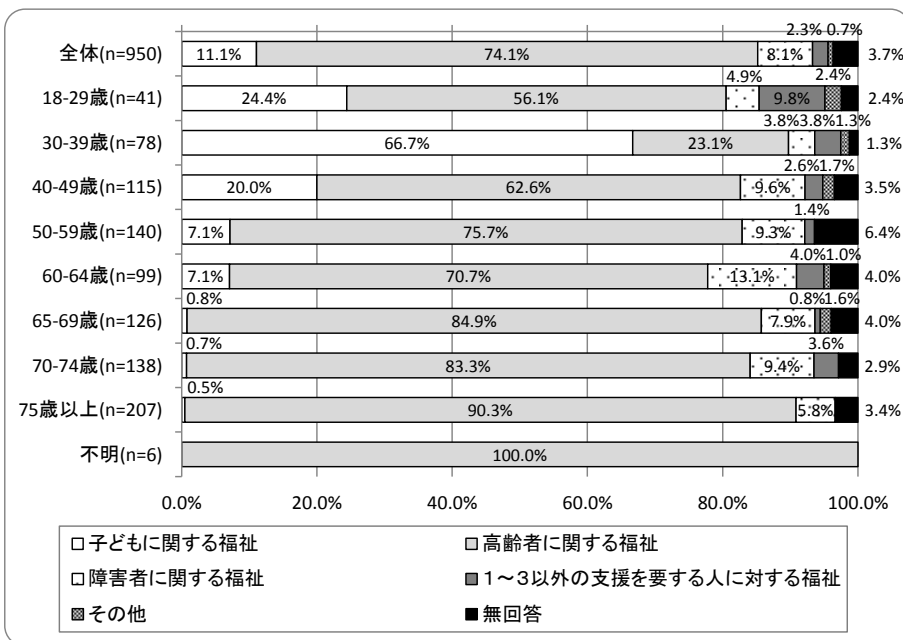
年齢別にみると18-29歳で「とても関心がある」割合は他の年齢層と比較して低くなっていますが、関心がある割合は5割を超えています。



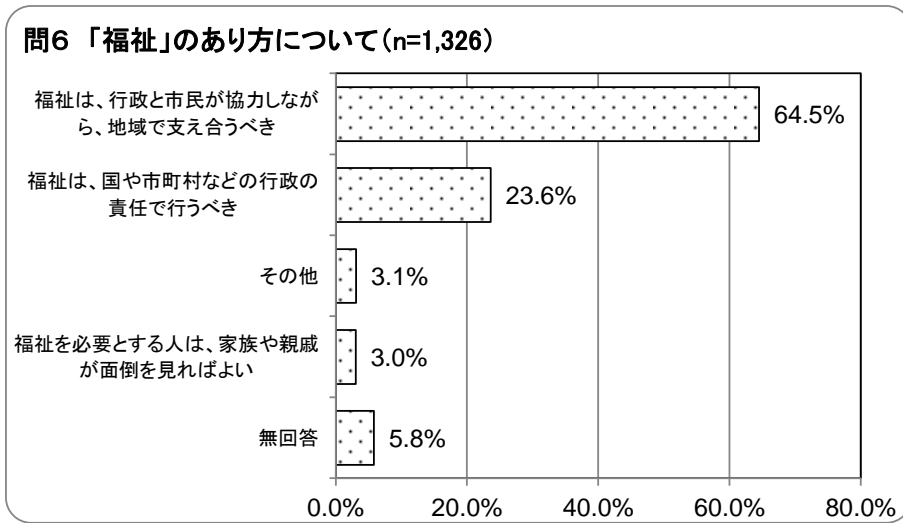
問5-1 「福祉」の関心がある分野

「福祉」への関心のある分野についてみると、全体では「高齢者に関する福祉」が74.1%と最も割合が高く、次いで「子どもに関する福祉」11.1%、「障害者に関する福祉」8.1%の順となっています。

年齢別にみると、18-29歳、30-39歳、40-49歳で「子どもに関する福祉」の割合が他の年齢層と比較して高くなっています。

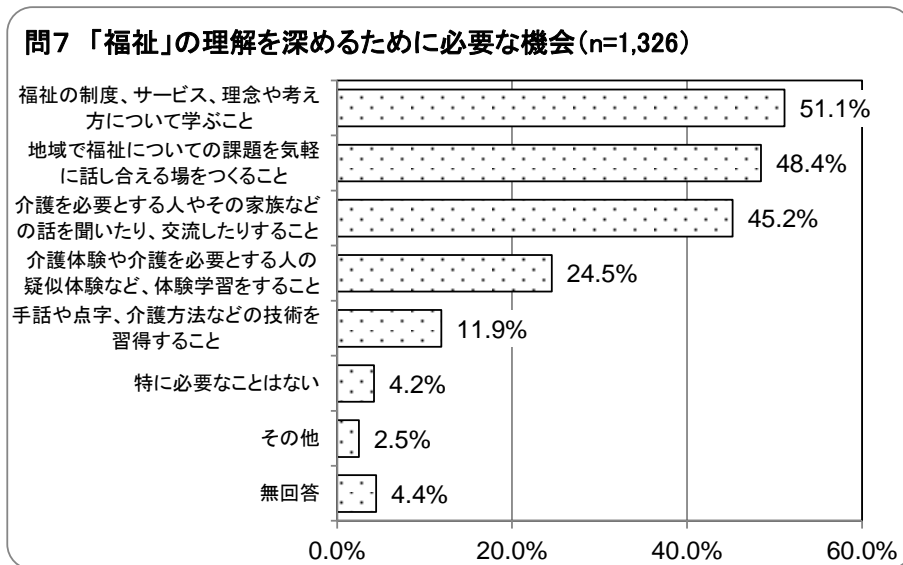


問6 「福祉」のあり方は、どのようであるべきだと思いますか



「福祉」のあり方についてみると、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うべき」が64.5%と最も割合が高く、次いで「福祉は、国や市町村などの行政の責任で行うべき」23.6%、「その他」3.1%の順となっています。

問7 「福祉」について理解を深めるために必要と思う機会について



「福祉」について理解を深めるために必要と思う機会についてみると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方について学ぶこと」が51.1%と最も割合が高く、次いで「地域で福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」48.4%、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」45.2%の順となっています。

年齢階層にみると、18-29歳では「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」及び「地域で福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」が最も割合が高く、70歳以上では「地域で福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」の割合が高くなっています。

属性	区分	全体	福祉の理解を深めるために必要な機会							
			福祉の制度、サービス、理念や考え方について学ぶこと	介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること	介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること	手話や点字、介護方法などの技術を習得すること	地域で福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること	その他	特に必要なことはない	無回答
年齢階層別	18-29歳	77	41	22	43	13	43	3	1	1
		100.0%	53.2%	28.6%	55.8%	16.9%	55.8%	3.9%	1.3%	1.3%
	30-39歳	118	62	36	53	22	49	4	7	3
		100.0%	52.5%	30.5%	44.9%	18.6%	41.5%	3.4%	5.9%	2.5%
	40-49歳	163	85	50	72	24	81	12	7	5
		100.0%	52.1%	30.7%	44.2%	14.7%	49.7%	7.4%	4.3%	3.1%
	50-59歳	183	114	54	87	28	98	4	4	1
		100.0%	62.3%	29.5%	47.5%	15.3%	53.6%	2.2%	2.2%	0.5%
	60-64歳	142	81	31	59	14	64	3	3	6
		100.0%	57.0%	21.8%	41.5%	9.9%	45.1%	2.1%	2.1%	4.2%
65-69歳	167	86	30	69	16	80	1	11	2	
	100.0%	51.5%	18.0%	41.3%	9.6%	47.9%	0.6%	6.6%	1.2%	
70-74歳	171	79	36	77	14	91	1	6	12	
	100.0%	46.2%	21.1%	45.0%	8.2%	53.2%	0.6%	3.5%	7.0%	
75歳以上	290	122	63	134	25	135	5	16	27	
	100.0%	42.1%	21.7%	46.2%	8.6%	46.6%	1.7%	5.5%	9.3%	
不明	15	8	3	5	2	1	0	1	2	
	100.0%	53.3%	20.0%	33.3%	13.3%	6.7%	0.0%	6.7%	13.3%	

Ⅳ 市民アンケート調査結果(お住まいの地域について)

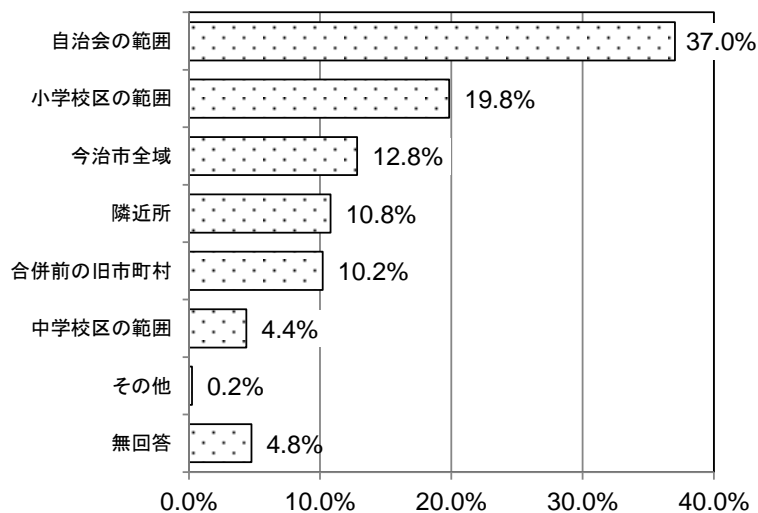
問8 「地域」という言葉を聞いて思い浮かべる範囲

「地域」という言葉を聞いて思い浮かべる範囲についてみると、全体では「自治会の範囲」が37.0%と最も割合が高く、次いで「小学校区の範囲」19.8%、「今治市全域」12.8%、「隣近所」10.8%の順となっています。

年齢別にみると、18-29歳では「今治市全域」、30-39歳及び40-49歳では「小学校区の範囲」の割合が高くなっています。

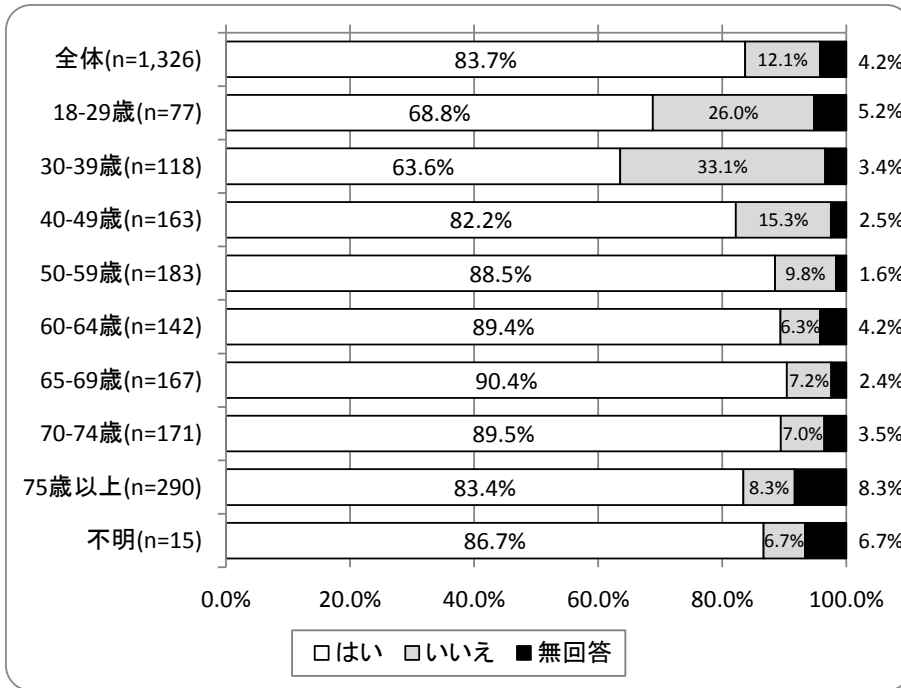
また地区別でみると、旧越智郡陸地部、旧越智郡島しょ部において「合併前の旧市町村」の割合が、旧今治市と比較して高くなっています。

問8 「地域」という言葉を聞いて思い浮かべる範囲 (n=1,326)



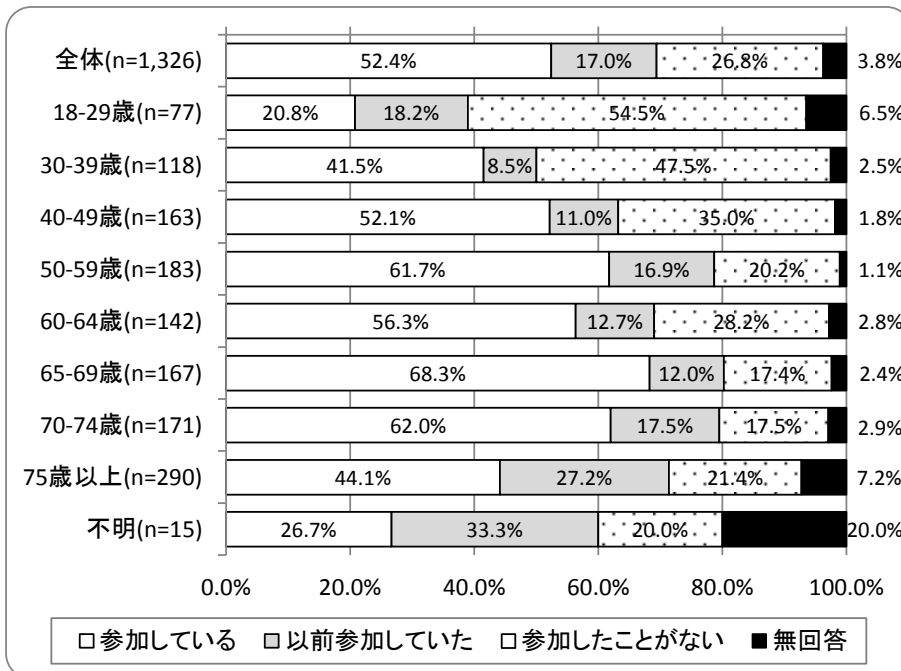
属性	区分	全体	隣近所	自治会の範囲	小学校区の範囲	中学校区の範囲	合併前の旧市町村	今治市全域	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	77	9	13	17	7	5	21	0	5
		100.0%	11.7%	16.9%	22.1%	9.1%	6.5%	27.3%	0.0%	6.5%
	30-39歳	118	9	30	46	6	8	16	0	3
		100.0%	7.6%	25.4%	39.0%	5.1%	6.8%	13.6%	0.0%	2.5%
	40-49歳	163	14	43	45	13	18	27	0	3
		100.0%	8.6%	26.4%	27.6%	8.0%	11.0%	16.6%	0.0%	1.8%
	50-59歳	183	9	67	41	18	20	25	0	3
		100.0%	4.9%	36.6%	22.4%	9.8%	10.9%	13.7%	0.0%	1.6%
	60-64歳	142	7	68	23	4	16	18	0	6
	100.0%	4.9%	47.9%	16.2%	2.8%	11.3%	12.7%	0.0%	4.2%	
65-69歳	167	13	86	28	5	19	11	1	4	
	100.0%	7.8%	51.5%	16.8%	3.0%	11.4%	6.6%	0.6%	2.4%	
70-74歳	171	25	70	22	2	17	27	0	8	
	100.0%	14.6%	40.9%	12.9%	1.2%	9.9%	15.8%	0.0%	4.7%	
75歳以上	290	53	111	36	3	30	25	2	30	
	100.0%	18.3%	38.3%	12.4%	1.0%	10.3%	8.6%	0.7%	10.3%	
不明	15	4	3	5	0	2	0	0	1	
	100.0%	26.7%	20.0%	33.3%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	6.7%	
地区別	市全体	1,285	141	477	258	58	129	166	3	53
		100.0%	11.0%	37.1%	20.1%	4.5%	10.0%	12.9%	0.2%	4.1%
	旧今治市	875	89	334	209	39	40	134	3	27
		100.0%	10.2%	38.2%	23.9%	4.5%	4.6%	15.3%	0.3%	3.1%
	旧越智郡陸地部	261	33	89	36	14	48	24	0	17
		100.0%	12.6%	34.1%	13.8%	5.4%	18.4%	9.2%	0.0%	6.5%
旧越智郡島しょ部	149	19	54	13	5	41	8	0	9	
	100.0%	12.8%	36.2%	8.7%	3.4%	27.5%	5.4%	0.0%	6.0%	
不明	41	2	14	5	0	6	4	0	10	
	100.0%	4.9%	34.1%	12.2%	0.0%	14.6%	9.8%	0.0%	24.4%	

問9 自治会への加入について



自治会への加入についてみると、全体では「はい」が83.7%、「いいえ」12.1%となっています。
 年齢別にみると、他の年齢層と比較して18-29歳及び30-39歳の加入割合が低くなっています。

問10 地域組織の活動への参加について

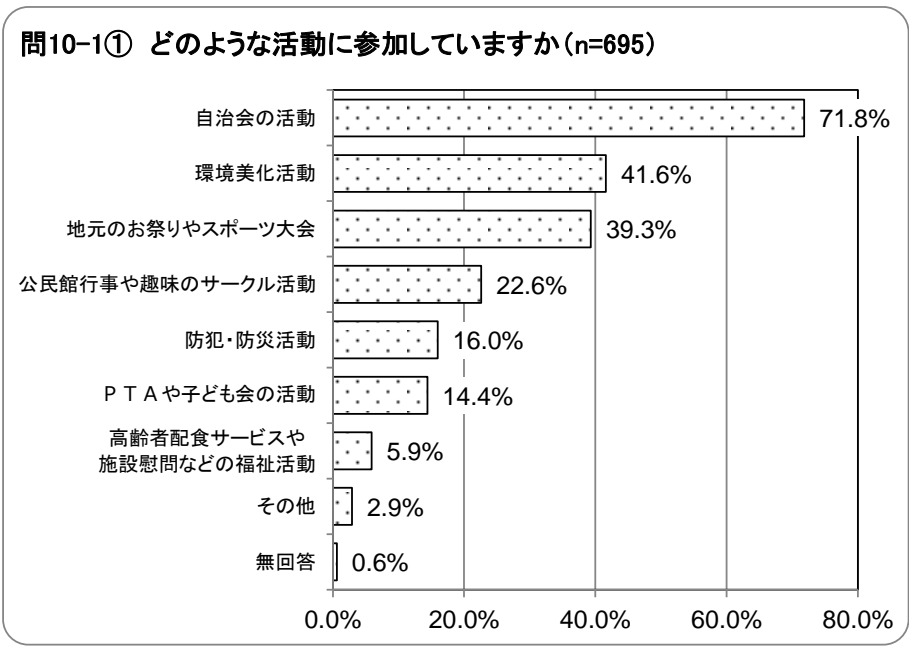


地域組織の活動への参加についてみると、全体では「参加している」が52.4%、「以前参加していた」17.0%、「参加したことがない」26.8%となっています。
 年齢別に「参加している」の状況を見ると、65-69歳で68.3%と最も割合が高く、次いで70-74歳62.0%、50-59歳61.7%、60-64歳56.3%、40-49歳52.1%の順となっています。

問10-1① どのような活動に参加していますか

参加している活動についてみると、「自治会の活動」が71.8%と最も割合が高く、次いで「環境美化活動」41.6%、「地元のお祭りやスポーツ大会」39.3%、「公民館行事や趣味のサークル活動」22.6%の順となっています。

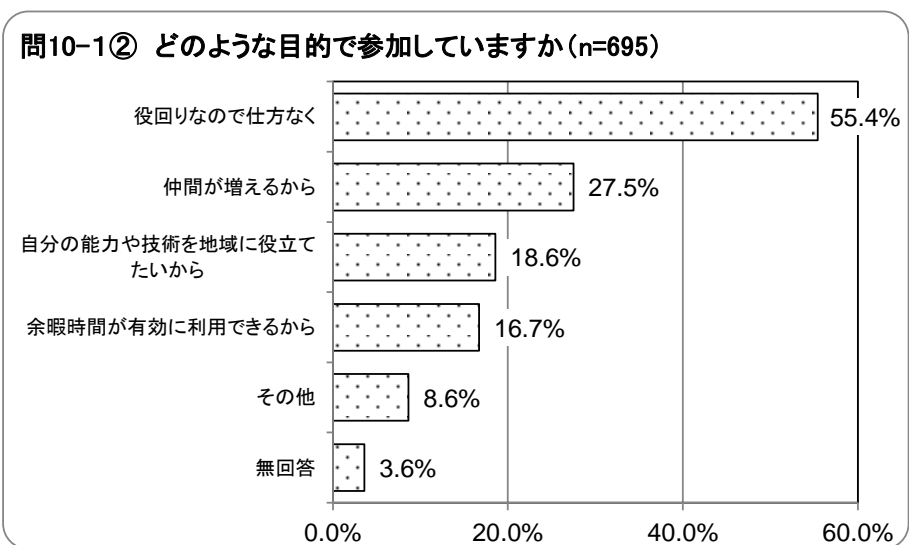
また地区別にみると、旧越智郡陸地部では「環境美化活動」、旧越智郡島しょ部では「環境美化活動」及び「地元のお祭りやスポーツ大会」の割合が高くなっています。



属性	区分	全体	自治会の活動	環境美化活動	P T A や子ども会の活動	高齢者配食サービスや施設慰問などの福祉活動	地元のお祭りやスポーツ大会	防犯・防災活動	公民館行事や趣味のサークル活動	その他	無回答
地区別	市全体	674	480	281	97	39	265	107	153	20	4
		100.0%	71.2%	41.7%	14.4%	5.8%	39.3%	15.9%	22.7%	3.0%	0.6%
	旧今治市	407	298	120	66	14	125	58	90	13	3
		100.0%	73.2%	29.5%	16.2%	3.4%	30.7%	14.3%	22.1%	3.2%	0.7%
	旧越智郡陸地部	165	113	103	18	15	78	27	44	2	1
		100.0%	68.5%	62.4%	10.9%	9.1%	47.3%	16.4%	26.7%	1.2%	0.6%
旧越智郡島しょ部	102	69	58	13	10	62	22	19	5	0	
	100.0%	67.6%	56.9%	12.7%	9.8%	60.8%	21.6%	18.6%	4.9%	0.0%	
不明	21	19	8	3	2	8	4	4	0	0	
	100.0%	90.5%	38.1%	14.3%	9.5%	38.1%	19.0%	19.0%	0.0%	0.0%	

問10-1② どのような目的で参加していますか

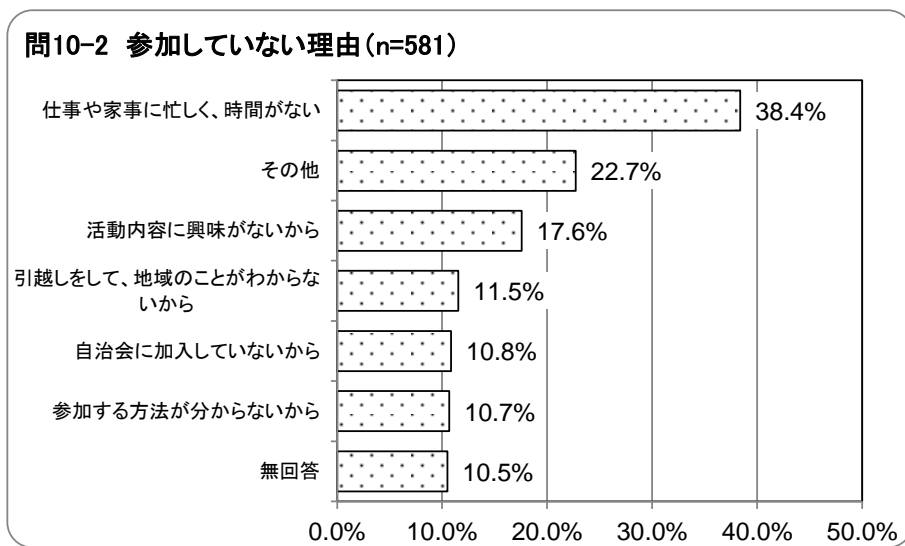
参加している目的についてみると、「役回りなので仕方なく」が55.4%と最も割合が高く、次いで「仲間が増えるから」27.5%、「自分の能力や技術を地域に役立てたいから」18.6%、「余暇時間が有効に利用できるから」16.7%の順となっています。



<その他の意見(抜粋)>

みんな参加しているから、コミュニケーションの為、地域の交流は必要だと思う 等

問10-2 現在参加していない理由、参加する上で支障となっていること



地域組織の活動に参加していない理由をみると、「仕事や家事に忙しく、時間がない」が38.4%と最も割合が高く、次いで「その他」22.7%、「活動内容に興味が無いから」17.6%、「引越しをして、地域のことがわからないから」11.5%の順となっています。

年齢別にみると、18-29歳及び30-39歳において「参加する方法がわからないから」、60-64歳において「活動内容に興味が無いから」が他の年齢層より割合が高くなっています。

いから」、60-64歳において「活動内容に興味が無いから」が他の年齢層より割合が高くなっています。

属性	区分	全体	仕事や家事に忙しく、時間がない	引越しをして、地域のことがわからないから	参加する方法がわからないから	自治会に加入していないから	活動内容に興味が無いから	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	56 100.0%	21 37.5%	17 30.4%	15 26.8%	8 14.3%	9 16.1%	10 17.9%	2 3.6%
	30-39歳	66 100.0%	41 62.1%	13 19.7%	14 21.2%	15 22.7%	9 13.6%	8 12.1%	5 7.6%
	40-49歳	75 100.0%	44 58.7%	8 10.7%	6 8.0%	13 17.3%	10 13.3%	11 14.7%	4 5.3%
	50-59歳	68 100.0%	36 52.9%	5 7.4%	6 8.8%	7 10.3%	13 19.1%	12 17.6%	3 4.4%
	60-64歳	58 100.0%	25 43.1%	6 10.3%	3 5.2%	4 6.9%	18 31.0%	9 15.5%	3 5.2%
	65-69歳	49 100.0%	20 40.8%	6 12.2%	1 2.0%	6 12.2%	12 24.5%	5 10.2%	6 12.2%
	70-74歳	60 100.0%	19 31.7%	5 8.3%	7 11.7%	5 8.3%	10 16.7%	12 20.0%	9 15.0%
	75歳以上	141 100.0%	16 11.3%	5 3.5%	9 6.4%	5 3.5%	20 14.2%	63 44.7%	28 19.9%
	不明	8 100.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%

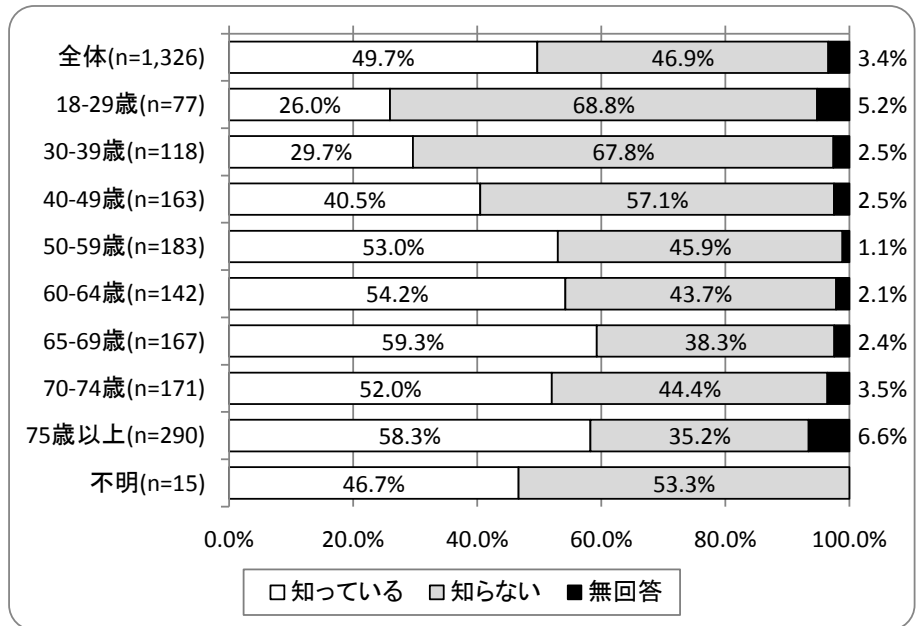
<その他の意見(抜粋)>

高齢のため、親が参加しているから、体調が良くないから、入院・入所中 等

問 11 民生児童委員の制度を知っていますか

民生児童委員の制度についてみると、全体では「知っている」49.7%、「知らない」46.9%となっています。

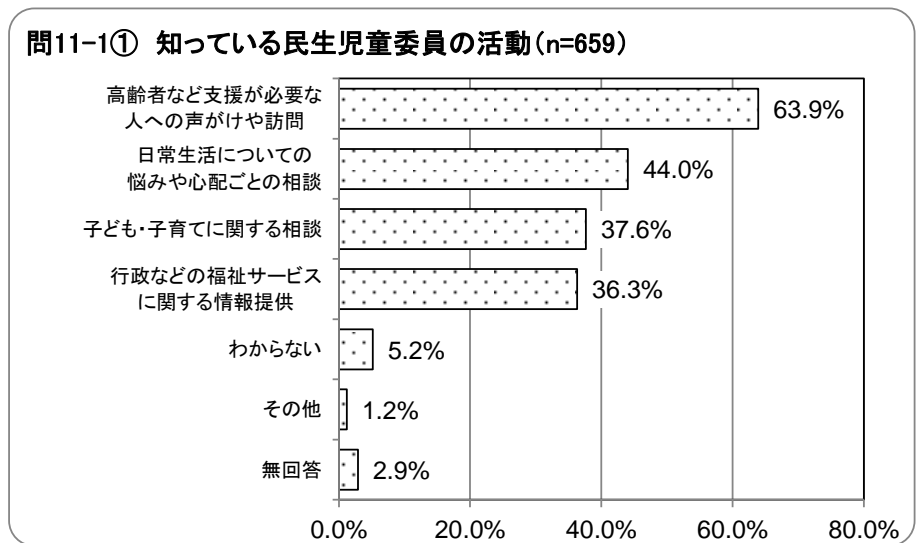
年齢別にみると、18-29歳及び30-39歳において他の年齢層より「知っている」割合が低くなっています。



問 11-1① 知っている民生児童委員の活動について

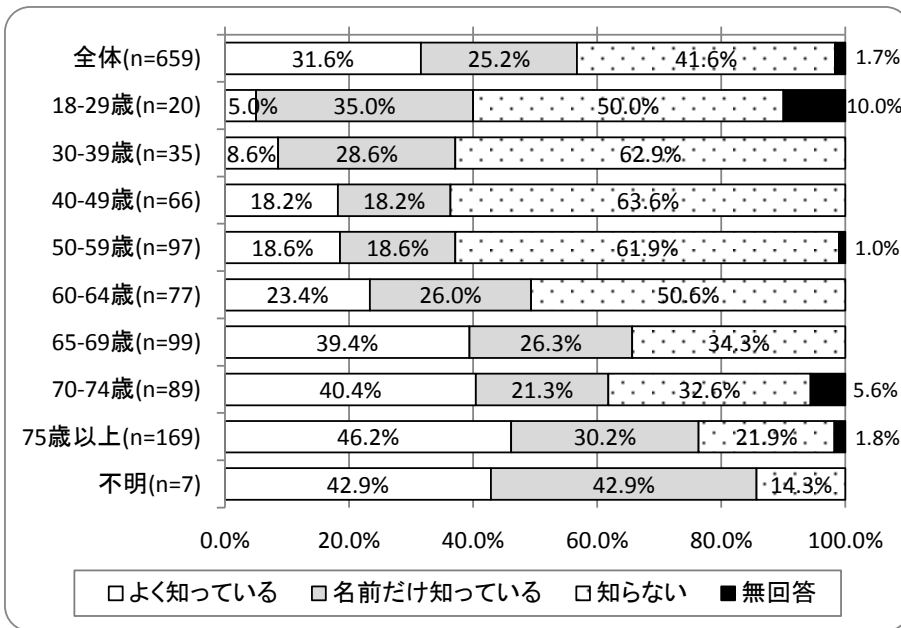
知っている民生児童委員の活動についてみると、「高齢者など支援が必要な人への声かけや訪問」が63.9%と最も割合が高く、次いで「日常生活についての悩みや心配ごとの相談」44.0%、「子ども・子育てに関する相談」37.6%の順となっています。

地区別にみると旧越智郡陸地部において「わからない」割合が他の地区と比較して僅かに高くなっています。



属性	区分	全体	問11-1① 知っている民生児童委員の活動(n=659)						
			日常生活についての悩みや心配ごとの相談	行政などの福祉サービスに関する情報提供	高齢者など支援が必要な人への声かけや訪問	子ども・子育てに関する相談	わからない	その他	無回答
地区別	市全体	636	280	231	406	242	33	6	19
		100.0%	44.0%	36.3%	63.8%	38.1%	5.2%	0.9%	3.0%
	旧今治市	412	165	149	266	156	17	5	12
		100.0%	40.0%	36.2%	64.6%	37.9%	4.1%	1.2%	2.9%
	旧越智郡陸地部	133	67	48	83	48	14	0	1
	100.0%	50.4%	36.1%	62.4%	36.1%	10.5%	0.0%	0.8%	
	旧越智郡島しょ部	91	48	34	57	38	2	1	6
	100.0%	52.7%	37.4%	62.6%	41.8%	2.2%	1.1%	6.6%	
	不明	23	10	8	15	6	1	2	0
	100.0%	43.5%	34.8%	65.2%	26.1%	4.3%	8.7%	0.0%	

問 11-1② 地区を担当する民生児童委員を知っていますか



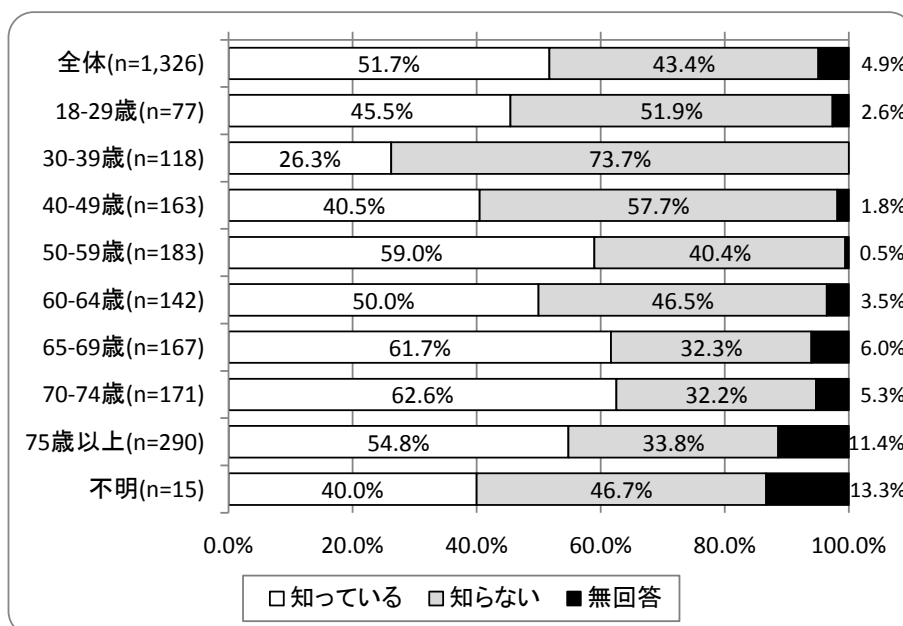
地区を担当する民生児童委員についてみると、全体では「よく知っている」31.6%、「名前だけ知っている」25.2%、「知らない」41.6%となっています。

年齢別にみると65歳以上から「良く知っている」割合が高くなっています。

地区別にみると、旧越智郡島しょ部で「よく知っている」割合が高く、旧今治市で「知らない」割合が高くなっています。

属性	区分	全体	よく知っている	名前だけ知っている	知らない	無回答
地区別	市全体	636 100.0%	201 31.6%	159 25.0%	266 41.8%	10 1.6%
	旧今治市	412 100.0%	117 28.4%	107 26.0%	181 43.9%	7 1.7%
	旧越智郡陸地部	133 100.0%	43 32.3%	33 24.8%	56 42.1%	1 0.8%
	旧越智郡島しょ部	91 100.0%	41 45.1%	19 20.9%	29 31.9%	2 2.2%
	不明	23 100.0%	7 30.4%	7 30.4%	8 34.8%	1 4.3%

問 12 地区に社会福祉協議会(支部も含む)があることを知っていますか



社会福祉協議会についてみると、全体では「知っている」51.7%、「知らない」43.4%となっています。

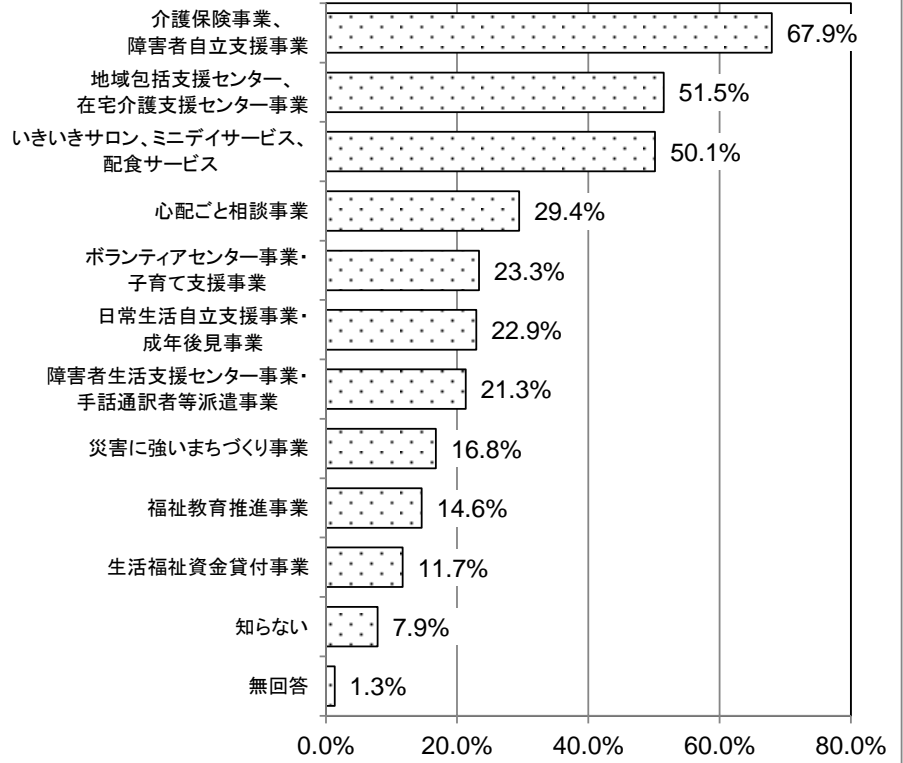
年齢別にみると30-39歳で「知っている」割合が最も低く、次いで40-49歳、18-29歳の順となっています。

問12-1 知っている社会福祉協議会の活動

知っている社会福祉協議会の活動についてみると、「介護保険事業、障害者自立支援事業」が67.9%と最も割合が高く、次いで「地域包括支援センター、在宅介護支援センター事業」51.5%、「いきいきサロン、ミニデイサービス、配食サービス」50.1%、「心配ごと相談事業」29.4%の順となっています。

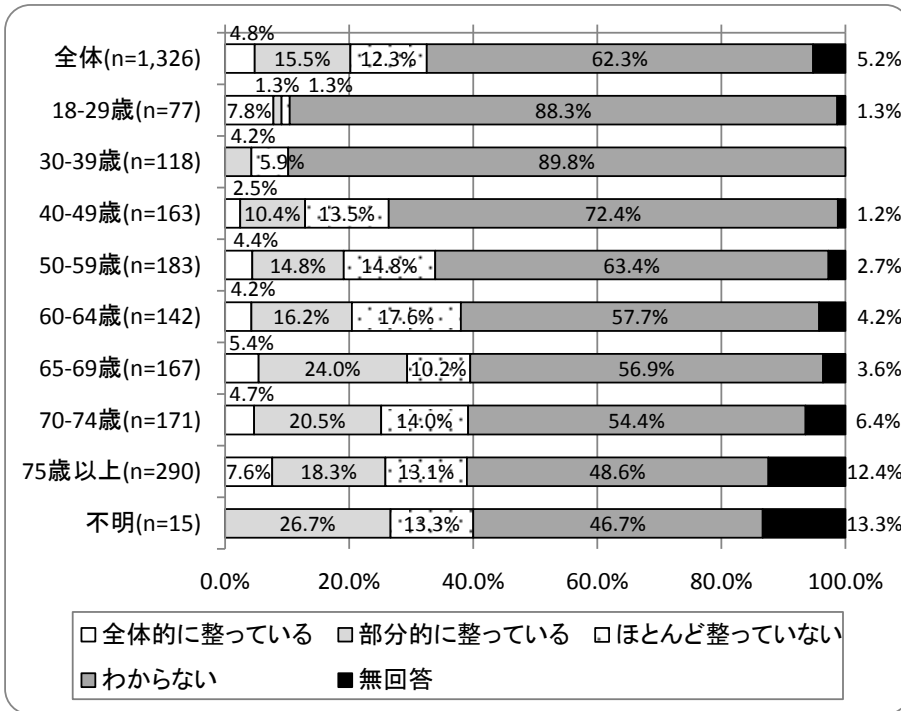
また、年齢別に「知らない」割合をみると、40-49歳、60-64歳において他の年齢層と比較して割合が高くなっています。地区別に見ると、旧今治市の割合が高くなっています。

問12-1 知っている社会福祉協議会の活動 (n=686)



属性	区分	全体	いきいきサロン、ミニデイサービス、配食サービス	介護保険事業、障害者自立支援事業	日常生活自立支援事業・成年後見事業	心配ごと相談事業	生活福祉資金貸付事業	地域包括支援センター、在宅介護支援センター事業	障害者生活支援センター事業・手話通訳者等派遣事業	福祉教育推進事業	災害に強いまちづくり事業	ボランティアセンター事業・子育て支援事業	知らない	無回答
年齢階層別	18-29歳	35	12	17	7	13	7	15	9	7	6	10	3	0
		100.0%	34.3%	48.6%	20.0%	37.1%	20.0%	42.9%	25.7%	20.0%	17.1%	28.6%	8.6%	0.0%
	30-39歳	31	9	17	8	6	3	13	9	7	4	13	3	0
		100.0%	29.0%	54.8%	25.8%	19.4%	9.7%	41.9%	29.0%	22.6%	12.9%	41.9%	9.7%	0.0%
	40-49歳	66	28	41	17	13	5	32	15	10	10	18	11	1
		100.0%	42.4%	62.1%	25.8%	19.7%	7.6%	48.5%	22.7%	15.2%	15.2%	27.3%	16.7%	1.5%
	50-59歳	108	59	79	31	33	11	68	39	21	17	33	8	0
		100.0%	54.6%	73.1%	28.7%	30.6%	10.2%	63.0%	36.1%	19.4%	15.7%	30.6%	7.4%	0.0%
	60-64歳	71	30	47	19	17	8	33	13	9	9	16	14	1
	100.0%	42.3%	66.2%	26.8%	23.9%	11.3%	46.5%	18.3%	12.7%	12.7%	22.5%	19.7%	1.4%	
65-69歳	103	60	77	22	32	14	64	21	12	17	25	6	1	
	100.0%	58.3%	74.8%	21.4%	31.1%	13.6%	62.1%	20.4%	11.7%	16.5%	24.3%	5.8%	1.0%	
70-74歳	107	58	84	22	34	14	56	21	14	18	22	3	1	
	100.0%	54.2%	78.5%	20.6%	31.8%	13.1%	52.3%	19.6%	13.1%	16.8%	20.6%	2.8%	0.9%	
75歳以上	159	84	102	31	54	18	70	19	19	33	21	5	5	
	100.0%	52.8%	64.2%	19.5%	34.0%	11.3%	44.0%	11.9%	11.9%	20.8%	13.2%	3.1%	3.1%	
不明	6	4	2	0	0	0	2	0	1	1	2	1	0	
	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	
地区別	市全体	668	334	453	153	196	79	344	144	96	110	153	53	8
		100.0%	50.0%	67.8%	22.9%	29.3%	11.8%	51.5%	21.6%	14.4%	16.5%	22.9%	7.9%	1.2%
	旧今治市	385	155	263	104	70	52	205	102	63	62	98	40	6
		100.0%	40.3%	68.3%	27.0%	18.2%	13.5%	53.2%	26.5%	16.4%	16.1%	25.5%	10.4%	1.6%
	旧越智郡陸地部	172	113	110	31	74	16	86	31	18	26	36	11	1
		100.0%	65.7%	64.0%	18.0%	43.0%	9.3%	50.0%	18.0%	10.5%	15.1%	20.9%	6.4%	0.6%
旧越智郡島しょ部	111	66	80	18	52	11	53	11	15	22	19	2	1	
	100.0%	59.5%	72.1%	16.2%	46.8%	9.9%	47.7%	9.9%	13.5%	19.8%	17.1%	1.8%	0.9%	
不明	18	10	13	4	6	1	9	2	4	5	7	1	1	
	100.0%	55.6%	72.2%	22.2%	33.3%	5.6%	50.0%	11.1%	22.2%	27.8%	38.9%	5.6%	5.6%	

問 13 地区における支援を必要とする世帯の緊急事態に対応できるような体制について



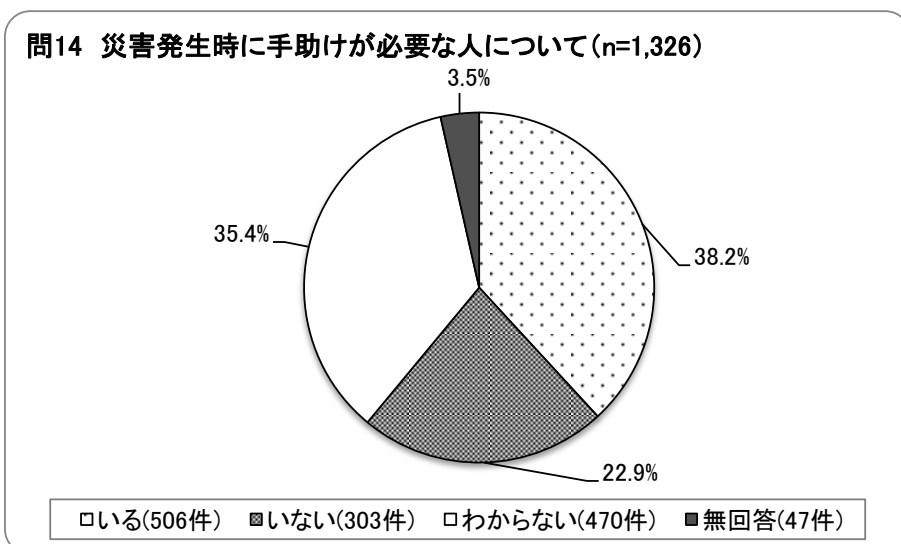
地区における支援を必要とする世帯の緊急事態に対応できるような体制についてみると、全体では「全体的に整っている」4.8%、「部分的に整っている」15.5%、「ほとんど整っていない」12.3%、「わからない」62.3%となっています。

年齢別にみると、40歳未満は「わからない」割合が高く、65歳以上で「整っている」割合が高くなっています。

地区別にみると、旧越智郡島しょ部において“整っている”割合が他の地区と比較して高くなっています。

属性	区分	全体	全体的に整っている	部分的に整っている	ほとんど整っていない	わからない	無回答
地区別	市全体	1,285	61	200	154	807	63
		100.0%	4.7%	15.6%	12.0%	62.8%	4.9%
	旧今治市	875	35	113	101	595	31
		100.0%	4.0%	12.9%	11.5%	68.0%	3.5%
	旧越智郡陸地部	261	10	46	39	148	18
	100.0%	3.8%	17.6%	14.9%	56.7%	6.9%	
	旧越智郡島しょ部	149	16	41	14	64	14
		100.0%	10.7%	27.5%	9.4%	43.0%	9.4%
	不明	41	2	5	9	19	6
		100.0%	4.9%	12.2%	22.0%	46.3%	14.6%

問 14 災害発生時に手助けが必要な人が近所にいますか



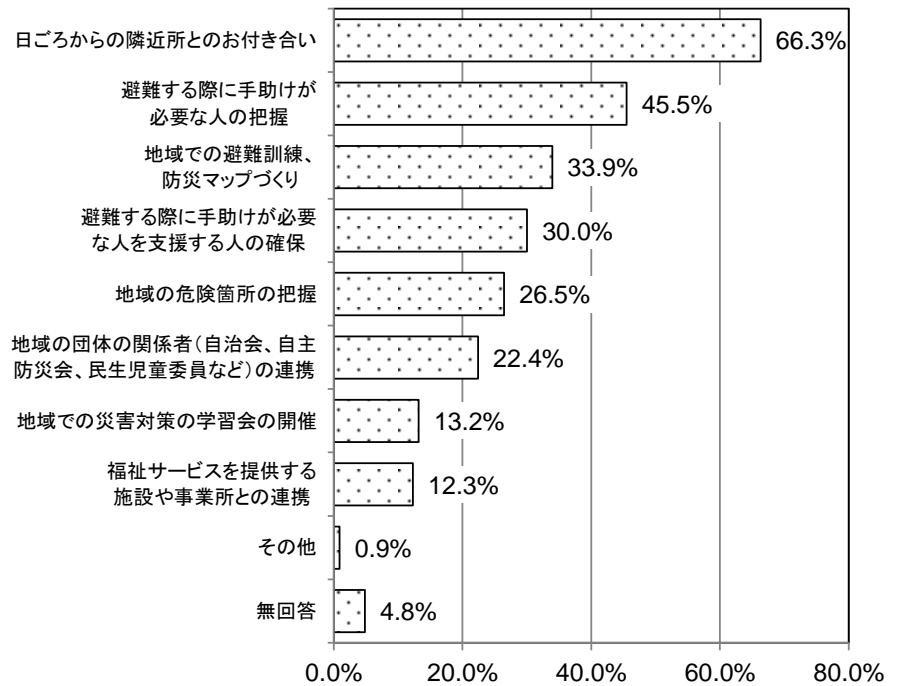
災害発生時に手助けが必要な人についてみると、「いる」38.2%、「いない」22.9%、「わからない」35.4%となっています。

問 15 災害時に住民が支え合う地域づくりのために必要だと思うもの

災害時に住民が支え合う地域づくりのために必要だと思うものについてみると、「日ごろからの隣近所とお付き合い」が66.3%と最も割合が高く、次いで「避難する際に手助けが必要な人の把握」45.5%、「地域での避難訓練、防災マップづくり」33.9%、「避難する際に手助けが必要な人を支援する人の確保」30.0%の順となっています。

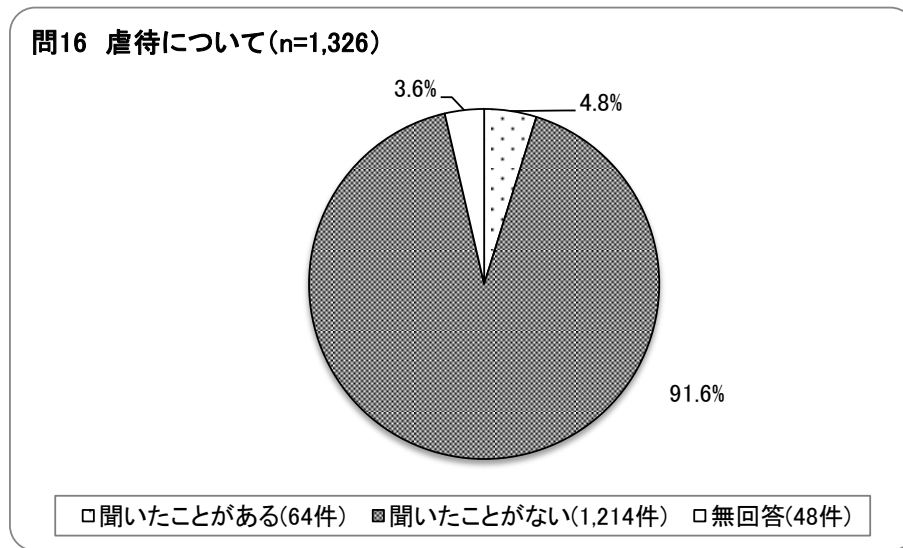
年齢別にみると、18-29歳で「地域の危険箇所の把握」、60-64歳で「地域での災害対策の学習会の開催」が他の年齢層と比較して割合が高くなっています。

問15 住民が支え合う地域づくりに必要なもの (n=1,326)



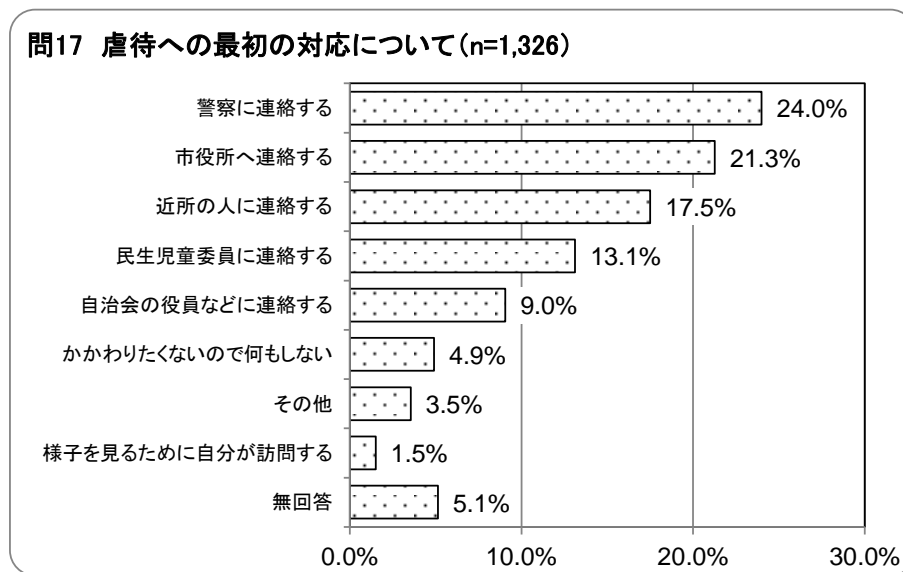
属性	区分	全体	日ごろからの隣近所とお付き合い	地域での災害対策の学習会の開催	地域での避難訓練、防災マップづくり	地域の危険箇所の把握	福祉サービスを提供する施設や事業所との連携	地域の団体の関係者(自治会、自主防災会、民生児童委員など)の連携	避難する際に手助けが必要な人の把握	避難する際に手助けが必要な人を支援する人の確保	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	77 100.0%	51 66.2%	6 7.8%	28 36.4%	34 44.2%	6 7.8%	13 16.9%	43 55.8%	19 24.7%	2 2.6%	2 2.6%
	30-39歳	118 100.0%	66 55.9%	8 6.8%	54 45.8%	40 33.9%	18 15.3%	24 20.3%	73 61.9%	38 32.2%	0 0.0%	0 0.0%
	40-49歳	163 100.0%	99 60.7%	26 16.0%	69 42.3%	48 29.4%	22 13.5%	32 19.6%	90 55.2%	49 30.1%	1 0.6%	2 1.2%
	50-59歳	183 100.0%	120 65.6%	27 14.8%	59 32.2%	47 25.7%	26 14.2%	50 27.3%	97 53.0%	62 33.9%	2 1.1%	2 1.1%
	60-64歳	142 100.0%	90 63.4%	29 20.4%	57 40.1%	27 19.0%	17 12.0%	30 21.1%	59 41.5%	38 26.8%	1 0.7%	7 4.9%
	65-69歳	167 100.0%	120 71.9%	14 8.4%	55 32.9%	42 25.1%	17 10.2%	49 29.3%	69 41.3%	49 29.3%	3 1.8%	6 3.6%
	70-74歳	171 100.0%	130 76.0%	16 9.4%	44 25.7%	47 27.5%	20 11.7%	44 25.7%	78 45.6%	52 30.4%	1 0.6%	9 5.3%
	75歳以上	290 100.0%	191 65.9%	47 16.2%	81 27.9%	64 22.1%	37 12.8%	54 18.6%	88 30.3%	88 30.3%	2 0.7%	36 12.4%
	不明	15 100.0%	12 80.0%	2 13.3%	3 20.0%	2 13.3%	0 0.0%	1 6.7%	6 40.0%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
地区別	市全体	1,285 100.0%	848 66.0%	168 13.1%	439 34.2%	342 26.6%	158 12.3%	283 22.0%	591 46.0%	385 30.0%	12 0.9%	61 4.7%
	旧今治市	875 100.0%	568 64.9%	107 12.2%	317 36.2%	224 25.6%	111 12.7%	204 23.3%	400 45.7%	256 29.3%	9 1.0%	36 4.1%
	旧越智郡陸地部	261 100.0%	177 67.8%	44 16.9%	78 29.9%	74 28.4%	28 10.7%	49 18.8%	123 47.1%	86 33.0%	2 0.8%	14 5.4%
	旧越智郡島しょ部	149 100.0%	103 69.1%	17 11.4%	44 29.5%	44 29.5%	19 12.8%	30 20.1%	68 45.6%	43 28.9%	1 0.7%	11 7.4%
	不明	41 100.0%	31 75.6%	7 17.1%	11 26.8%	9 22.0%	5 12.2%	14 34.1%	12 29.3%	13 31.7%	0 0.0%	3 7.3%

問 16 虐待について



地域で高齢者や子どもに対する家族などによる虐待について耳にしたことがあるかについてみると、「聞いたことがある」4.8%、「聞いたことがない」91.6%となっています。

問 17 虐待への最初の対応について



虐待への最初の対応についてみると、「警察に連絡する」が24.0%と最も割合が高く、次いで「市役所へ連絡する」21.3%、「近所の人に連絡する」17.5%、「民生児童委員に連絡する」13.1%の順となっています。

年齢別にみると、18-29歳で「かかわりたくないのでもしない」、30-39歳で「市役所へ連絡する」、75歳以上で「民生児童委員に連絡する」

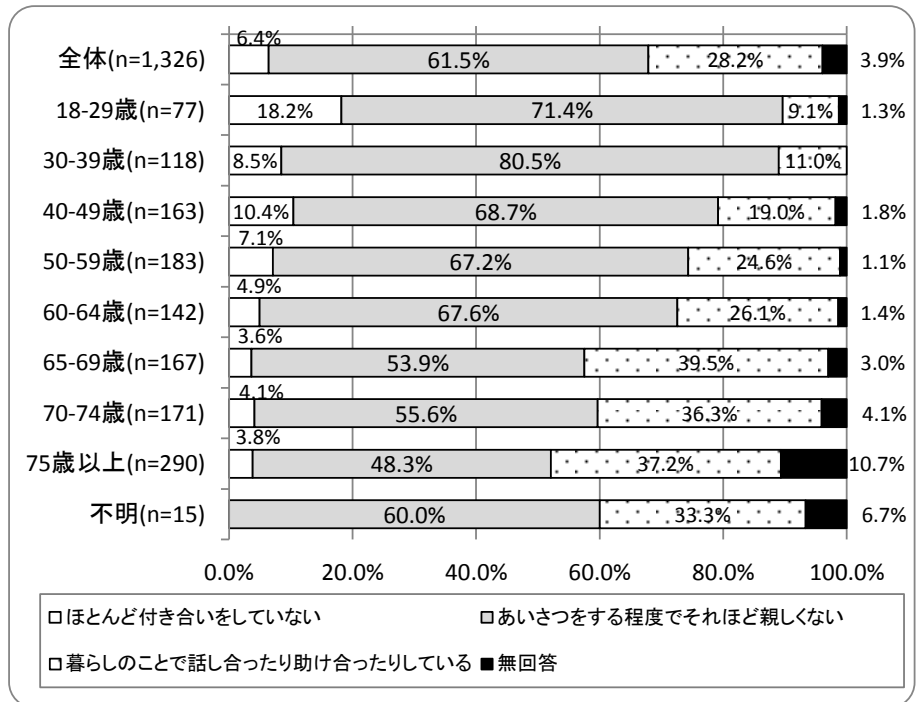
が他の年齢層と比較して割合が高くなっています。

属性	区分	全体	近所の人に連絡する	警察に連絡する	市役所へ連絡する	自治会の役員などに連絡する	民生児童委員に連絡する	様子を見るために自分が訪問する	かかわりたくないのでもしない	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	77 100.0%	14 18.2%	23 29.9%	14 18.2%	3 3.9%	2 2.6%	2 2.6%	11 14.3%	7 9.1%	1 1.3%
	30-39歳	118 100.0%	19 16.1%	34 28.8%	40 33.9%	1 0.8%	7 5.9%	2 1.7%	10 8.5%	5 4.2%	0 0.0%
	40-49歳	163 100.0%	25 15.3%	40 24.5%	49 30.1%	8 4.9%	15 9.2%	1 0.6%	12 7.4%	8 4.9%	5 3.1%
	50-59歳	183 100.0%	28 15.3%	50 27.3%	43 23.5%	22 12.0%	19 10.4%	3 1.6%	8 4.4%	5 2.7%	5 2.7%
	60-64歳	142 100.0%	22 15.5%	43 30.3%	33 23.2%	11 7.7%	13 9.2%	2 1.4%	8 5.6%	3 2.1%	7 4.9%
	65-69歳	167 100.0%	23 13.8%	28 16.8%	45 26.9%	23 13.8%	26 15.6%	5 3.0%	5 3.0%	3 1.8%	9 5.4%
	70-74歳	171 100.0%	37 21.6%	35 20.5%	29 17.0%	21 12.3%	29 17.0%	2 1.2%	3 1.8%	4 2.3%	11 6.4%
	75歳以上	290 100.0%	61 21.0%	62 21.4%	28 9.7%	29 10.0%	60 20.7%	3 1.0%	8 2.8%	9 3.1%	30 10.3%
	不明	15 100.0%	3 20.0%	3 20.0%	1 6.7%	2 13.3%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 20.0%	0 0.0%

問 18 日頃の近所付き合いについて

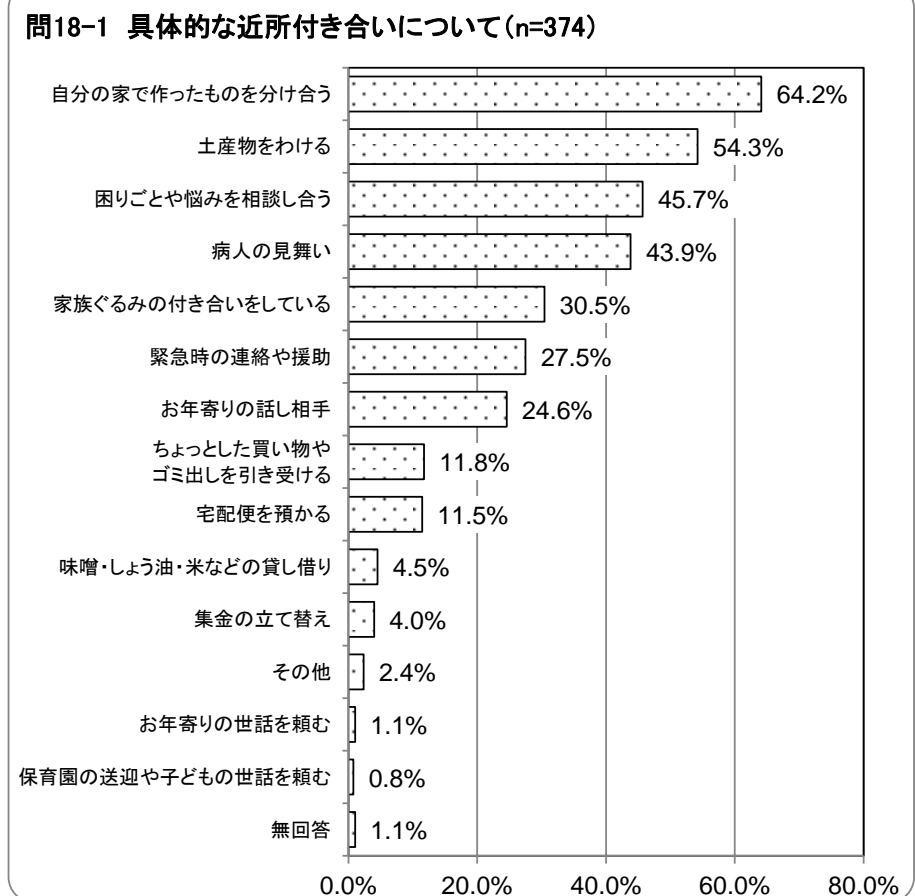
日頃の近所付き合いについてみると、全体では「ほとんど付き合いをしていない」6.4%、「あいさつをする程度でそれほど親しくない」61.5%、「暮らしのことで話し合ったり助け合ったりしている」28.2%となっています。

年齢別にみると、18-29歳で「ほとんど付き合いをしていない」、65-69歳で「暮らしのことで話し合ったり助け合ったりしている」が他の年齢層と比較して割合が高くなっています。



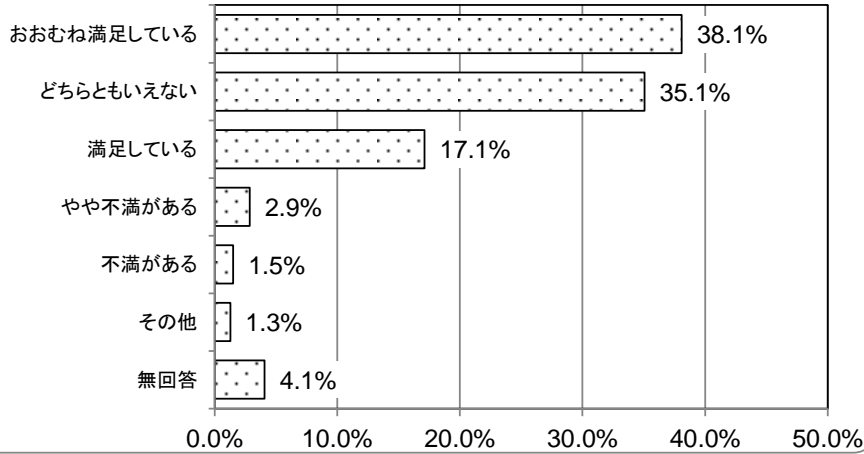
問 18-1 具体的な近所付き合いについて

具体的な近所付き合いについてみると、「自分の家で作ったものを分け合う」が64.2%と最も割合が高く、次いで「土産物をわける」54.3%、「困りごとや悩みを相談し合う」45.7%、「病人の見舞い」43.9%、「家族ぐるみの付き合いをしている」30.5%の順となっています。



問 19 現在の近所付き合いの満足度

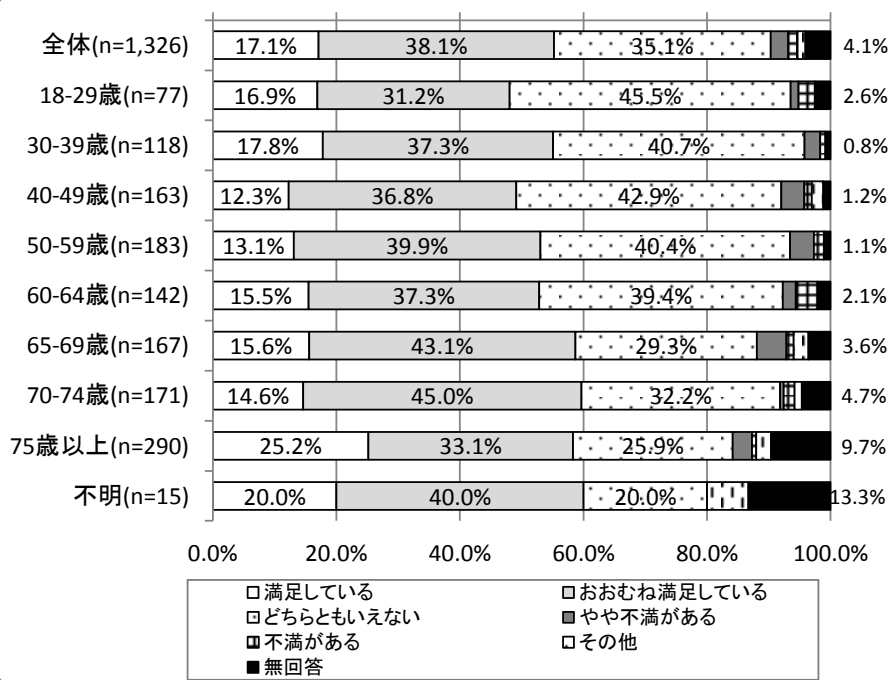
問19 現在の近所付き合いの満足度(n=1,326)



現在の近所付き合いの満足度についてみると、「おおむね満足している」が38.1%と最も割合が高く、次いで「どちらともいえない」35.1%、「満足している」17.1%となっています。

年齢別にみると、75歳以上が「満足している」割合が高くなっています。

地区別にみると、旧越智郡島しょ部で「満足している」割合が他の地区と比較して高くなっています。



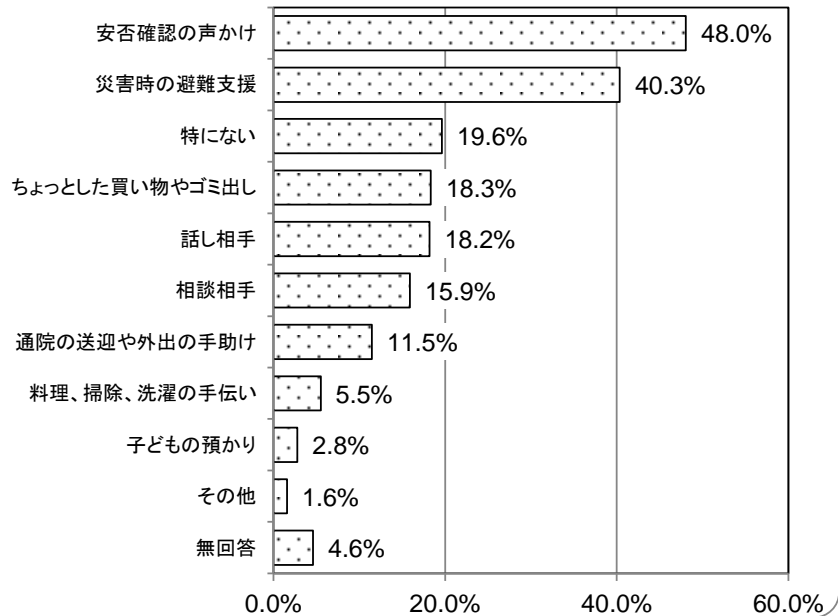
属性	区分	全体	満足している	おおむね満足している	どちらともいえない	やや不満がある	不満がある	その他	無回答
地区別	市全体	1,285	224	488	455	38	19	15	46
		100.0%	17.4%	38.0%	35.4%	3.0%	1.5%	1.2%	3.6%
	旧今治市	875	145	315	332	31	13	14	25
		100.0%	16.6%	36.0%	37.9%	3.5%	1.5%	1.6%	2.9%
	旧越智郡陸地部	261	37	110	94	5	4	1	10
	100.0%	14.2%	42.1%	36.0%	1.9%	1.5%	0.4%	3.8%	
	旧越智郡島しょ部	149	42	63	29	2	2	0	11
	100.0%	28.2%	42.3%	19.5%	1.3%	1.3%	0.0%	7.4%	
	不明	41	3	17	10	0	1	2	8
	100.0%	7.3%	41.5%	24.4%	0.0%	2.4%	4.9%	19.5%	

問 20 日常生活が不自由になったとき、近所の人に手助けしてほしいこと

日常生活が不自由になったとき、近所の人に手助けしてほしいことについてみると、「安否確認の声かけ」が48.0%と最も割合が高く、次いで「災害時の避難支援」40.3%、「特にない」19.6%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」18.3%、「話し相手」18.2%、「相談相手」15.9%の順となっています。

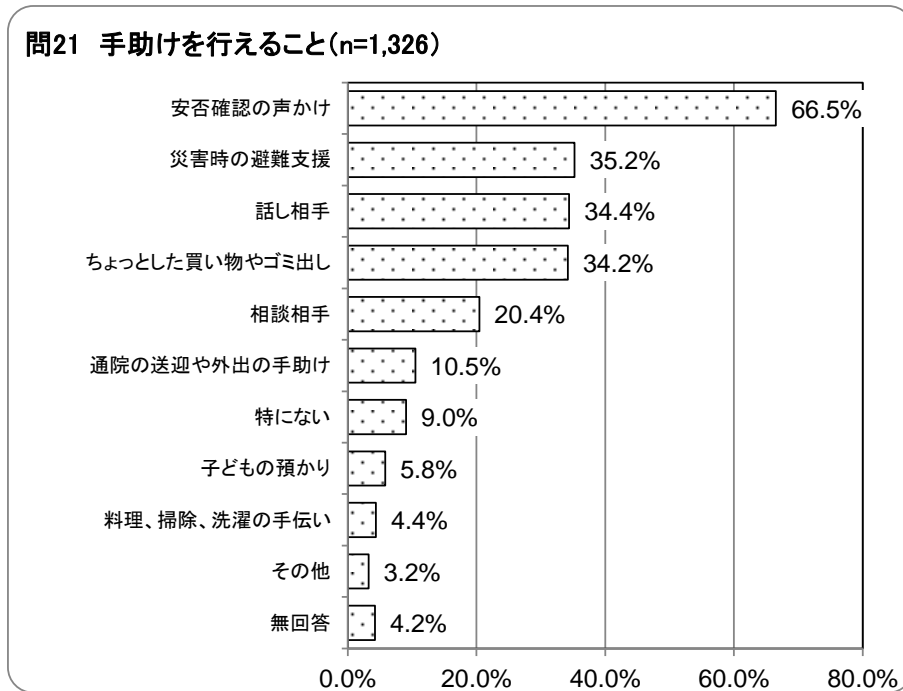
地区別にみると、旧越智郡陸地部及び旧越智郡島しょ部で「話し相手」、旧今治市で「特にない」が他の地区と比較して割合が高くなっており、さらに旧越智郡島しょ部で「ちょっとした買い物やゴミ出し」、「通院の送迎や外出の出助け」が他の地区と比較して割合が高くなっています。

問20 近所の人に手助けしてほしいと思うこと(n=1,326)



属性	区分	全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	料理、掃除、洗濯の手伝い	通院の送迎や外出の手助け	子どもの預かり	話し相手	相談相手	災害時の避難支援	特にない	その他	無回答
地区別	市全体	1,285	619	236	70	148	36	236	203	521	255	20	52
		100.0%	48.2%	18.4%	5.4%	11.5%	2.8%	18.4%	15.8%	40.5%	19.8%	1.6%	4.0%
	旧今治市	875	405	148	44	83	26	147	121	345	196	13	35
		100.0%	46.3%	16.9%	5.0%	9.5%	3.0%	16.8%	13.8%	39.4%	22.4%	1.5%	4.0%
	旧越智郡陸地部	261	137	48	11	34	7	56	48	110	40	2	10
		100.0%	52.5%	18.4%	4.2%	13.0%	2.7%	21.5%	18.4%	42.1%	15.3%	0.8%	3.8%
旧越智郡島しょ部	149	77	40	15	31	3	33	34	66	19	5	7	
	100.0%	51.7%	26.8%	10.1%	20.8%	2.0%	22.1%	22.8%	44.3%	12.8%	3.4%	4.7%	
不明	41	18	7	3	4	1	5	8	14	5	1	9	
	100.0%	43.9%	17.1%	7.3%	9.8%	2.4%	12.2%	19.5%	34.1%	12.2%	2.4%	22.0%	

問 21 困っている世帯があった場合、手助けを行えること

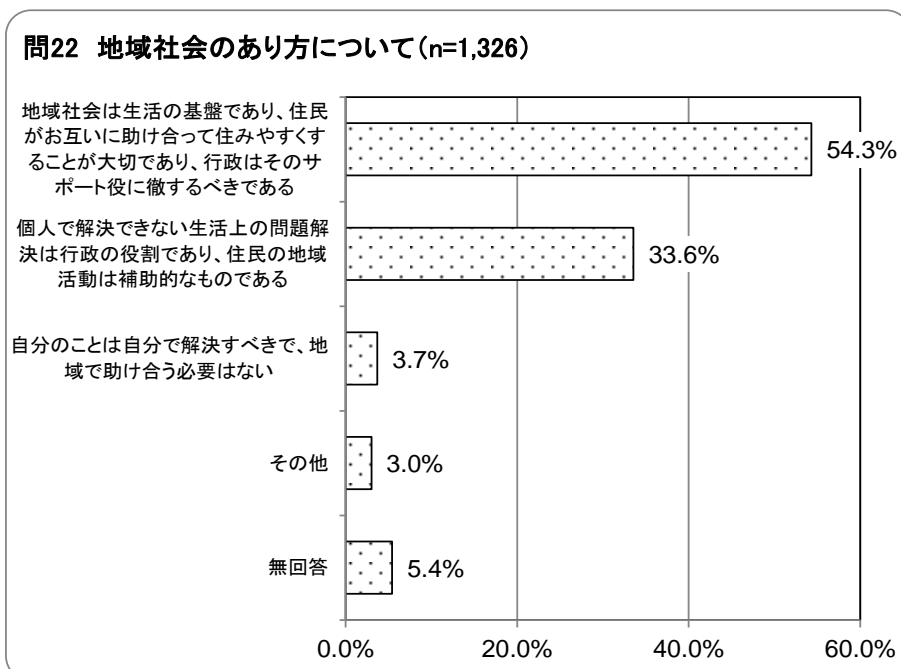


困っている世帯があった場合、手助けを行えることについてみると、「安否確認の声かけ」が 66.5%と最も割合が高く、次いで「災害時の避難支援」35.2%、「話し相手」34.4%、「ちょっとした買い物やゴミ出し」34.2%、「相談相手」20.4%の順となっています。

地区別にみると、旧越智郡陸地部で「災害時の避難支援」、旧越智郡島しょ部で「ちょっとした買い物やゴミ出し」が他の地区と比較して割合が高くなっています。

属性	区分	全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	料理、掃除、洗濯の手伝い	通院の送迎や外出の手助け	子どもの預かり	話し相手	相談相手	災害時の避難支援	特にない	その他	無回答
地区別	市全体	1,285	856	437	56	135	72	442	260	452	116	42	51
		100.0%	66.6%	34.0%	4.4%	10.5%	5.6%	34.4%	20.2%	35.2%	9.0%	3.3%	4.0%
	旧今治市	875	579	287	31	72	53	279	174	289	83	31	28
		100.0%	66.2%	32.8%	3.5%	8.2%	6.1%	31.9%	19.9%	33.0%	9.5%	3.5%	3.2%
	旧越智郡陸地部	261	185	87	19	35	12	100	53	111	21	7	13
	100.0%	70.9%	33.3%	7.3%	13.4%	4.6%	38.3%	20.3%	42.5%	8.0%	2.7%	5.0%	
旧越智郡島しょ部	149	92	63	6	28	7	63	33	52	12	4	10	
	100.0%	61.7%	42.3%	4.0%	18.8%	4.7%	42.3%	22.1%	34.9%	8.1%	2.7%	6.7%	
不明	41	26	16	2	4	5	14	11	15	4	1	5	
	100.0%	63.4%	39.0%	4.9%	9.8%	12.2%	34.1%	26.8%	36.6%	9.8%	2.4%	12.2%	

問 22 地域社会のあり方について



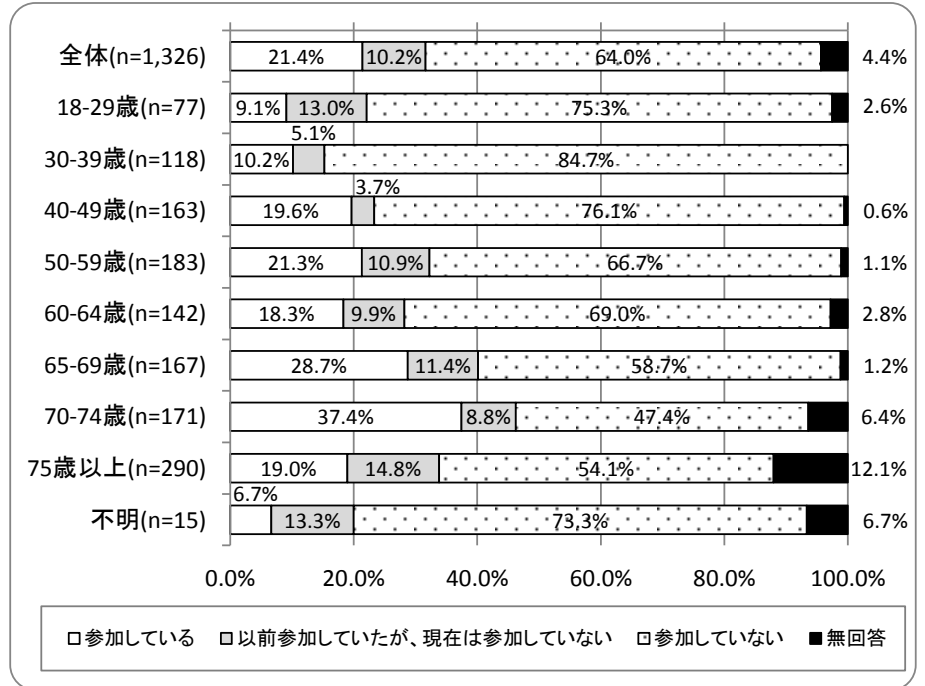
地域社会のあり方についてみると、「地域社会は生活の基盤であり、住民がお互いに助け合って住みやすくすることが大切であり、行政はそのサポートに徹するべきである」が 54.3%と最も割合が高く、次いで「個人で解決できない生活上の問題解決は行政の役割であり、住民の地域活動は補助的なものである」33.6%、「自分のことは自分で解決すべきで、地域で助け合う必要はない」3.7%の順となっています。

V 市民アンケート調査結果(地域活動について)

問 23 ボランティアなどの参加状況

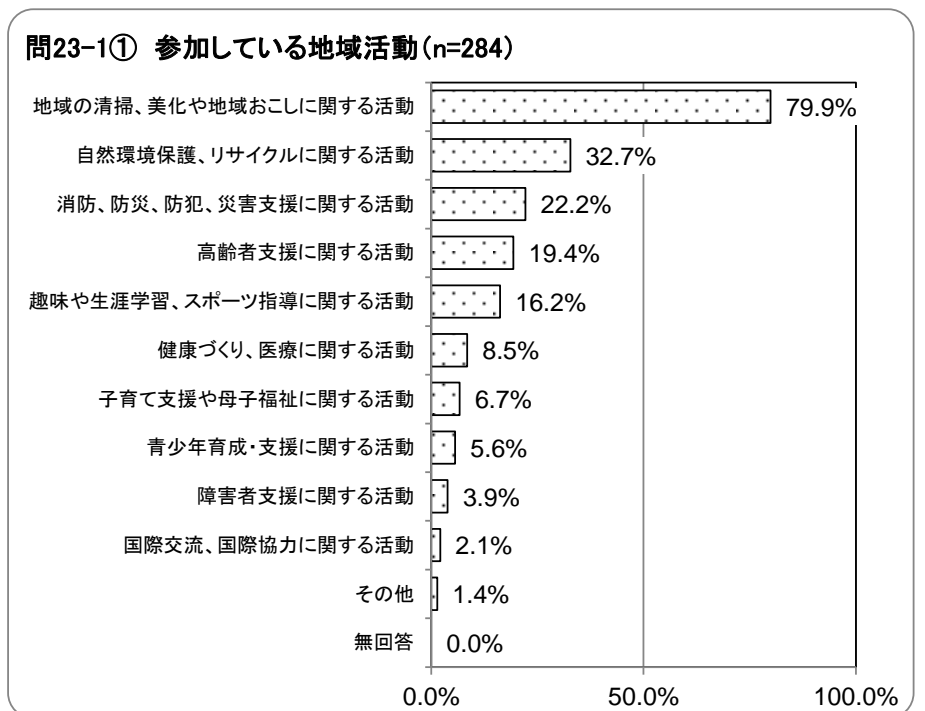
ボランティアなどの参加状況についてみると、全体では「参加している」21.4%、「以前は参加していたが、現在は参加していない」10.2%、「参加していない」64.0%となっています。

年齢別にみると、「参加している」割合は18-29歳及び30-39歳で低く、70-74歳で高くなっています。



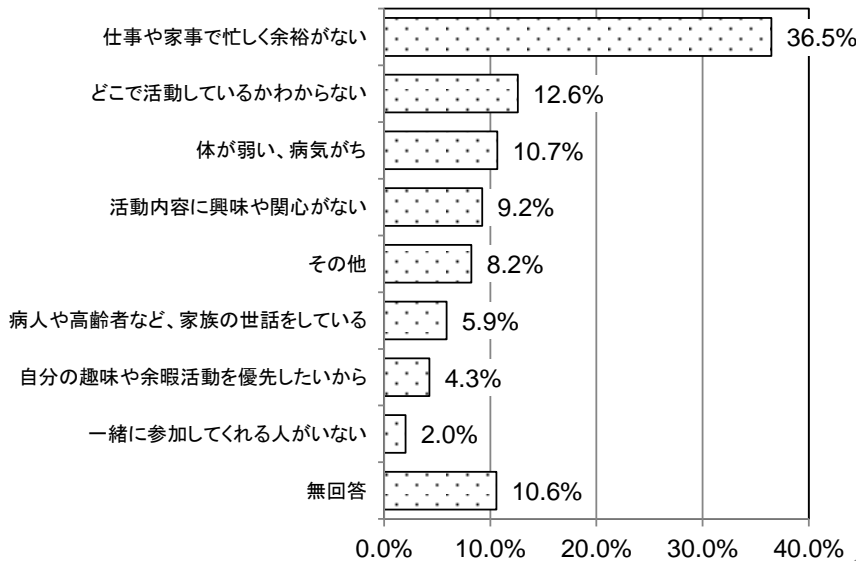
問 23-1① 参加している地域活動について

参加している地域活動についてみると、「地域の清掃、美化や地域おこしに関する活動」が79.9%と最も割合が高く、次いで「自然環境保護、リサイクルに関する活動」32.7%、「消防、防災、防犯、災害支援に関する活動」22.2%、「高齢者支援に関する活動」19.4%、「趣味や生涯学習、スポーツ指導に関する活動」16.2%、「健康づくり、医療に関する活動」8.5%、「子育て支援や母子福祉に関する活動」6.7%、「青少年育成・支援に関する活動」5.6%、「障害者支援に関する活動」3.9%、「国際交流、国際協力に関する活動」2.1%、「その他」1.4%、「無回答」0.0%の順となっています。



問23-2① 地域活動に参加していない理由

問23-2① 地域活動に参加していない理由(n=984)



地域活動に参加していない理由をみると、「仕事や家事で忙しく余裕がない」が36.5%と最も割合が高く、次いで「どこで活動しているかわからない」12.6%、「体が弱い、病気がち」10.7%、「活動内容に興味や関心がない」9.2%の順となっています。

年齢別にみると、18-29歳で「どこで活動しているかわからない」、「活動内容に興味や関心がない」の割合が他の年齢層と比較して高くなっています。

属性	区分	全体	仕事や家事で忙しく余裕がない	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	体が弱い、病気がち	病人や高齢者など、家族の世話をしている	どこで活動しているかわからない	一緒に参加してくれる人がいない	活動内容に興味や関心がない	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	68	23	5	1	0	14	2	11	6	6
		100.0%	33.8%	7.4%	1.5%	0.0%	20.6%	2.9%	16.2%	8.8%	8.8%
	30-39歳	106	60	2	1	2	17	3	9	3	9
		100.0%	56.6%	1.9%	0.9%	1.9%	16.0%	2.8%	8.5%	2.8%	8.5%
	40-49歳	130	73	3	3	6	19	1	14	3	8
		100.0%	56.2%	2.3%	2.3%	4.6%	14.6%	0.8%	10.8%	2.3%	6.2%
	50-59歳	142	78	4	4	9	16	2	11	2	16
		100.0%	54.9%	2.8%	2.8%	6.3%	11.3%	1.4%	7.7%	1.4%	11.3%
	60-64歳	112	43	6	9	11	15	3	14	6	5
	100.0%	38.4%	5.4%	8.0%	9.8%	13.4%	2.7%	12.5%	5.4%	4.5%	
65-69歳	117	35	8	15	11	15	1	13	6	13	
	100.0%	29.9%	6.8%	12.8%	9.4%	12.8%	0.9%	11.1%	5.1%	11.1%	
70-74歳	96	20	5	17	8	18	2	8	5	13	
	100.0%	20.8%	5.2%	17.7%	8.3%	18.8%	2.1%	8.3%	5.2%	13.5%	
75歳以上	200	24	8	53	10	10	6	10	48	31	
	100.0%	12.0%	4.0%	26.5%	5.0%	5.0%	3.0%	5.0%	24.0%	15.5%	
不明	13	3	1	2	1	0	0	0	1	2	3
	100.0%	23.1%	7.7%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	15.4%	23.1%
地区別	市全体	958	353	41	104	56	121	19	88	78	98
		100.0%	36.8%	4.3%	10.9%	5.8%	12.6%	2.0%	9.2%	8.1%	10.2%
	旧今治市	710	265	32	79	40	88	13	66	55	72
		100.0%	37.3%	4.5%	11.1%	5.6%	12.4%	1.8%	9.3%	7.7%	10.1%
	旧越智郡陸地部	172	65	8	16	8	24	4	15	12	20
		100.0%	37.8%	4.7%	9.3%	4.7%	14.0%	2.3%	8.7%	7.0%	11.6%
旧越智郡島しょ部	76	23	1	9	8	9	2	7	11	6	
	100.0%	30.3%	1.3%	11.8%	10.5%	11.8%	2.6%	9.2%	14.5%	7.9%	
不明	26	6	1	1	2	3	1	3	3	6	
	100.0%	23.1%	3.8%	3.8%	7.7%	11.5%	3.8%	11.5%	11.5%	23.1%	

<その他の意見(抜粋)>

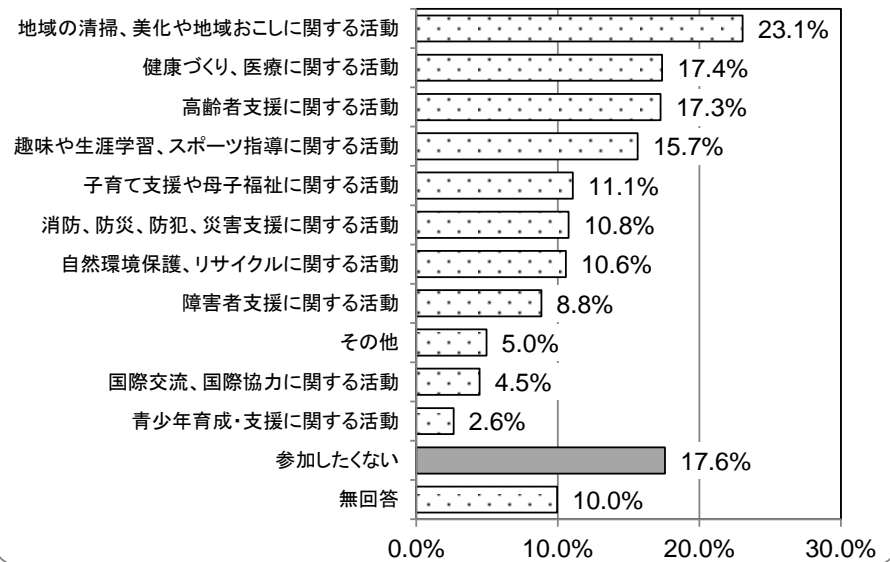
高齢の為、祖父母が参加しているから、ボランティアする年齢ではない 等

問 23-2② 参加できる機会があれば、参加したいと思う地域活動

参加できる機会があれば、参加したいと思う地域活動をみると、「地域の清掃、美化や地域おこしに関する活動」が23.1%と最も割合が高く、次いで「健康づくり、医療に関する活動」17.4%、「高齢者支援に関する活動」17.3%、「趣味や生涯学習、スポーツ指導に関する活動」15.7%の順となっています。また、「参加したくない」は17.6%となっています。

年齢別にみると、30-39歳で「子育て支援や母子福祉に関する活動」の割合が高くなっており、「参加したくない」では30-39歳、60-64歳で割合が高くなっています。

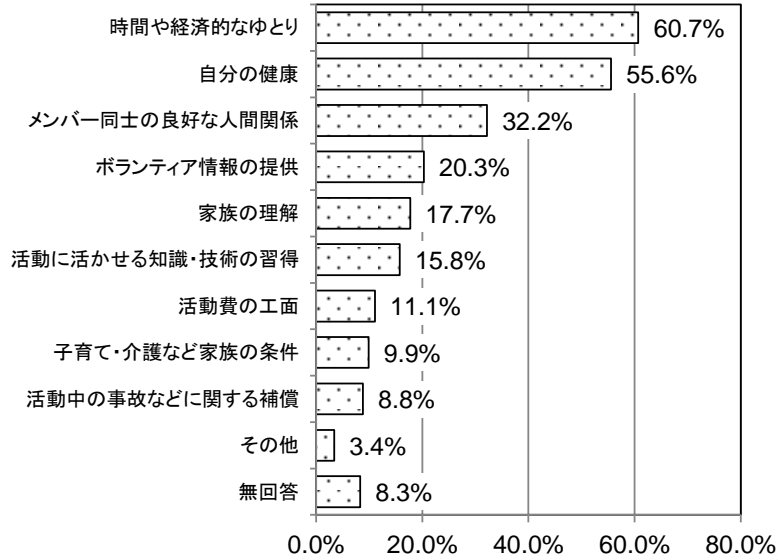
問23-2② 参加したいと思う地域活動 (n=984)



属性	区分	全体	高齢者支援に関する活動	障害者に関する活動	子育て支援や母子福祉に関する活動	健康づくり、医療に関する活動	地域の清掃、美化や地域おこしに関する活動	消防、防災、防犯、災害支援に関する活動	自然環境保護、リサイクルに関する活動	趣味や生涯学習、スポーツ指導に関する活動	青少年育成・支援に関する活動	国際交流、国際協力に関する活動	その他	参加したくない	無回答
年齢階層別	18-29歳	68	9	5	14	14	20	9	12	19	9	9	0	9	1
		100.0%	13.2%	7.4%	20.6%	20.6%	29.4%	13.2%	17.6%	27.9%	13.2%	13.2%	0.0%	13.2%	1.5%
	30-39歳	106	11	8	34	16	22	15	12	25	4	11	0	25	6
		100.0%	10.4%	7.5%	32.1%	15.1%	20.8%	14.2%	11.3%	23.6%	3.8%	10.4%	0.0%	23.6%	5.7%
	40-49歳	130	32	19	24	18	26	28	18	19	2	5	7	20	3
		100.0%	24.6%	14.6%	18.5%	13.8%	20.0%	21.5%	13.8%	14.6%	1.5%	3.8%	5.4%	15.4%	2.3%
	50-59歳	142	26	18	19	32	28	19	25	23	3	12	3	23	9
		100.0%	18.3%	12.7%	13.4%	22.5%	19.7%	13.4%	17.6%	16.2%	2.1%	8.5%	2.1%	16.2%	6.3%
	60-64歳	112	15	11	11	18	32	16	12	19	4	2	1	27	5
	100.0%	13.4%	9.8%	9.8%	16.1%	28.6%	14.3%	10.7%	17.0%	3.6%	1.8%	0.9%	24.1%	4.5%	
65-69歳	117	20	3	4	16	40	7	11	22	0	3	6	13	14	
	100.0%	17.1%	2.6%	3.4%	13.7%	34.2%	6.0%	9.4%	18.8%	0.0%	2.6%	5.1%	11.1%	12.0%	
70-74歳	96	23	13	1	25	28	7	7	12	1	2	2	16	10	
	100.0%	24.0%	13.5%	1.0%	26.0%	29.2%	7.3%	7.3%	12.5%	1.0%	2.1%	2.1%	16.7%	10.4%	
75歳以上	200	32	9	2	31	29	5	6	13	2	0	30	39	45	
	100.0%	16.0%	4.5%	1.0%	15.5%	14.5%	2.5%	3.0%	6.5%	1.0%	0.0%	15.0%	19.5%	22.5%	
不明	13	2	1	0	1	2	0	1	2	1	0	0	1	5	
	100.0%	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%	15.4%	0.0%	7.7%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	38.5%	
地区別	市全体	958	169	85	106	164	223	103	99	149	24	43	48	169	90
		100.0%	17.6%	8.9%	11.1%	17.1%	23.3%	10.8%	10.3%	15.6%	2.5%	4.5%	5.0%	17.6%	9.4%
	旧今治市	710	126	72	86	117	157	73	74	109	16	36	32	125	67
		100.0%	17.7%	10.1%	12.1%	16.5%	22.1%	10.3%	10.4%	15.4%	2.3%	5.1%	4.5%	17.6%	9.4%
	旧越智郡陸地部	172	27	9	16	32	45	18	21	28	5	4	9	35	13
		100.0%	15.7%	5.2%	9.3%	18.6%	26.2%	10.5%	12.2%	16.3%	2.9%	2.3%	5.2%	20.3%	7.6%
旧越智郡島しょ部	76	16	4	4	15	21	12	4	12	3	3	7	9	10	
	100.0%	21.1%	5.3%	5.3%	19.7%	27.6%	15.8%	5.3%	15.8%	3.9%	3.9%	9.2%	11.8%	13.2%	
不明	26	1	2	3	7	4	3	5	5	2	1	1	4	8	
	100.0%	3.8%	7.7%	11.5%	26.9%	15.4%	11.5%	19.2%	19.2%	7.7%	3.8%	3.8%	15.4%	30.8%	

問 24 地域活動の継続または参加条件について

問24 地域活動の継続または参加条件(n=1,326)



地域活動の継続または参加条件についてみると、「時間や経済的なゆとり」が60.7%と最も割合が高く、次いで「自分の健康」55.6%、「メンバー同士の良好な人間関係」32.2%、「ボランティア情報の提供」20.3%の順となっています。

年齢別にみると、60歳以上で「自分の健康」の割合が高くなっており、18-29歳で「ボランティア情報の提供」、30-39歳で「子育て・介護など家族の条件」、40-49歳で

「活動費の工面」の割合が高くなっています。

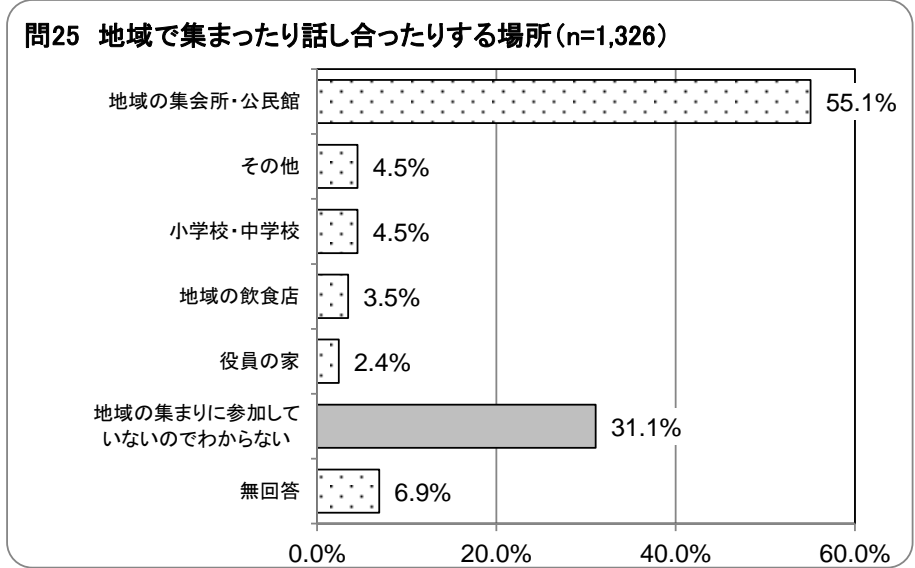
属性	区分	全体	時間や経済的なゆとり	自分の健康	ボランティア情報の提供	家族の理解	子育て・介護など家族の条件	活動費の工面	活動に活かせる知識・技術の習得	活動中の事故などに関する補償	メンバー同士の良好な人間関係	その他	無回答	
年齢階層別	18-29歳	77 100.0%	63 81.8%	19 24.7%	28 36.4%	9 11.7%	12 15.6%	12 15.6%	16 20.8%	10 13.0%	35 45.5%	1 1.3%	2 2.6%	
	30-39歳	118 100.0%	105 89.0%	34 28.8%	24 20.3%	23 19.5%	26 22.0%	19 16.1%	12 10.2%	9 7.6%	46 39.0%	1 0.8%	0 0.0%	
	40-49歳	163 100.0%	137 84.0%	66 40.5%	44 27.0%	37 22.7%	26 16.0%	33 20.2%	35 21.5%	16 9.8%	57 35.0%	5 3.1%	3 1.8%	
	50-59歳	183 100.0%	148 80.9%	94 51.4%	40 21.9%	41 22.4%	24 13.1%	31 16.9%	32 17.5%	30 16.4%	76 41.5%	6 3.3%	5 2.7%	
	60-64歳	142 100.0%	101 71.1%	93 65.5%	34 23.9%	26 18.3%	11 7.7%	14 9.9%	31 21.8%	16 11.3%	44 31.0%	1 0.7%	5 3.5%	
	65-69歳	167 100.0%	96 57.5%	120 71.9%	40 24.0%	27 16.2%	15 9.0%	12 7.2%	12 16.8%	28 7.8%	49 29.3%	4 2.4%	9 5.4%	
	70-74歳	171 100.0%	78 45.6%	120 70.2%	29 17.0%	36 21.1%	6 3.5%	11 6.4%	24 14.0%	9 5.3%	59 34.5%	4 2.3%	17 9.9%	
	75歳以上	290 100.0%	69 23.8%	184 63.4%	29 10.0%	35 12.1%	10 3.4%	13 4.5%	30 10.3%	13 4.5%	58 20.0%	23 7.9%	64 22.1%	
	不明	15 100.0%	8 53.3%	7 46.7%	1 6.7%	1 6.7%	1 6.7%	2 13.3%	1 6.7%	1 6.7%	1 6.7%	3 20.0%	0 0.0%	5 33.3%
	地区別	市全体	1,285 100.0%	783 60.9%	710 55.3%	264 20.5%	226 17.6%	127 9.9%	144 11.2%	203 15.8%	114 8.9%	412 32.1%	44 3.4%	103 8.0%
旧今治市		875 100.0%	542 61.9%	458 52.3%	175 20.0%	142 16.2%	89 10.2%	82 9.4%	149 17.0%	79 9.0%	264 30.2%	31 3.5%	65 7.4%	
旧越智郡陸地部		261 100.0%	155 59.4%	159 60.9%	67 25.7%	60 23.0%	24 9.2%	47 18.0%	34 13.0%	29 11.1%	90 34.5%	8 3.1%	20 7.7%	
旧越智郡島しょ部		149 100.0%	86 57.7%	93 62.4%	22 14.8%	24 16.1%	14 9.4%	15 10.1%	20 13.4%	6 4.0%	58 38.9%	5 3.4%	18 12.1%	
不明		41 100.0%	22 53.7%	27 65.9%	5 12.2%	9 22.0%	4 9.8%	3 7.3%	6 14.6%	3 7.3%	15 36.6%	1 2.4%	7 17.1%	

問 25 地域で集まったり話し合ったりする場所

地域で集まったり話し合ったりする場所についてみると、「地域の集会所・公民館」が55.1%と割合が高くなっています。

「地域の集まりに参加していないのでわからない」は31.1%となっています。

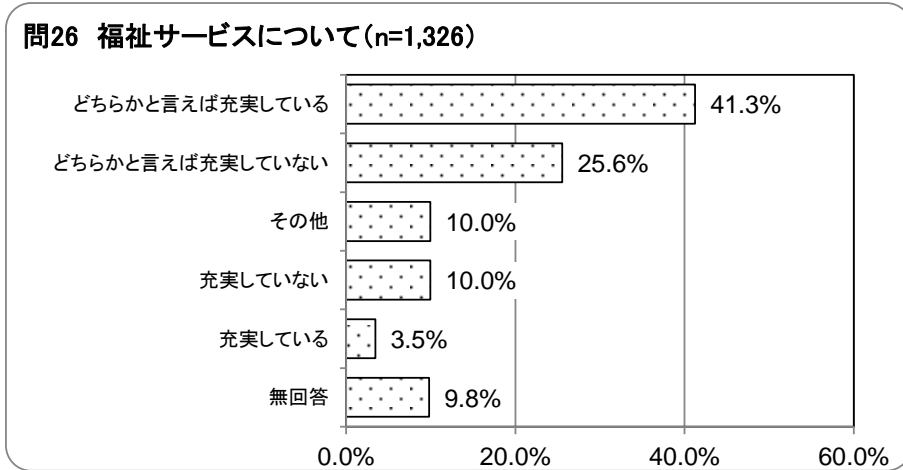
地区別にみると、旧今治市で「地域の集まりに参加していないのでわからない」の割合が他の地区と比較して高くなっています。



属性	区分	全体	地域の集会所・公民館	小学校・中学校	役員の家	地域の飲食店	その他	地域の集まりに参加していないのでわからない	無回答
年齢階層別	18-29歳	77 100.0%	22 28.6%	3 3.9%	1 1.3%	1 1.3%	2 2.6%	50 64.9%	3 3.9%
	30-39歳	118 100.0%	44 37.3%	18 15.3%	0 0.0%	2 1.7%	4 3.4%	60 50.8%	1 0.8%
	40-49歳	163 100.0%	81 49.7%	17 10.4%	3 1.8%	11 6.7%	5 3.1%	60 36.8%	3 1.8%
	50-59歳	183 100.0%	116 63.4%	8 4.4%	6 3.3%	7 3.8%	8 4.4%	47 25.7%	5 2.7%
	60-64歳	142 100.0%	96 67.6%	1 0.7%	1 0.7%	5 3.5%	7 4.9%	35 24.6%	5 3.5%
	65-69歳	167 100.0%	113 67.7%	3 1.8%	5 3.0%	9 5.4%	8 4.8%	38 22.8%	9 5.4%
	70-74歳	171 100.0%	110 64.3%	4 2.3%	9 5.3%	5 2.9%	9 5.3%	37 21.6%	14 8.2%
	75歳以上	290 100.0%	141 48.6%	6 2.1%	7 2.4%	6 2.1%	17 5.9%	80 27.6%	49 16.9%
	不明	15 100.0%	7 46.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 33.3%	3 20.0%
地区別	市全体	1,285 100.0%	707 55.0%	60 4.7%	30 2.3%	45 3.5%	57 4.4%	400 31.1%	87 6.8%
	旧今治市	875 100.0%	417 47.7%	46 5.3%	15 1.7%	31 3.5%	29 3.3%	337 38.5%	58 6.6%
	旧越智郡陸地部	261 100.0%	190 72.8%	10 3.8%	4 1.5%	6 2.3%	15 5.7%	41 15.7%	17 6.5%
	旧越智郡島しょ部	149 100.0%	100 67.1%	4 2.7%	11 7.4%	8 5.4%	13 8.7%	22 14.8%	12 8.1%
	不明	41 100.0%	23 56.1%	0 0.0%	2 4.9%	1 2.4%	3 7.3%	12 29.3%	5 12.2%

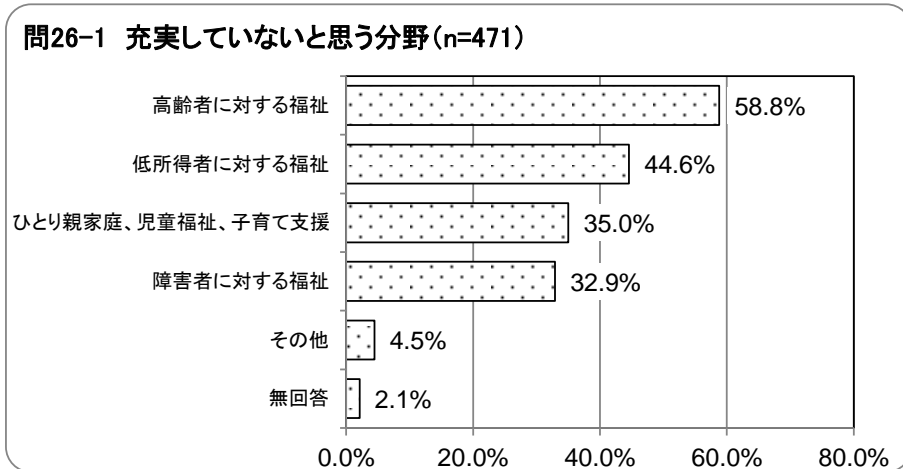
VI 市民アンケート調査結果(福祉サービスについて)

問 26 国、県、市が行っている福祉サービスについて



国、県、市が行っている福祉サービスについてみると、「どちらかと言えば充実している」が41.3%と最も割合が高く、次いで「どちらかと言えば充実していない」25.6%となっています。

問 26-1 充実していないと思う分野



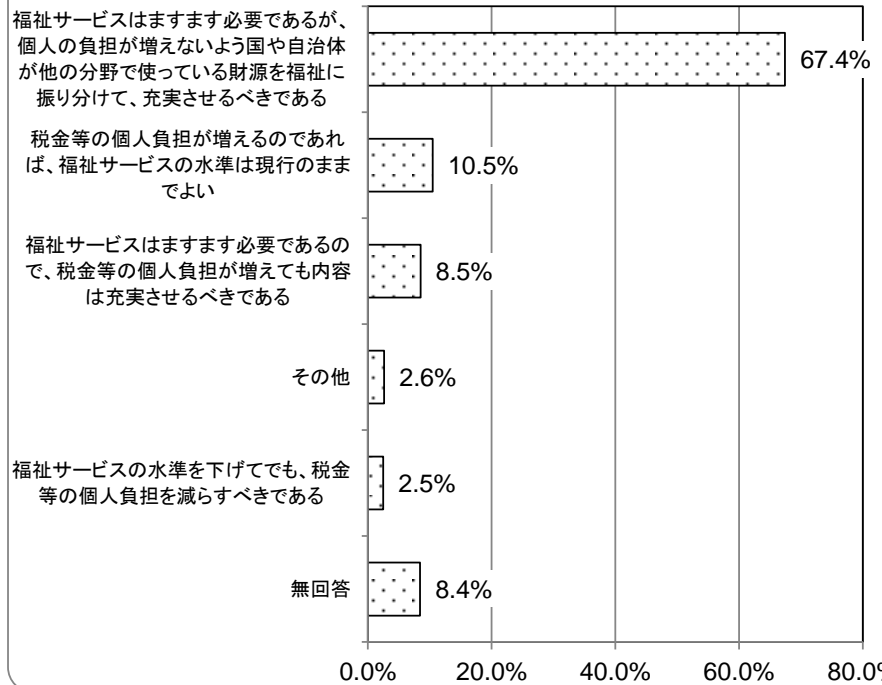
充実していないと思う分野についてみると、「高齢者に対する福祉」が58.8%と最も割合が高く、次いで「低所得者に対する福祉」44.6%、「ひとり親家庭、児童福祉、子育て支援」35.0%、「障害者に対する福祉」32.9%の順となっています。

属性	区分	全体	高齢者に対する福祉	障害者に対する福祉	ひとり親家庭、児童福祉、子育て支援	低所得者に対する福祉	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	27 100.0%	11 40.7%	10 37.0%	14 51.9%	13 48.1%	2 7.4%	0 0.0%
	30-39歳	64 100.0%	22 34.4%	13 20.3%	42 65.6%	30 46.9%	2 3.1%	3 4.7%
	40-49歳	71 100.0%	34 47.9%	28 39.4%	32 45.1%	37 52.1%	4 5.6%	1 1.4%
	50-59歳	81 100.0%	53 65.4%	33 40.7%	30 37.0%	31 38.3%	7 8.6%	0 0.0%
	60-64歳	57 100.0%	34 59.6%	18 31.6%	14 24.6%	26 45.6%	1 1.8%	3 5.3%
	65-69歳	43 100.0%	24 55.8%	12 27.9%	11 25.6%	22 51.2%	1 2.3%	0 0.0%
	70-74歳	53 100.0%	37 69.8%	20 37.7%	9 17.0%	23 43.4%	2 3.8%	1 1.9%
	75歳以上	73 100.0%	60 82.2%	20 27.4%	13 17.8%	28 38.4%	2 2.7%	2 2.7%
	不明	2 100.0%	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	地区別	市全体	458 100.0%	268 58.5%	152 33.2%	160 34.9%	206 45.0%	21 4.6%
旧今治市		320 100.0%	183 57.2%	115 35.9%	110 34.4%	143 44.7%	14 4.4%	5 1.6%
旧越智郡陸地部		99 100.0%	60 60.6%	30 30.3%	38 38.4%	47 47.5%	5 5.1%	4 4.0%
旧越智郡島しょ部		39 100.0%	25 64.1%	7 17.9%	12 30.8%	16 41.0%	2 5.1%	1 2.6%
不明		13 100.0%	9 69.2%	3 23.1%	5 38.5%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%

問 27 これから行政が行う福祉サービスのあり方

これから行政が行う福祉サービスのあり方についてみると、「福祉サービスはますます必要であるが、個人の負担が増えないよう国や自治体が他の分野で使っている財源を福祉に振り分けて、充実させるべきである」が67.4%と最も割合が高く、次いで「税金等の個人負担が増えるのであれば、福祉サービスの水準は現行のままでよい」10.5%、「福祉サービスはますます必要であるので、税金等の個人負担が増えても内容は充実させるべきである」8.5%の順となっています。

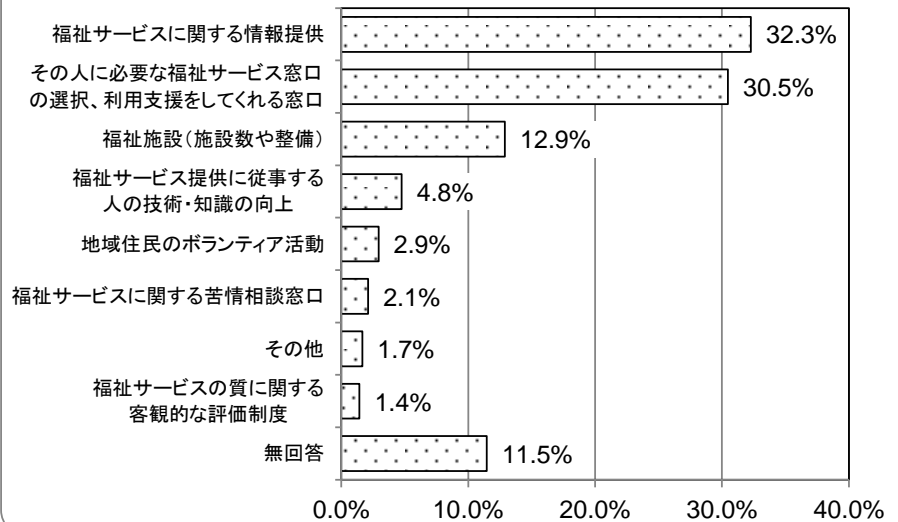
問27 これからの福祉サービスのあり方 (n=1,326)



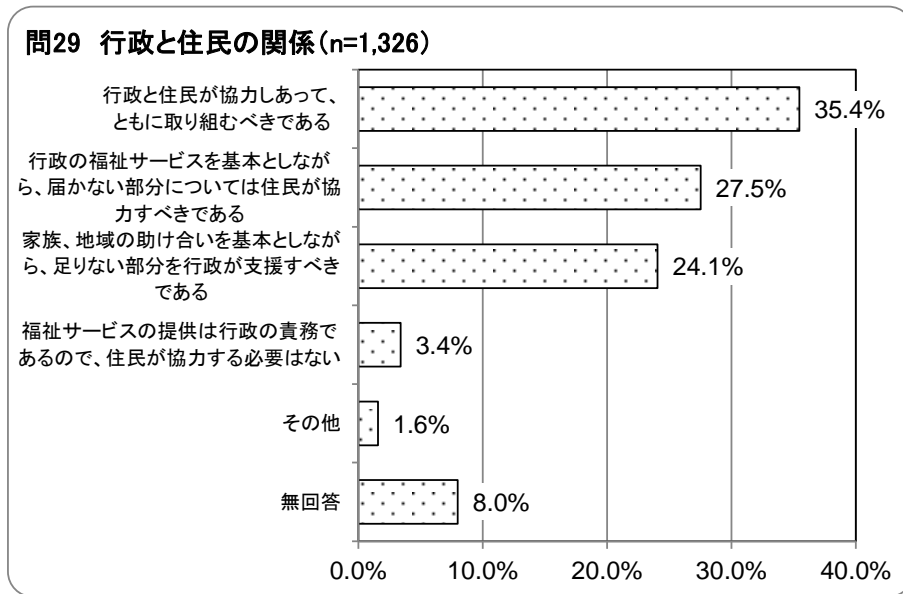
問 28 適切に福祉サービスが利用できるようにするために優先させるべきこと

適切に福祉サービスが利用できるようにするために優先させるべきことについてみると、「福祉サービスに関する情報提供」が32.3%と最も割合が高く、次いで「その人に必要な福祉サービス窓口の選択、利用支援をしてくれる窓口」30.5%、「福祉施設(施設数や整備数)」12.9%の順となっています。

問28 優先させるべきこと (n=1,326)

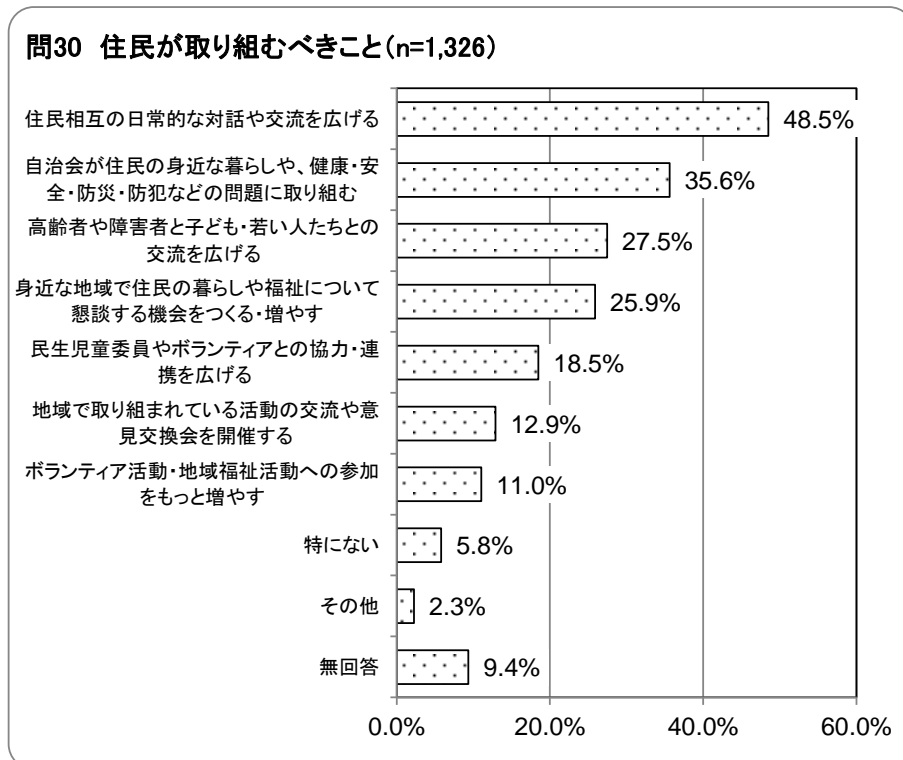


問 29 福祉サービスを充実させていく上で、行政と住民の関係について



福祉サービスを充実させていく上で、行政と住民の関係についてみると、「行政と住民が協力しあって、ともに取り組むべきである」が35.4%と最も割合が高く、次いで「行政の福祉サービスを基本としながら、届かない部分については住民が協力すべきである」27.5%、「家族、地域の助け合いを基本としながら、足りない部分を行政が支援すべきである」24.1%の順となっています。

問 30 つながりと支えあいのある地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組むべきこと



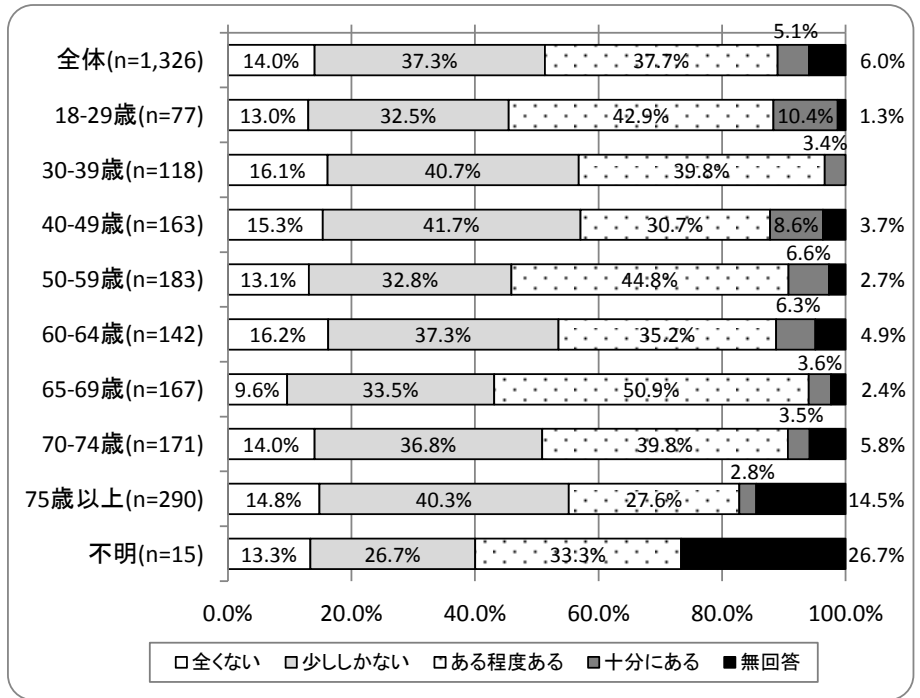
つながりと支えあいのある地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組むべきことについてみると、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」が48.5%と最も割合が高く、次いで「自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む」35.6%、「高齢者や障害者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」27.5%、「身近な地域で住民の暮らしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす」25.9%の順となっています。

VII 市民アンケート調査結果(各世代との交流について)

問 31 他の世代の方々と接する機会について

他の世代の方々と接する機会についてみると、全体では「全くない」14.0%、「少ししかない」37.3%、「ある程度ある」37.7%、「十分にある」5.1%となっています。

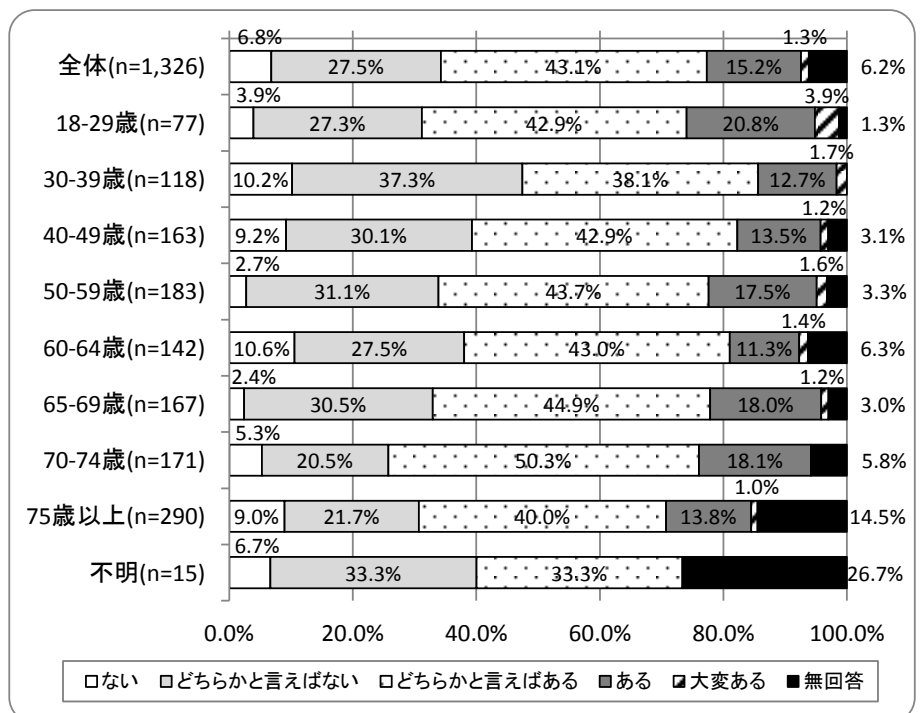
年齢別にみると「十分にある」では18-29歳において最も割合が高くなっています。また「全くない」では60-64歳において最も割合が高くなっています。



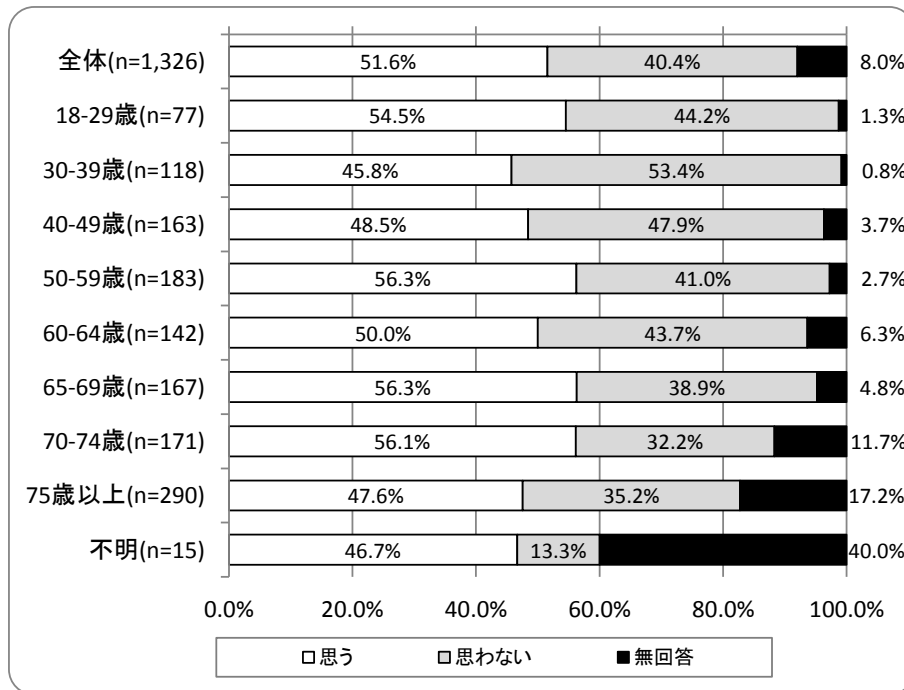
問 32 他の世代の方々と交流への興味について

他の世代の方々と交流への興味についてみると、全体では「ない」6.8%、「どちらかと言えばない」27.5%、「どちらかと言えばある」43.1%、「ある」15.2%、「大変ある」1.3%となっています。

年齢別にみると「ある」では18-29歳において最も割合が高くなっています。また「ない」、「どちらかと言えばない」では30-39歳において最も割合が高くなっています。



問 33 他の世代の方々と交流する場があれば参加したいと思いますか



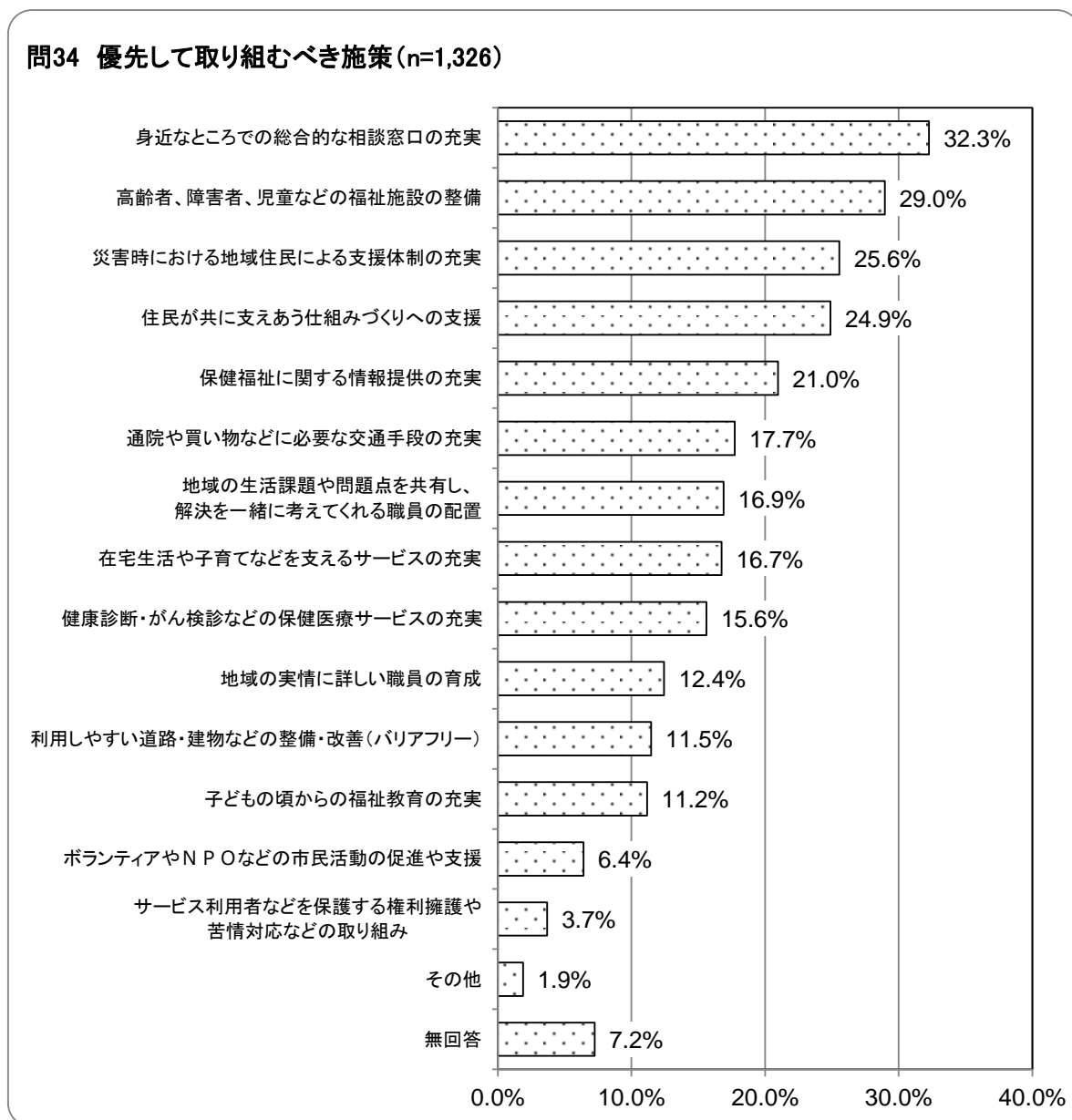
他の世代の方々と交流する場があれば参加したいと思いますかについてみると、全体では「思う」51.6%、「思わない」40.4%となっています。

年齢別にみると「思う」では50-59歳、65-69歳で割合が高くなっており、また「思わない」では30-39歳で割合が高くなっています。

VIII 市民アンケート調査結果(その他)

問 34 今後、今治市が優先して取り組むべき施策

今後、今治市が優先して取り組むべき施策をみると、「身近なところでの総合的な相談窓口の充実」が 32.3%と最も割合が高く、次いで「高齢者、障害者、児童などの福祉施設の整備」29.0%、「災害時における地域住民による支援体制の充実」25.6%、「住民が共に支えあう仕組みづくりへの支援」24.9%、「保健福祉に関する情報提供の充実」21.0%の順となっています。



年齢別にみると、18-29歳では「災害時における地域住民による支援体制の充実」、30-39歳では「在宅生活や子育てなどを支えるサービスの充実」、40-49歳、50-59歳、60-64歳では「身近なところでの総合的な相談窓口の充実」、70-74歳、75歳以上では「住民が共に支えあう仕組みづくりへの支援」の割合が高くなっています。

地区別にみると、旧今治市で「身近なところでの総合的な相談窓口の充実」、旧越智郡島しょ部で「通院や買い物などに必要な交通手段の充実」が他の地区と比較して割合が高くなっています。

属性	区分	全体	住民が共に支えあう仕組みづくりへの支援	ボランティアやNPOなどの市民活動の促進や支援	身近なところでの総合的な相談窓口の充実	保健福祉に関する情報提供の充実	在宅生活や子育てなどを支えるサービスの充実	地域の実情に詳しい職員の育成	地域の生活課題や問題点を共有し、解決を一緒に考えてくれる職員の配置	高齢者、障害者、児童などの福祉施設の整備	健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実	サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取り組み	子どもの福祉教育の充実	災害時における地域住民による支援体制の充実	通院や買い物などに必要な交通手段の充実	利用しやすい道路・建物などの整備・改善（バリアフリー）	その他	無回答
年齢階層別	18-29歳	77 100.0%	13 16.9%	4 5.2%	17 22.1%	16 20.8%	22 28.6%	9 11.7%	14 18.2%	24 31.2%	15 19.5%	3 3.9%	14 18.2%	27 35.1%	6 7.8%	15 19.5%	2 2.6%	1 1.3%
	30-39歳	118 100.0%	18 15.3%	3 2.5%	26 22.0%	19 16.1%	46 39.0%	10 8.5%	17 14.4%	22 18.6%	40 33.9%	4 3.4%	24 20.3%	30 25.4%	17 14.4%	23 19.5%	3 2.5%	2 1.7%
	40-49歳	163 100.0%	25 15.3%	8 4.9%	58 35.6%	36 22.1%	34 20.9%	20 12.3%	26 16.0%	45 27.6%	22 13.5%	4 2.5%	30 18.4%	49 30.1%	34 20.9%	20 12.3%	9 5.5%	5 3.1%
	50-59歳	183 100.0%	43 23.5%	10 5.5%	75 41.0%	55 30.1%	27 14.8%	22 12.0%	43 23.5%	57 31.1%	23 12.6%	8 4.4%	17 9.3%	43 23.5%	36 19.7%	24 13.1%	6 3.3%	7 3.8%
	60-64歳	142 100.0%	27 19.0%	13 9.2%	58 40.8%	34 23.9%	22 15.5%	18 12.7%	23 16.2%	45 31.7%	29 20.4%	5 3.5%	9 6.3%	38 26.8%	20 14.1%	14 9.9%	0 0.0%	7 4.9%
	65-69歳	167 100.0%	50 29.9%	12 7.2%	65 38.9%	39 23.4%	25 15.0%	18 10.8%	28 16.8%	48 28.7%	25 15.0%	6 3.6%	23 13.8%	38 22.8%	29 17.4%	17 10.2%	2 1.2%	4 2.4%
	70-74歳	171 100.0%	62 36.3%	11 6.4%	53 31.0%	30 17.5%	24 14.0%	25 14.6%	28 16.4%	52 30.4%	22 12.9%	10 5.8%	10 5.8%	37 21.6%	36 21.1%	18 10.5%	1 0.6%	14 8.2%
	75歳以上	290 100.0%	89 30.7%	24 8.3%	73 25.2%	46 15.9%	19 6.6%	43 14.8%	43 14.8%	87 30.0%	30 10.3%	9 3.1%	21 7.2%	77 26.6%	55 19.0%	21 7.2%	2 0.7%	50 17.2%
	不明	15 100.0%	3 20.0%	0 0.0%	3 20.0%	3 20.0%	3 20.0%	0 0.0%	2 13.3%	4 26.7%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 40.0%
	地区別	市全体	1,285 100.0%	320 24.9%	81 6.3%	416 32.4%	274 21.3%	216 16.8%	162 12.6%	217 16.9%	376 29.3%	201 15.6%	49 3.8%	146 11.4%	333 25.9%	229 17.8%	149 11.6%	25 1.9%
旧今治市		875 100.0%	213 24.3%	56 6.4%	317 36.2%	179 20.5%	162 18.5%	104 11.9%	140 16.0%	263 30.1%	143 16.3%	39 4.5%	106 12.1%	221 25.3%	127 14.5%	111 12.7%	16 1.8%	47 5.4%
旧越智郡陸地部		261 100.0%	71 27.2%	19 7.3%	63 24.1%	64 24.5%	38 14.6%	32 12.3%	50 19.2%	79 30.3%	40 15.3%	7 2.7%	32 12.3%	73 28.0%	57 21.8%	26 10.0%	6 2.3%	17 6.5%
旧越智郡島しょ部		149 100.0%	36 24.2%	6 4.0%	36 24.2%	31 20.8%	16 10.7%	26 17.4%	27 18.1%	34 22.8%	18 12.1%	3 2.0%	8 5.4%	39 26.2%	45 30.2%	12 8.1%	3 2.0%	20 13.4%
不明		41 100.0%	10 24.4%	4 9.8%	12 29.3%	4 9.8%	6 14.6%	3 7.3%	7 17.1%	8 19.5%	6 14.6%	0 0.0%	2 4.8%	6 14.6%	6 14.6%	3 7.3%	0 0.0%	12 29.3%

問 35 支えあい、助け合えるまちづくりを進めるためのご意見・ご要望(抜粋)

高齢者に関すること
共に支えあう助け合う事は大事ですが、今在宅で障害者やお年寄りを介護している家族は、すごく大変で月一度の無償のデイサービスで金銭的、肉体的な休息も検討してほしいと思います。
近所は空き家ばかりです。高齢者ばかりで若い人が居ないので心配です。よろしくお願いいたします
核家族化、高齢化が進む中、地域の人に気を配る余裕がない人の方が多いと思うので、ボランティアや行政の力が必要だと思っています。
これから高齢者の増える事を考えたら生活していく上で支援が受けやすい状態が整っている事が安心して生活出来る基本だと思うので福祉の事には行政が力を入れてほしいと思います。

子育てに関すること
幼児や小学生が遊べる屋内施設がない。児童館は狭く、小さい子がいるので危ないし走り回れない。香川県のゴールドタワーのような屋内に遊具がある施設があれば、雨の日や寒い日は助かるのに…。有料でもいいので。
私自身、子育てをするようになって、子育て広場があることを知り、よく利用させてもらっています。でもはじめは、一人で知らない人たちがいる中になじめるのか不安で知りあいの人が行くときに一緒に行き、何度か行く中で顔みしりの人ができ、今では一人でも利用するようになりました。中には利用したくても一人では不安で、全く知らない人もいるのかもしれないと思います。また今は子育てをしていて、なかなかできないけど、ボランティア的なことに興味はあるけど、自ら知らべてまで、しようと思っていないし、人から聞いたり、何かで知ったりする機会があれば、そういうことにも挑戦してみたいと思います。だから、もっとどんなことをしているのか知る機会が増えればいいと思います。
私は正直、自分の子どもの子育てで精一杯です。まわりも、同じくらいの子どもがいて、共働きだったりするので、誰かを支えたり、助けたりはなかなか大変だと思います。私としては、もう少し子育てがしやすい世の中になってほしいと願っています。
今治には児童館が大変少なく、波方までよく行きますが、雨の日など子どもが遊ぶ場を作してほしいです。行くと人との交流もあるし、申し込みなどせずに公園感覚で行ける場が欲しいです。
景気回復しないと、人を助けたいと思う気持ちはなかなかもてないと思う。子育て支援も、もっと充実しないと、今から子どもを産もうと思っている人も、なかなか産めないと思います。
子どもの頃からの教育が大事だと思います。(思いやりのある強くてやさしい教師の育成が大事と考えます。)・日本の未来は教育の質向上にかかっております。

地域に関すること
地域の相談窓口といえば民生委員さんだが、個人的な情報を知られ、近所の噂の元となっている印象が否めない。あまり良いイメージがなく、地域活動に参加する気があまりしない。困ったと思った時に民生委員さんより市の方に相談すると思う。
地域の人との交流の場が少なく、まかせきりになっていることが多い。アパートやマンションが増え、誰が近所に住んでいるのかわからない。
地域の行事へ参加したくても、足、腰が不自由で参加できない人が多いです。こういった人々の支援が必要です。
地域で育ててもらったことに感謝し、地域に恩返しをしてゆく気持ちを育む教育が必要だと思う。
他の地方より引っこしてきて、アパート暮らしでは、何もわからない。広報も入らない。

地域に関すること
昔と違って地域の交流が少なくなり、その上近所付き合いも、少なく難しくなってきた。今後この高齢化社会の地域生活の輪を広げて行くのが課題です。
人が生活していく上でお互いに支え合い、助け合うということは今さら言うまでもなく当然のことである。しかし、具体的にどうすればよいかとなると、考えさせられる。会えば挨拶ぐらいなら出来るが、実際どのような行動をおこせばよいのだろうか。車に乗れない高齢者や障害者をタクシー代わりに乗せて行くのもよいが、交通事故に遭遇することも考えれば親切も良し悪しということになる。またそのような行為に対して深入りも出来ず線引きがむずかしいとつくづく思う今日この頃である。そして朝倉のようなどこかで人情厚い地域では出来ても、少し町なかに行くといほとんどの人が権利は主張するが、他人のことにはかかわりたくない、という考えのようである。
常盤地区では公民館を中心にいろんな世代交流の場が持たれている様に思います。自分はあまり参加しないのですが、地域の人が顔見知りであるという事が何事においても役立つのではないかと思います。自分の事は自分で解決したいとは思いますがどうにもならない時助けてほしい。どこを頼ればよいか、情報がほしい。今の私の情報源は広報です。
自治会の活動に全ての人が参加しやすいように(参加するように)仕組みをつくる。
児童が何人もいる家族で自治会に入っていない人、高齢者で一人暮らしの人、とにかく今治市は自治会に入っていない人が多過ぎます。助け合える町づくりを進めるのならまず、皆さん自治会に入る事からだと私は思います。

行政に対する要望
日常生活上、困った時(どんな場合でも)市役所へTELするのではないかと思いますので、すぐに対応できる様に窓口を広げてほしい。又、すぐに支援ができる様人材の確保をしてほしい。
同じ今治市民でありながら病院通い、障害者の活動、市役所(公共施設)を利用するのにも橋代がかかり、観光客と同じ料金で橋を利用しなければなりません。橋がかかって10年余り便利になりましたが経済的な負担の軽減に今治市民の支え合い助け合いの精神で橋代の補助をして欲しいです。
福祉、通院などにしても、島しょ部住民からすると不利なことが多い。橋の通行料が他の高速道路に比べ高過ぎる。今治市として合併したのなら、市内住民として同等に扱ってほしい。
行政が、地域の伝統行事の保護・支援を行ない、地域の人が心の絆を深めていくべきである。
共働き家庭が多くなっている現在、地域での支え合いが難しくなっています。相談窓口など、土日等にも活用できるととても助かります。
気軽に相談できる窓口をたくさん設定する。地域の情報を頻繁に流がす。
ボランティア等は、一方的な押し付けになる可能性が有ります。利用される側の立場を十分に理解する事と、気軽に利用できるシステム(窓口等)を作って頂ければと感じています。住みやすい地域作りを行って頂けるよう、期待しています。
高齢者などが住みよい地域づくりは必要ですが、若い世代が、生活できる居住できる、今治市づくりが早急に必要と思います。
医療、福祉について、年配の方は、身近な問題であるので、問題点や様々な意見を持っておられるが、私のような20代の若い人たちは、市や町が、いったい、どんなことに、どのように取り組んでいるか、全くわからない。若い年代の人たちも、取り組んで、いろいろな世代の人が、支え、助け合えるようにしてほしい。

災害に関すること

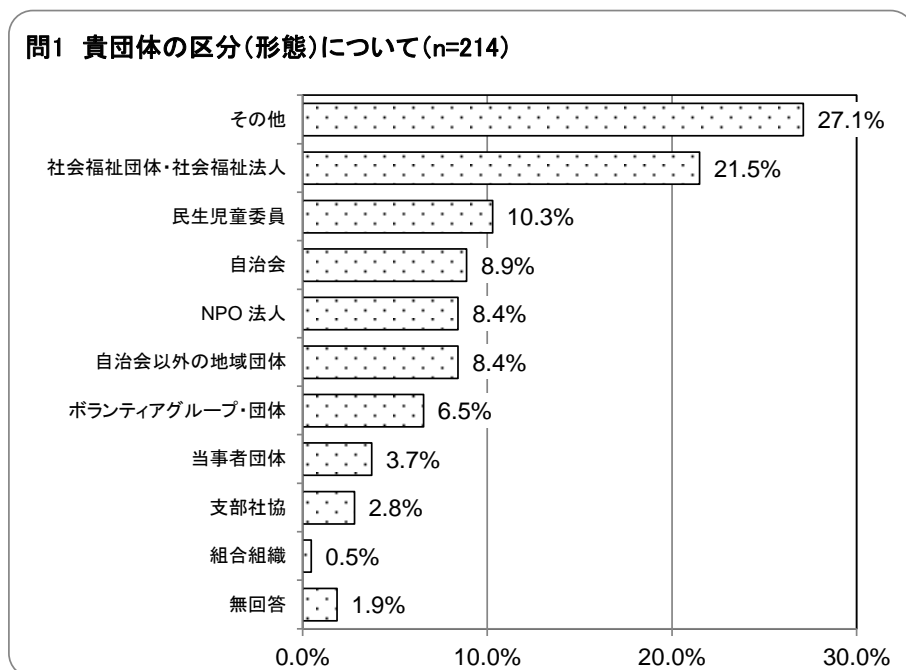
災害時に取りべき行動についての講習会があればと思います。高齢者、障害者への支援方法など地域で支えあう体制作りの強化が求められていると思います。

災害時における地域住民による支援体制の充実を計る為に今治市の積極的な対応を実施してほしい。住民としては対応があまりにも不十分に思われる。

自治会及び地区等で地震、火災等の避難訓練等の実行を年に2～3回する。市防災マップ等の配布も大切です。実際に市民の命を守るため避難訓練を日頃から実行すること。

IX 福祉関係団体アンケート調査結果(貴団体の概要について)

問1 貴団体の区分(形態)について

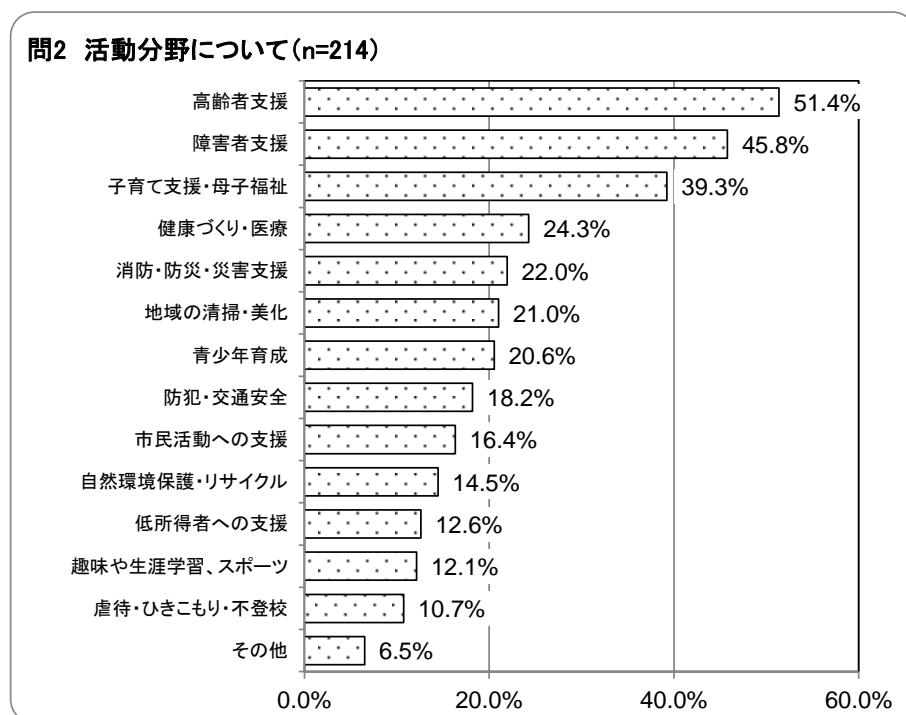


貴団体の区分(形態)についてみると、「その他」が27.1%と最も割合が高く、次いで「社会福祉団体・社会福祉法人」21.5%、「民生児童委員」10.3%、「自治会」8.9%、「NPO法人」、「自治会以外の地域団体」8.4%の順となっています。

<その他(抜粋)>

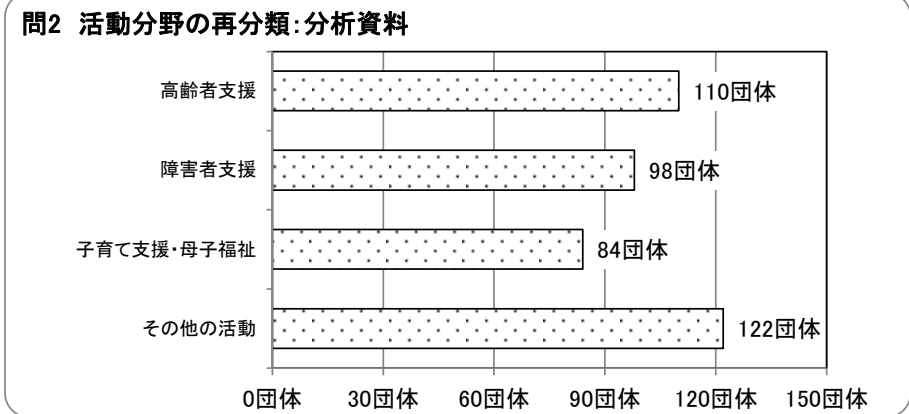
医療法人、株式会社、児童クラブ、地域包括支援センター、婦人会 等

問2 活動分野について



活動分野についてみると、「高齢者支援」が51.4%と最も割合が高く、次いで「障害者支援」45.8%、「子育て支援・母子福祉」39.3%、「健康づくり・医療」24.3%、「消防・防災・災害支援」22.0%、「地域の清掃・美化」21.0%、「青少年育成」20.6%の順となっています。

グラフの選択項目「健康づくり、医療」から「その他」までを「その他の活動」と再分類し、4指標としました。



問3 提供している支援・サービスについて(抜粋)

65歳以上の高齢者及び介護者に対する医療 福祉 全般の総合相談 独居高齢者の実態把握 福祉サービスの申請代行
65歳以上独居老人の安否確認、相談、配食活動等。母子家庭等生活困窮証明、保育所入所にかかる就労証明等。小学生下校見守り活動。赤ちゃん訪問による実態調査と育児支援。
H22年3月に今治支部として当事者団体の今治市難聴協会(えがおの会)を設立した。以降毎月の例会を通して難聴者への社会の理解促進や難聴者の社会参加の促進に向けての活動を行うと共に生きがいづくりのために会員相互の親睦も図っている
クッキー班のお手伝い 園生さんと共にクッキーの袋づめ 計量 シールはり等(現在は少なくなりました) 園の行事の手伝い 夏祭りの車イス押し 運動会のお手伝い クリスマス会 お月見会等 行事の補助等
ケアハウス、グループホーム、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、介護付き有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス
デイサービス、ヘルパーサービス、高齢者生活支援福祉センター管理運営、関前地域福祉活動
パウンドケーキ製造販売 さり織り作業において支援指導
ふれあい・いきいきサロン、ボランティア活動への支援、給食サービス等。
ふれあい推進事業等又子育て支援で小学校 保育所と連携事業で料理教室他で婦人会員常時25名位は参加しています又老人保険施設訪問 花植又道路清潔 交通安全 家族の健康等に参加しています
医療、介護サービス、健康活動、健診。
医療、救急・介護サービス事業(見学、おためしサービス)・えひめ子育て応援企業・院内保育所(一時的に企業外の地域子ども保育)・健康教室(セミナー)(広瀬病院・クリニック)・地域と(介護施設、病院)との連携(地域盆踊り、文化祭、他行事等)・いまからネット登録・独居高齢者配食サービス
一人暮らし高齢者の見守りや相談支援。65歳以上一人暮らしの方に年2回2月・5月に国分地区婦人部調整の昼食サービスを実施。年1回ヘルシーサークル調整のおやつ(おはぎ)サービスを実施。
家族介護教室開催業務、福祉電話による安否確認サービス業務、高齢者福祉サービス等申請補助業務、在宅高齢者実態把握業務、地域包括支援センター協力業務(夜間対応)。
家族相談事業・研修会での体験発表など。
火災警報器取り付けを希望する老人宅を訪問し取り付ける。防犯灯の設置手続をする。
介護や福祉・高齢者の権利擁護・ケアマネジャーの支援・介護予防の支援
介護施設への訪問、地域の子どもと高齢者の交流、子どもへの郷土料理の伝承、伝承行事の支援(盆踊りなど)、会員の趣味、生涯学習の活動。
介護事業サービス 特別養護老人ホーム、介護度平均4.5×50人。デイサービスセンター、利用者定数1日20人。ショートステイ、利用者定数1日10人。ケアハウス介護度平均1.1×30人。・地域行事への参加、盆おどり、朝倉フェスタ。
介護保健施設として要介護高齢者の介護およびショートステイ事業にて在宅高齢者を短期受入し支援している
介護保険サービス 居宅生活支援 同行援護 移動支援 ふれあいホームヘルプサービス 入院ヘルパー 子育て応援ヘルパー 自費訪問

介護保険による訪問介護(身体介護、生活介護)、介護保険による予防訪問介護、介護保険で出来ないサービス(保険外サービス)、病院付き添い、話し相手、大掃除、草抜き等。
介護保険事業(デイサービス、グループホーム、小規模多機能)。配食サービス(火、金)。地域福祉事業(福祉教育、小地域ネットワーク作り他)。生活福祉資金窓口業務。
介護保険事業(訪問介護事業、居宅介護支援事業)・介護教育事業(バス協会と協働、県警と協働)・利用者支援業、小中学校の福祉学習、介護職員育成・介護者支援業(認知症サポーター研修)
介護保険法に基づく介護保険事業及び元気高齢者支援 歯科診断事業(外来及び訪問)
介護保険法及び総合支援法によるサービス提供をベースとして契約利用者 地域住民に対して緊急時等の対応を24h体制で行っている 法人も自治会法人会員としてリーダー的役割をこなしている
海岸の清掃作、運動、DVD 観賞等による健康づくり、体育大会、ワイワイフェスタ等による、会員同士の親睦と精神的な高揚。
外出買物 外食 行楽外出等
各種制度の説明、手続きの支援、相談、透析医療に関する各種情報の公開。個別相談事項等。
学校との連携による、ふれあい推進事業、公民館活動。
学校終了時に、帰宅しても、親が仕事で、保護の受けられない留守家庭の小学生を授かり、安全に、支援する、登録制の有償施設。
学童保育
休日を利用してキャンプ指導や子ども会等を活動している
居宅介護支援、行動援護、移動支援、重度訪問介護。
居宅介護支援事業所 住み慣れた自宅にて支障なく生活が出来る様 本人の選択 助言を行ない、居宅サービス計画を作成する 訪問介護事業所居宅サービス計画にて利用者の支援を行なう
敬老会行事、高齢者の交通安全教室、サロン、朝倉地域の一斉清掃(年2回)、共同募金、社協会費に協力。
月に一回、老人介護施設(ウェルケアサービス)を訪問し、一時間弱の交流及び、歌や楽器、紙芝居等の出し物を披露しています。年に数回、ハルモニアや山路白鳩等のついでに広場で、30分程度の”お歌の会”をしています。
月一回、旬のものなど使用して親子でお菓子作りや料理をしています。
古紙回収、廃油回収、軽スポーツ、盆踊り大会、囲碁大会、文化祭、中学生福祉体験、餅つき大会、亥の子まつり、しめ縄作り
光生病院(病床数51床 2次救急指定病院)介護老人保健施設(いまばり光生園51床おおいし光生園84床居宅介護支援事業所光生園 通所リハビリテーション(おおいし光生園定員40名)短期入所療養介護(おおいし光生園空床利用)
公民館 地区集会所にてサロン関係
厚生労働省の国庫補助を受ける放課後児童育成事業として今治市放課後児童健全育成事業実施要綱及び今治市放課後健全育成事業実施要項に基づき昼間保護者のいない小学校児童を児童クラブで預かり放課後における健全育成活動を行う(共働に家庭 祖父母が昼間子どもを見られない家庭等)
高齢者の見守り活動。子どもまもり隊活動。防犯相談所長(防犯パトロール、駐在所連絡協議会活動)。育成園、療護園とのボランティア団体の副会長。富田さわやかクリーン隊で清掃、花植活動。
高齢者の方々(希望者)に、給食サービスの食事づくり。保育園児から、小学生までの子どもとのふれあい事業、無人駅及び周辺の清掃
高齢者への見守り支援、災害時要援護者への登録及び見守り、共同募金、歳末助け合い活動への協力、要援護者への訪問、連絡調整活動
今治市から委託を受け0才からおおむね3才までの子どもを持つ子育て中の親子がゆったりと楽しい時間を過ごせるような場所の提供と子育てに必要な講習会等を行っています
今治市の委託事業として、小学校児童の放課後における遊びを主とする健全育成事業。
今治市の小学校に通う1年～6年生まで放課後、長期休みを小学校の空教室、学校敷地内専用施設で2～3名の指導員で宿題、生活、遊びの指導をしています。
今治市地域包括支援センター、協力業務。・今治市在宅介護支援センター、業務。
子育ての支援をしたい人と支援を受けたい人が会員となり相互で支援活動を行う。活動の調整、会員と地域の人との交流、支援する人の養成とレベルアップ、育児に関する講習会の開催など。
子育て支援センターとして育児相談 遊び場の提供 園庭開放 育児講座など

子育て支援拠点事業所として、主に未就園児親子のふれあいの場を提供し、子育てに関する相談に応じ、講座、イベントなどを開催している。
施設入所支援、生活介護は日中活動事業で作業、余暇的活動、運動の活動の機会の提供、入浴、排泄及び食事等の介護を通して、身体機能、生活能力の向上に努めています。
児童自立支援施設に訪問し、児童と交流をする。(交流会を行う)他の青少年育成団体と協同して、交流会を行う。
児童発達支援、放課後等デイサービス
自治会での範囲でできる活動。
自治会活動を母体とした範囲内で地区コミュニケーション推進活動に関わる団体に、各々予算の配分支援の回収検討を以て運営体制をするよう継承している
自立訓練(生活訓練)事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業
社会福祉のボランティア(介護の手伝い)慰問 交通安全母の子ども守り隊 竹林の美化(子ども達を支え)竹で炭焼きをし、青少年の育成の交流している 子ども達を交え料理小物作もする
社会福祉士・精神保健福祉士等の専門職員を配置し、医療・保健及び地域の社会基盤との連携強化のための調整・地域ボランティア育成、障害に対する理解促進を図るための普及啓発等の事業と相談支援事業を併せて実施している。又、指定相談事業所として、利用者のサービス利用計画書の作成を協力している。
主に伯方町内の要介護、要支援状態にある高齢者に対し、通所介護サービスを提供しています。(送迎、健康チェック、入浴、食事、レクリエーション等)
主に未就園児の親子やマタニティの方を対象に様々な経験を通して楽しく子育て情報を交換したり友達を作ったりできる場を作っています
授業終了後、国分小学校の空き教室において留守家庭児童をお預かりし、遊びを中心に過ごせる環境を提供するところです。数名の指導員が児童の安全を見守ります。※平日授業終了後～午後5:00頃、土曜日、振替日午前9時～午後5時、夏冬春休み午前9:00～午後5時。
就業面(就職するため仕事を続けていくため)の支援及び生活面(生活習慣に関する助言やサービス情報の提供など)の支援を一体的に行う
小学校低学年の留守家庭の児童を放課後 午後5時(土曜日及び長期休暇時は午前9時から午後5時)まで見ていて教室では宿題 読書 ゲーム等運動場では縄跳び 一輪車乗り ドッジボール サッカー等々をさして見ている
障害に関わる生活相談 福祉サービスの利用相談や情報提供等 サービス利用計画の作成 島嶼部巡回相談 サロン事業等
障害者への生活相談、ハローワークとタイアップした職業相談、引きこもりがちな障害者への社会参加推進活動。
障害者支援施設(障害福祉サービス)、施設入所・生活介護・通所サービス、短期入所サービス
障害者団体主催の大会 行事へ参加案内及び参加者への支援 総会 障害者「生活相談会の日程表」を会員全員に配布 カラオケ大会 会員全員にフェスタオル2枚配布 会員死亡時香典支給 防災対策として「命の笛」支給(H26年は役員 独居障害者 計15ヶ支給)
情報提供、相談事業、全国大会中四国大会参加、他地域組織との交流会。
食事サービス(見守り支援)、在宅介護者の情報交換の場、ふれあいきいきサロンの活動支援、生活福祉資金の貸し付け相談、車いすの短期貸し出し。
親子サークルで、月2回公民館等で集まって制作や手遊び、親同士の会話などで楽しんでいきます。
清掃活動。障害者、父母等々の心配ごと相談。市所での相談は2～3回。障害者健康のための軽スポーツ。月/2回地域学習センターにて。社協、老人会、障害福祉会一緒、元気フェスタ。年/1回実施。
生活福祉資金貸付事業 福祉サービス利用援助事業 法人後見事業 心配事相談事業 在宅介護者支援事業 子育て支援事業 高齢者 障害者サロン支援 ボランティア支援 地域福祉サービス
精神障害者、就労継続支援B型、内職、清掃等の作業を提供
総合相談、サロン支援、ニーズの発掘専門機関へ繋ぐ、生活福祉資金相談手続、各自治の防災マップ(DIG)施行、電動車いす講習、小中福祉教育、ボランティア活動の調整・啓発
地域の高齢者やその家族からの相談に応じ必要な保険、福祉サービスが受けられるように、行政機関、サービス提供機関、在宅介護支援事業所等との連絡調整を行う。
地域の大祭・盆踊り等コミュニティー活動の一環としてみんなで盛り上がりやつながりを良くして和気藹々とやって行けるような支援をして「この町に住んで良かった」と思えるような街づくりに心がけて居ます

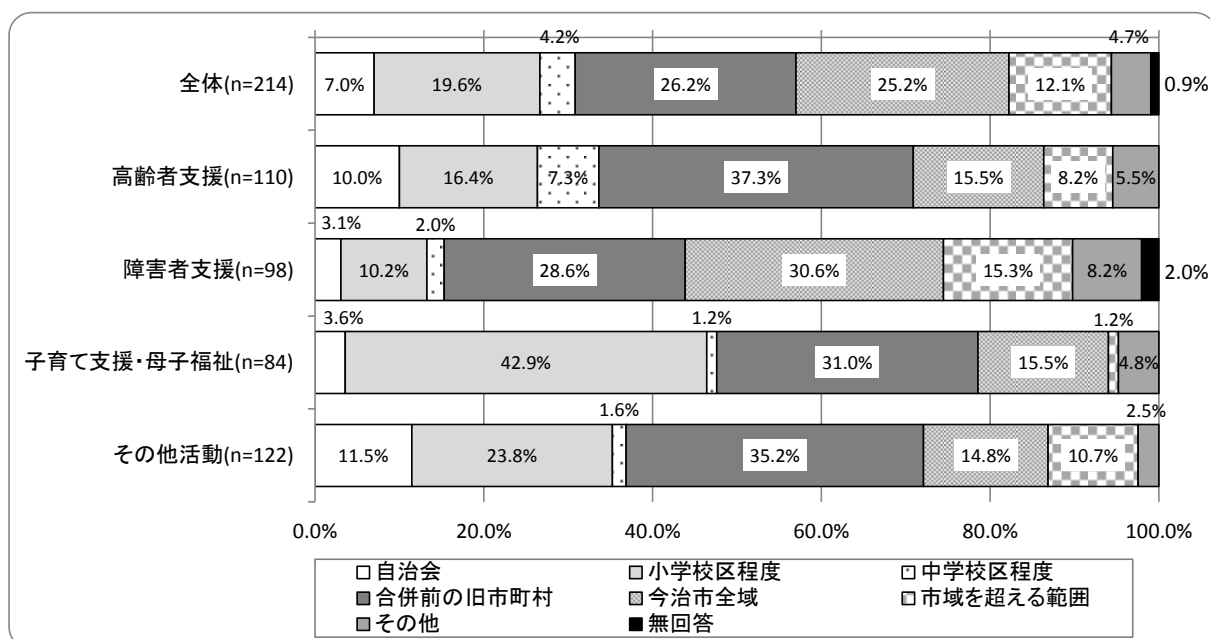
地域高齢者のデイサービス、食事の提供、独居老人への支援訪問、世代交流伝承活動及び高齢者招待、小学校児童の健康づくり大会、伝統技術の体験学習と三世交流、地域の交流と伝承活動、伝承行事による交流、地域文化の向上とふれあい交流
地域福祉活動全般、老人福祉センターの指定管理
地区は高齢者比率が高く独居の高齢者も多く高齢者の気配りは欠かせません。毎週金曜日は社協支部で作った弁当を委員が交代で届けて安否確認と、委員もまた定期的に訪問しております。
地区在住、65才以上独居の方へ訪問活動、新生児宅へ訪問活動(主任児童委員)、70才以上独居で希望に月1回の配食サービス(市社協、地区ボランティアと協同で)
昼間、保護者のいない共稼ぎ・母子・父子家庭の小学校低学年の児童に対し、学校授業日の放課後及び学校休業日(日、祝祭日、お盆、年末年始は除く)に於いて家庭にかわる適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を図る。
町内に実子のいない75才以上の独居老人への給食サービス(配食)・交通安全母の会街頭見守り(今治市婦人防火クラブで火災報知器など啓発)・婦人会で趣味の教室、学習会、子どもたちとの地域でのふれあい、リサイクル運動。・年1回海浜公園清掃、明るい選挙大西地区での期日前当日の立会人。
通所介護(含 予防リハ 食事 入浴を中心とした日帰り介護サービス 生きがいサービス 介護認定に洩れた高齢者で市が認めた者に対するサービス 配食サービス 独居or 老々世帯への昼食の配達サービス同時 or 安否確認を行う
通信発行 資源回収 賛助会員募集 レクリエーション事業(親子食事会、しまなみウォーキング、ボウリング大会等)燧風苑喫茶コーナー運営及び就労実習 定例会 学習会 座談会 施設見学 地域活動支援センターウィング運営
当クラブは昼間保護者のいない家庭の小学校低学年等(必要に応じ高学年も)の児童に対し、学校授業日の放課後及び長期休業日その他学校休業日、土曜日等において家庭にかわる遊びや生活の場を提供し、指導員の活動支援のもと、児童の健全育成を図る活動(支援、サービス)をしています。
同行援護(視覚障害者のガイドヘルプ) 居宅介護 移動支援
道路(県道 市道 農道)河川水路等の生活施設管理 防犯防災の体制管理 地域のイベント等への協力 地区内の総合的な相談対応
特別養護老人ホーム ケアハウス ショートステイ デイサービス 居宅介護支援
独居高齢者の安否確認 公民館での食事会 校区まつりへ招待(うどん券付) 赤飯くばり 赤ちゃん訪問
日常的な生活支援、健康保健医療、介護保険、在宅福祉、子育て母子保健、生活費、年金保険、家族関係、住居、生活環境等
認知症の高齢者の介護(入浴 排泄 食事) 支援
年1回、独居老人宅への花の贈呈。(町谷、平山地区)・今治育成園、今治療護園の行事へのサポート。
年間5回(1, 2, 3, 4, 6, 9月)に要介護3以上の家庭に食事サービスを実施している。年2回(本年度は7月4日(金)と11月5日(水)「見守り活動」を実施。大西小中学校の下校時間を中心に通学路等の防犯パトロールを行う。
乃万校区自治会婦人部により独居老人宅へ配食をして年6回健康相談をしている 予算面できびしい
発達障害を伴う方々が、自立した日常生活や社会生活を営むことが出来るように、適切な支援知識を持って食事、整容、更衣、排泄等の支援をしています。又、作業能力の高い利用者さんには作業の提供を行っています。
夫婦が共に働き、放課後児童の子育ができない家庭に対する支援。
婦人会の事業を大きく分けて①ふれあい推進事業②婦人学級③県の委託事業④その他 ①ふれあい事業で青少年健全育成を目的とした小学生との交流を年4回②婦人学級事業で介護教室 施設訪問などに参加し知識を深め地域を支援
布で作るおもちゃを保育園 子どもの集まりに貸し出す 織田ヶ浜清掃 ボランティア行事に参加
保護者が昼間家庭にいない小学生を放課後預かり、遊び等を通して社会性、自主性等を育てる。
保護者が留守になる家庭の児童を、放課後及び学校休業日に預かり、安全な活動と生活の場を提供し、指導員の活動支援のもとに集団生活の中で健全育成活動を行っています。(主に低学年を中心としています)
保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生の児童に授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を与えて、健全な育成を図る事業。
保護者に対して子育てと仕事の両立を支援し、保護者が安心して働き、子どもを温かく育てる事をお手伝いする場です。
放課後 保護者のいない子どもさんをお預かりしいっしょに遊んだり勉強したりしています
放課後の仕事をしている家庭への子ども預かり。

訪問介護(予防支援)障害サービスにおいて、在宅生活に営まれている利用者様宅へ、ヘルパーを派遣し、計画に沿ったサービスを実施しております。またニチイライフ(保険外サービス)の展開も行ってあります。
防災対策(学習と訓練)、地域一斉清掃、消火訓練、ゴミ分別指導、高齢者声かけ、募金活動、広報の配布、瀬戸内安芸灘とびしま海道ウォーキング大会の立哨、海岸清掃
本、個人依頼の点訳
毎月第2、4土曜日10:00～11:30美須賀コミュニティプラザを拠点とし親子で活動している 就園児以上が対象だが未就園児もOK 春は公園、夏は海・プール秋は公園、冬はクリスマス会、お餅つきなど数人スタッフ(中心メンバーとお手伝いして下さる方)で活動内容を企画 半年で親子1組500円(子ども一人増える毎に100円プラス)の会費を徴収し材料費等に充てている 他にみどり幼稚園 白鳩つどの広場 ハルミア広場におはなし会に行っている
未就園児を対象に、親子共に交流を深める為、週1回集まり、おしゃべりしたりイベントを企画して、楽しく過ごしています。
民生児童委員-65才以上の独居老人及び75才以上の老人宅への安否確認(夫婦) 毎月第2、第4の水曜日の健康体操及び健康相談(サロン活動) 65才以上の男女性の卓球指導(サロン活動)
無料職業紹介・雇用保険・各種雇用対策(若年者、高齢者、障害者等)・各種助成金制度
明るい地域、家庭づくりの推進 高齢者への配食づくり等高齢者のつどいのお弁当作り 子育て支援 小学校とのふれあい推進 福祉施設への訪問等
立花地区福祉協議会とカルチャーセンターと一緒にサマースクール、餅つき大会、三世代ふれあいしめ縄作りの時、ぜんざい、甘酒作り、七草粥、そうめん流し等。
留守家庭児童の放課後等の安全確保を目的とし、異年齢における活動の中で児童の健全育成を促進する。
老人ホームの活動支援、外出介助、清掃奉公、自転車教室、児童館活動の支援

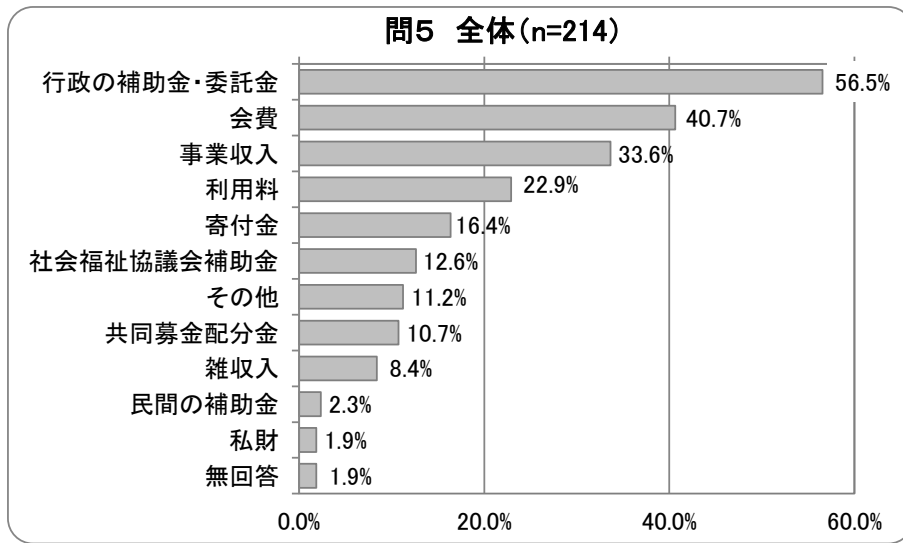
問4 活動範囲(地域)について

活動範囲(地域)についてみると、全体では「合併前の旧市町村」が26.2%と最も割合が高く、次いで「今治市全域」25.2%、「小学校区程度」19.6%、「市域を超える範囲」12.1%となっています。

高齢者支援では「合併前の旧市町村」、障害者支援では「今治市全域」、子育て支援・母子福祉では「小学校区程度」、その他活動では「合併前の旧市町村」の割合が高くなっています。

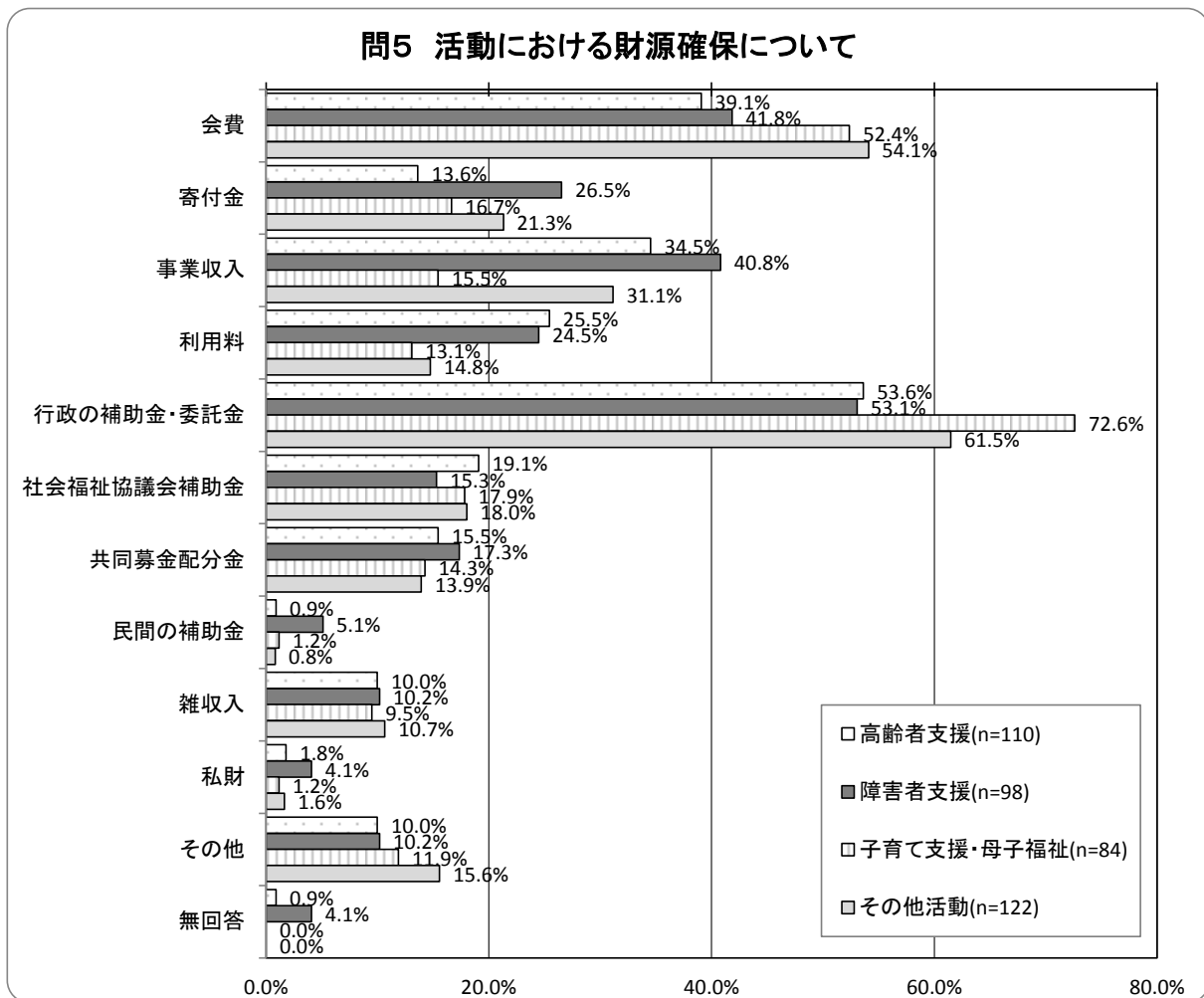


問5 活動における財源の確保について



活動における財源の確保についてみると、全体では「行政の補助金・委託金」が56.5%と最も割合が高く、次いで「会費」40.7%、「事業収入」33.6%、「利用料」22.9%の順となっています。

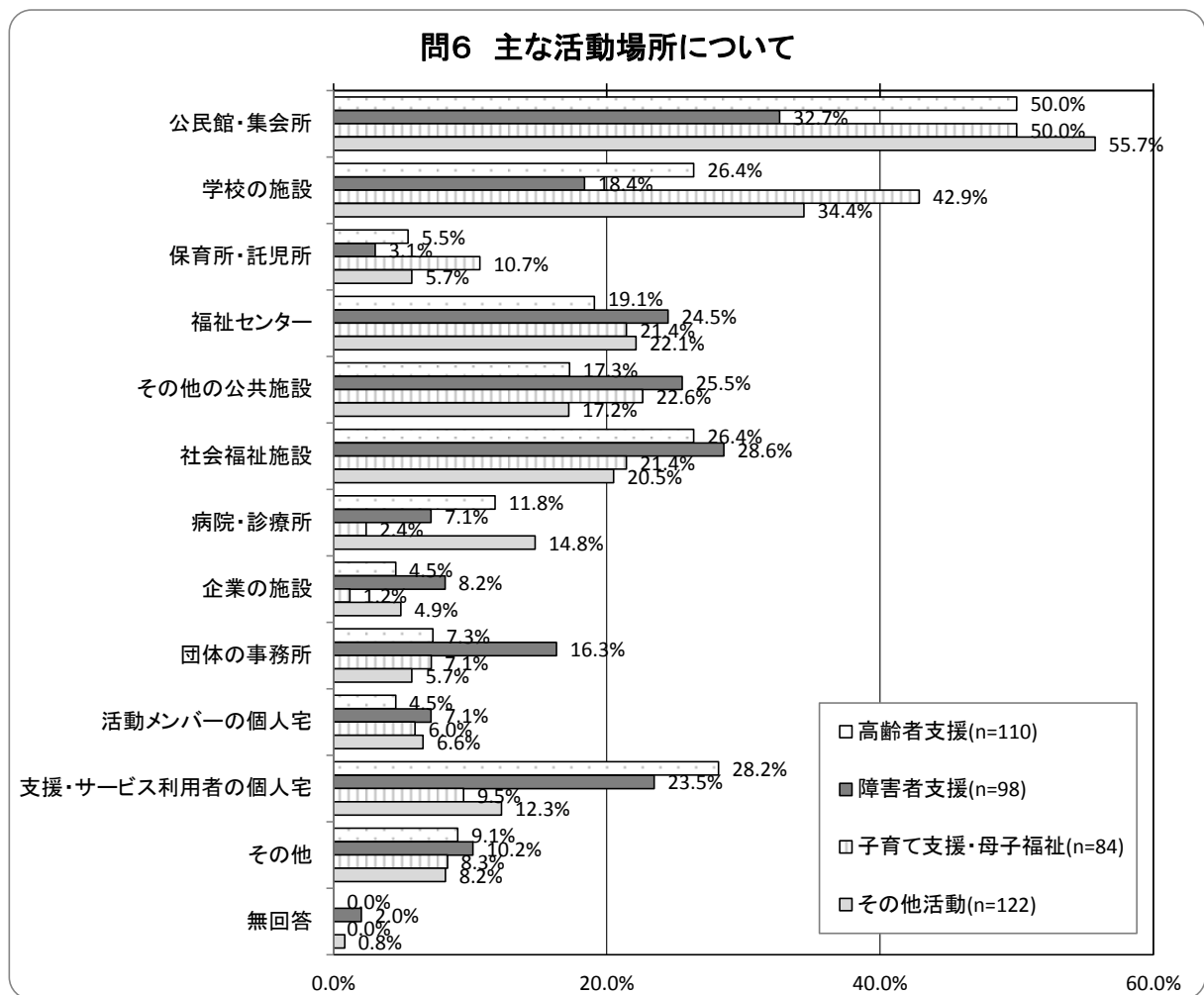
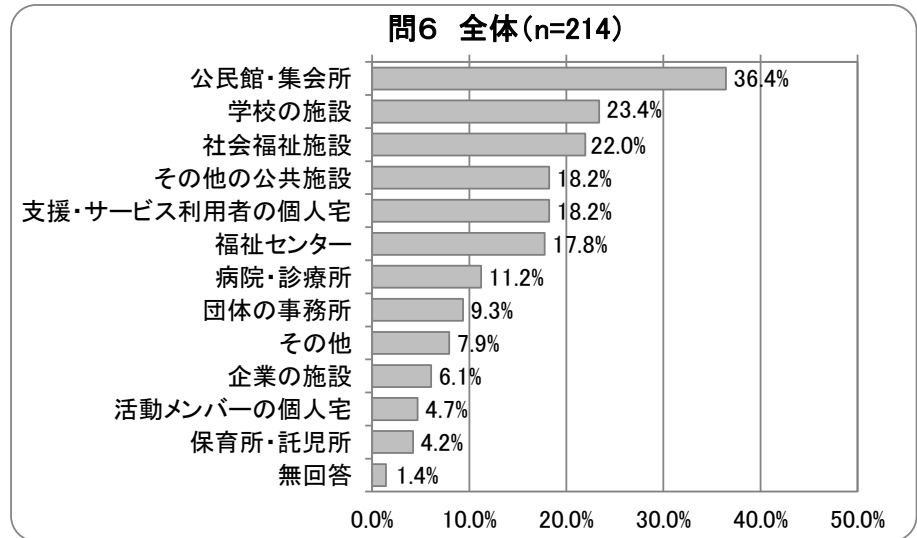
活動分野別にみると、障害者支援で「寄付金」及び「事業収入」、子育て支援・母子福祉で「行政の補助金・委託金」の割合が他の分野と比較して割合が高くなっています。



問6 主な活動場所について

主な活動場所についてみると、全体では「公民館・集会所」が36.4%と最も割合が高く、次いで「学校の施設」23.4%、「社会福祉施設」22.0%、「その他の公共施設」、「支援・サービス利用者の個人宅」18.2%の順となっています。

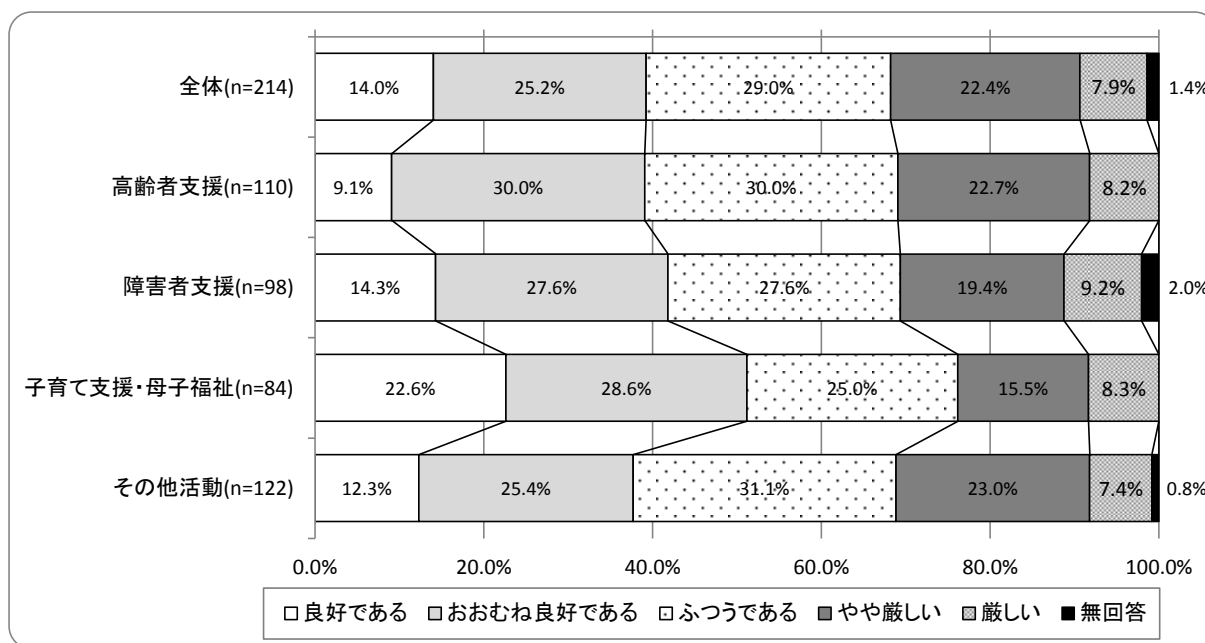
活動分野別にみると、いずれも「公民館・集会所」の割合が高くなっています。



問7 経営・運営状況について

経営・運営状況についてみると、全体では「ふつうである」が29.0%と最も割合が高く、次いで「おおむね良好である」25.2%、「やや厳しい」22.4%、「良好である」14.0%、「厳しい」7.9%となっています。

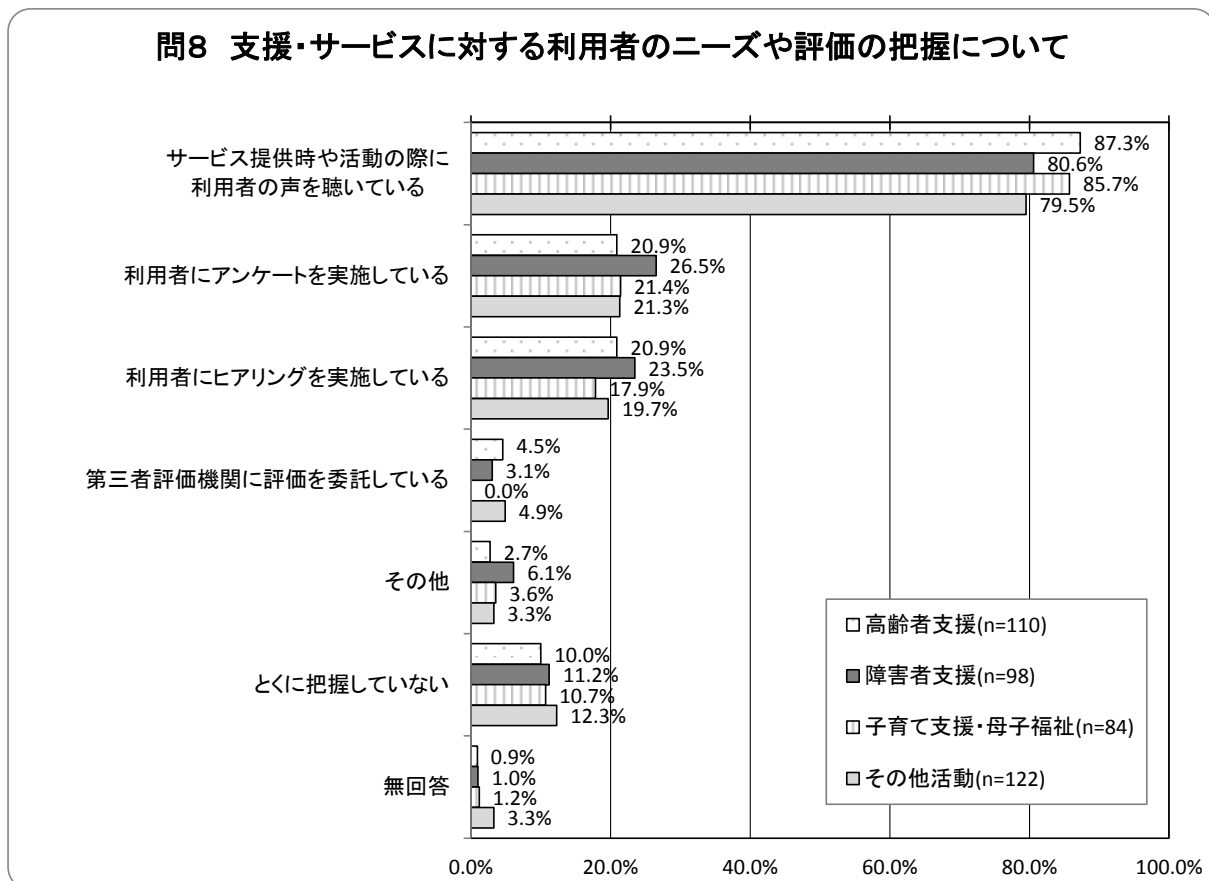
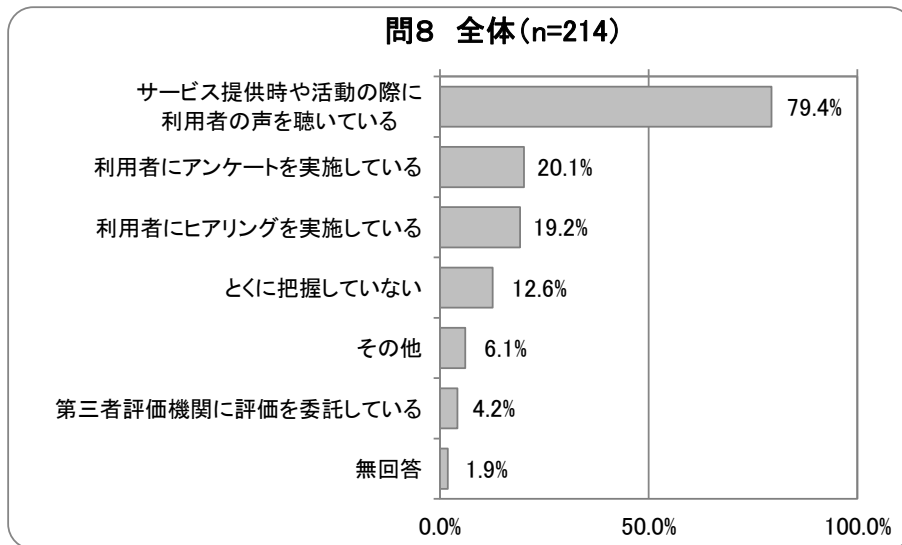
子育て支援・母子福祉で良好である割合が高く、高齢者支援及びその他活動において厳しい割合が高くなっています。



X 福祉関係団体アンケート調査結果(利用者(市民)の生活課題について)

問8 利用者のニーズや評価の把握について

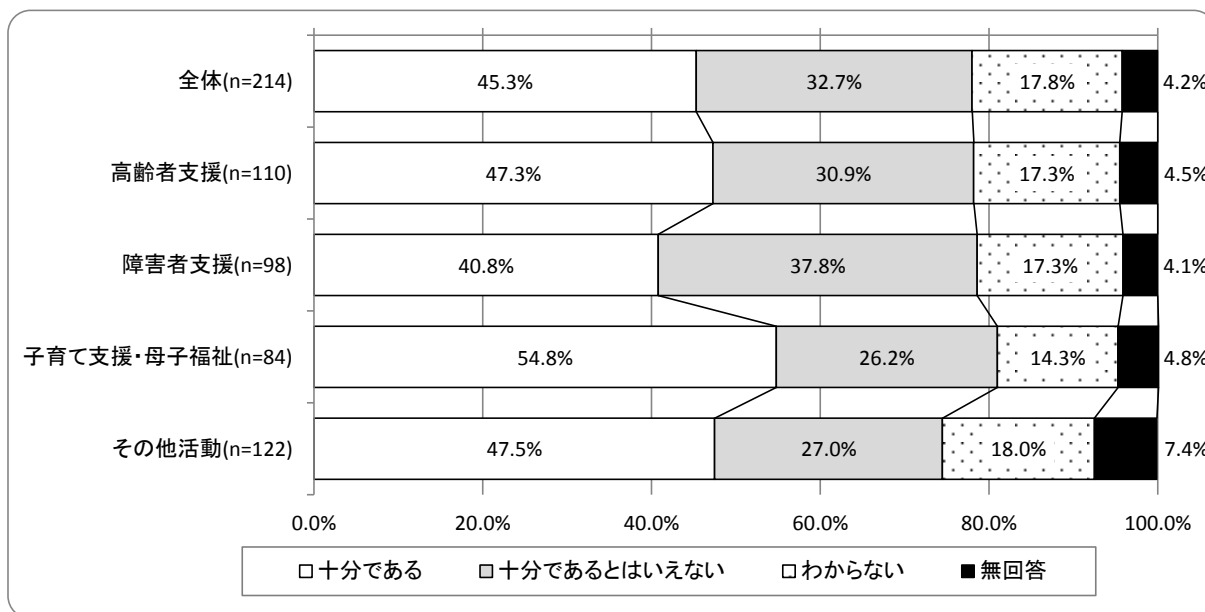
提供している支援・サービスに対する利用者のニーズや評価の把握についてみると、全体では「サービス提供時や活動の際に利用者の声を聴いている」が79.4%と最も割合が高く、次いで「利用者にアンケートを実施している」20.1%、「利用者にヒアリングを実施している」19.2%の順となっています。



問9 現在提供している支援・サービスの必要量について

現在提供している支援・サービスの必要量についてみると、全体では「十分である」45.3%、「十分であるとは言えない」32.7%、「わからない」17.8%となっています。

活動分野別にみると、子育て支援・母子福祉で「十分である」割合が高く、障害者支援において「十分であるとはいえない」割合が高くなっています。



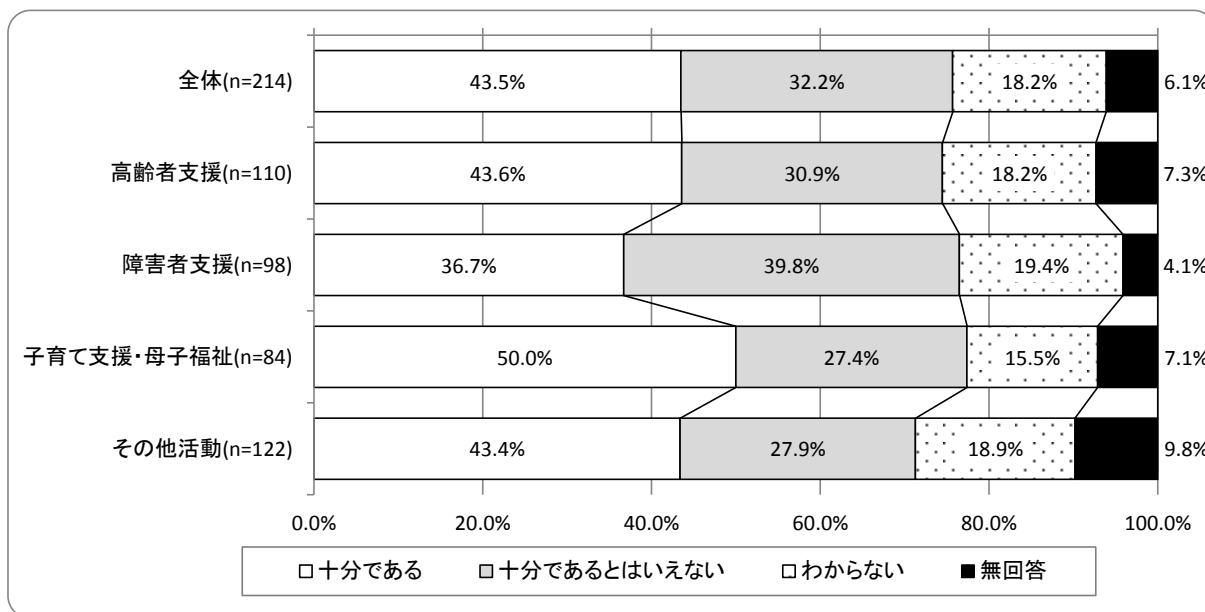
【十分であるとはいえない理由(抜粋)】

- ・人材不足
- ・資金不足
- ・利用者の固定化
- ・提供しているサービスに対してニーズが上回っている
- ・利用者が少ない

問9 現在提供している支援・サービスの内容について

現在提供している支援・サービスの内容についてみると、全体では「十分である」43.5%、「十分であるとは言えない」32.2%、「わからない」18.2%となっています。

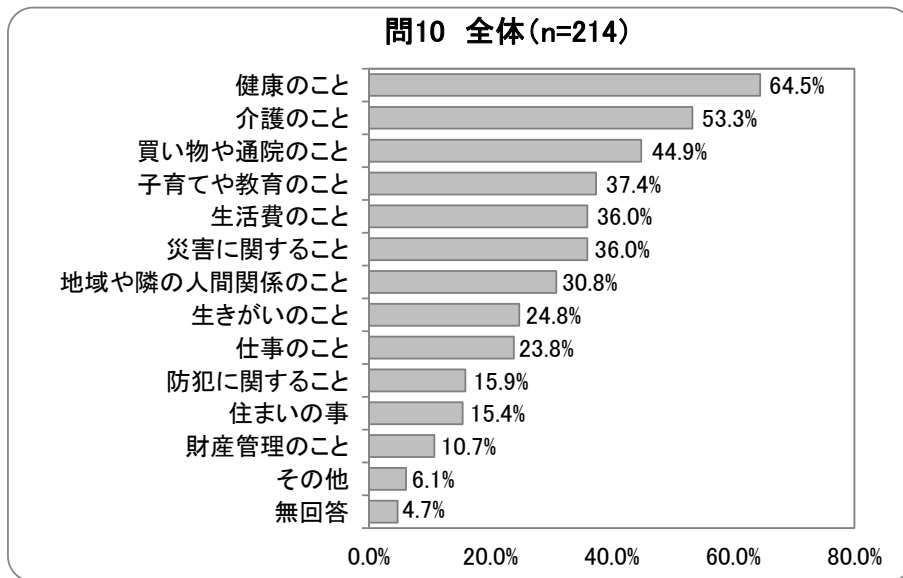
活動分野別にみると、子育て支援・母子福祉で「十分である」割合が高く、障害者支援において「十分であるとはいえない」割合が高くなっています。



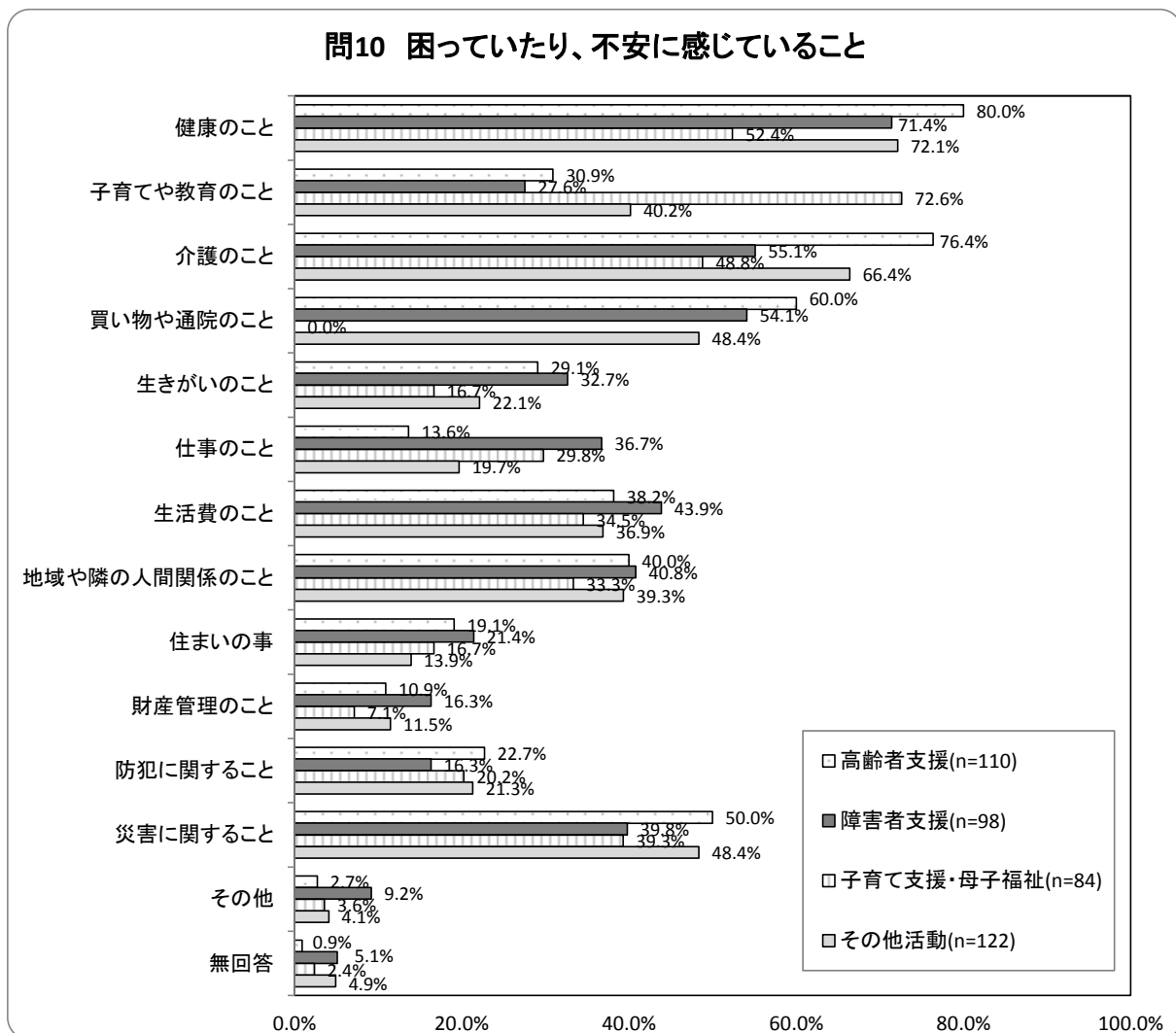
【十分であるとはいえない理由(抜粋)】

- ・スタッフ等のスキルアップ
- ・質を保つための人材育成に課題があり、人員不足になりがちであるため
- ・新しい時代ニーズにこたえるノウハウ情報の欠如、資金不足、輸送手段が無い
- ・人材不足
- ・いくら支援しても、ここ迄と云う限界がない

問10 支援対象者やサービス利用者(市民)が困っていたり不安に感じていると思うこと



支援対象者やサービス利用者(市民)が困っていたり不安に感じていると思うことについてみると、全体では「健康のこと」が64.5%と最も割合が高く、次いで「介護のこと」53.3%、「買い物や通院のこと」44.9%、「子育てや教育のこと」37.4%、「生活費のこと」「災害に関すること」36.0%の順となっています。



問 11 困っていること、不安なことの意見・感想及び考えられる解決策について

困っていること、不安なこと	意見・感想	考えられる解決策
心身の状態が安定しない	精神疾患の方は、病気の特性上、心身の状態の安定化が図りにくい。	その方に接する支援者が、病気の特性を把握し、その方に適した支援を展開していく。
周囲に不快を与えるゴミをかかえる家庭。(いわゆるゴミ屋敷)	定例会でよく事例として出されるが関与することが難しい。	行政との連携。 (ゴミの処理費用を行政に負担していただく)
独居、孤独	やはり高齢になると子どもが別の場所に住んだり、死別して一人になるなど独居が多く感じる。	費用の問題はあるが、通所介護などと同じような人との関係性をもち、良い知人関係になればと思う。その為の費用を安くする施設側(特に社会福祉法人や医療法人などの税金を免除されている団体の努力が望ましい。)
介護が必要となったとき、近くに親族がいないうえ、保証人が見つからない。	・近隣で、お世話してくれる人を捜しておく。・かかりつけ医を決めておく。	民生児童委員や近隣の方に緊急時お願いし、対応してもらう。
日中一時の利用が難しい。	施設の行事や研修等で、職員の配置が難しかった場合、お断りせざるを得ない事があり、つらい時がある。(多くが目を離せず、職員が一人付かないといけない)	サービスをする所を増やす。
「保護者の勤務時間に合わせて、子どもを預かる時間を長くしてほしい」との希望がある。	保護者の希望も理解できるが、時間的に不定期な勤務時間となり、指導員の確保が難しい。	長時間になる場合は「時間外報酬」を配慮するのほひとつの方法であろうか。
肢体不自由児が利用できるサービスが無いため、問い合わせが多くあるが、当事業所での受け入れは難しい。	利用対象者に合わせた環境を事業所内に作ることが困難。利用対象者に合わせた支援を実施するための知識、人員がない。	設備、専門知識を持つスタッフがある(居る)事業所を開設するために、市役所や社協で事業を実施していただけると良いのではないのでしょうか。
自由に外出したり余暇活動を満喫したい。	ある年齢以上の子どもさんならだれでも当然にもつ、家族以外の人と充実した時間をもちたいというニーズが、満たされていないと思われる。しかし、現時点ではあまりにもヘルパーさんが少なく、ニーズへこたえることができない。	ヘルパーの拡充は必須である。又、安心してあずけられるヘルパーの技量も大切なポイントであると考えます。
シングルマザーが多くなり、今後の子育て、又生活の安定についての悩み。	単一クラブとして話を聞くのみで、解決策は見出せない。	行政面での支援が必要。
親亡き後、子ども(障害者)はどう生きるのか。	親の高齢化、介護の問題、次に当事者自身の問題が出てくる。	各ブロック(地域)で、家族・当事者支援プロジェクト(委員会)を立上げ、家族世帯を丸ごとサポートする。
健康、介護、通院等。	個人で可能なことは即対応する。しかし、それは、一時的な対応しか出来ないと考えます。	専門機関(包括支援センター、介護施設、病院等)と連携し、根本的、継続的に対策する。
介護サービスの不平等	同じ保険料を支払っているのに地域によっては十分な介護保険サービスが受けられず地域格差が生じている	採算面でなかなか民間が進出しにくい地域については積極的に行政が働きかけ介護保険サービスの充実を図るべきではないか

困っていること、不安なこと	意見・感想	考えられる解決策
親なき後の子どもの生活が不安	会員の年齢がしだいに高くなりそういう意見が多くなってきたと思う	行政が要望の提供並びに行政からの情報を収集する 会員さんが困った事を話しやすい会づくり
利用者の加齢にともない保護者の方の対応が困難になる	利用者個々に適切に対応すること 予測される問題について利用者 保護者等との共有	行政への具体的な課題の情報提供 例えばショートステイの整備 グループホームの整備等
働きたいが就労先が見つからない	企業の障害者雇用意欲 職場実習先の確保に努めているが就労に至る条件の合致が難しい	企業の障害者雇用の理解 障害特性理解のセミナー等企業同士の障害者雇用啓発 求職者の職業能力の向上の為の訓練
交通の便が悪く買物に困っている	判断力の低下している高齢者が運転するのも危険	1回/週程度でもバスを出してスーパーまで送迎するなどのサービスを作る
独居老人の食事健康	婦人部で年6回配食していて民生委員により配達年6回	予算を増加して月1回位したい健康相談も
独居老人が年々増加している	老人で近所つきあいが少なくなっている	近所の人の声かけが必要である
ショートステイサービスの定員が少なく使いたい時こ使えない	在宅にて使えるサービスが少ない	安心して使える在宅サービス量の増加を後押しする施策
身体レベルが向上したことにより介護度が下がり必要なサービスを利用できなくなる	利用者直接(普段)接することのない調査員の判断だけで利用者の生活が大きく左右され不自由を感じる	施設利用者等の意見をもう少し聞いてもらい介護度の変更申請をいつでも行えるようにする
視覚障害者の方で同行援護のサービスを知らない(買物などの外出が不安)	自分が受けられるサービスを知らないのは問題 たぶん周りの方の負担が大きいと思う	周知するしかないけど障害サービスをあまり理解していないケアマネや施設関係者が多い
耳が聞こえなくなりコミュニケーションの疎通が困難になるので引きこもりがちになる	同じ様な立場の人の集まりがあることも知って いれば心の持ち方も変わる場合もあるのではないだろうか	市に手帳交付に来られた方に当事業団体もあることを伝えていただく
介護が必要になった身内を緊急時安心して預ける施設が少ない	利用者を常時 安心して受け入れる体制は整っていない	人材不足 人材教育 外部機関との連携 情報共有
一人暮らしで要介護状態の4又は5の人のサービス時間が少ない	サービスでの不十分な部分は実費で頂いているが、実費で支払できない人も お金を持ってない人に関してQOLが低くなる	一人暮らしの要介護状態の高い人に関して地域ボランティアサービスを検討する 関わっている事業所がボランティアで協力 一人暮らしについては限度枠を上げる
認知症 徘徊の問題	身近な問題としてとらえ住民全体が対応できるようにしたい	H27年度から包括を中心として今からネットが始まるが施設だけという逃げに走った事業ではなく住民全体を対象とした訓練等を本気で行ってほしい
中途失明の方は病気の進行による不安	生活訓練や相談に応じられる人や機関が必要	同じ仲間である視覚障害者協会 役割が大きいと思います いつでも市の窓口で相談ができることを周知すること
現在のところ無し	活動するためには必要不可欠な財源問題が先に立つ	問題発生に応じる為に常に各々の役が検討 審議し話し合いをもって対応することを基とする

困っていること、不安なこと	意見・感想	考えられる解決策
医療費 介護サービス利用料の支払いが難しい方は利用したくても利用できない	生活保護の対象となれば良いが収入が少ないにもかかわらず対象とならない方の対応に苦慮する	生活支援課 高齢介護課と連携を図りその方に合ったサービスを受けられるよう対応が必要
家庭内で精神等深い悩みを持っている方々は利用している事業所の適応性等により一度離れた場合再び行き場所なくなりその後の支援や悩みを相談できる場所が情報として伝わっていない	様々な支援が必要な人に対して近隣のサービス拠点や新規の事業所の支援内容及び場所等を伝えることにより隙間のないサービスが受けられる様にする	市役所ホームページや広報等により選べるサービスとして障害者支援事業所を定期的に記載して広く周知させる
生活保護を受給しないと生活できない	就労継続支援を利用する利用者にとって工賃の低さの問題からどうしても自立した生活が出来ないのが現状	工賃の向上 一般就労に向けての積極的な移行支援の重要性
買物する事が遠い 交通の便が悪い	身体的に問題が無くても何らかの支援が必要な人がいる	介護サービスの利用対象ではない人でも利用できる事業所の一覧(配布できるようなもの)
介護度の上昇、認知症の発症施設に入れない。受けたい介護サービスも金が無いので我慢する。	・介護環境があまりに貧弱すぎる。・福祉ボランティア育成、スキルアップに行政は熱心でない。	介護にもっと行政が資金を出す。
当事者が親の介護をしている。介護が必要な時にどう対応したらいいかわからない。	サービスを利用するにしても金銭面で利用が出来ない。どこに相談したらいいかわからない。	行政、医療、福祉、保健、高齢包括、市民で今後起きる問題を取り上げ話し合う場所を作る事で互いに住みやすい環境となる。
サービス利用者の要望(色々な要望が出てくる)。	サービス側、利用側の実情をよく話し合い妥協点を見つけていくしかない。	運営資金の増額
障害を持った方がレスパイトを利用できる事業所が少ない。	レスパイトを受け入れているが断る事が多いので利用したい方々は困っている。	レスパイトの事業所を増やす。又、専属の職員を配置する。
精神障害の方の定期的な出勤が困難な事。	しいたけを栽培するいわば製造業である為、一人の休みは他の利用者の負担へとつながる。	勤務表に配慮し他の相談機関とも連携していく。
子育て支援サービスを知らない方が多い。	市の広報が配布されていない(自治会未加入?)家庭がある等。	広報配付をなるべく全戸へ。母子手帳交付時の説明等。
介護サービスが必要になった時、申請方法相談場所が分からない。	在宅介護支援センター地域包括支援センターなどについて周知不足。	業務の中で高齢者宅への訪問を増やし周知していく。
体調不良時等、緊急時の対応。	基本的には救急車ですが状況により急ぎよ訪問を検討。	緊急時の連絡体制を整える。ヘルパーが対応できない時の対応など検討。
困っていることを相談してよいか分からない。	気軽に相談できる相手がいない。相談窓口まで行くほどではないと感じているのでは。	チームによる訪問活動(看護師、ケアマネ、保健師、社会福祉士等)。
要支援認定を受けている方は、介護保険から切り離され今までと同様のサービスが受けられるか。	事業側としても同じ不安がある。	どのように変わっていくのか、短い期間で定期的に行政からの情報提供をお願いしたい。
活動費が高くて利用しにくい。	収入が少ない家庭は、病児の預かり単価800円は、パート賃金をほとんど支払うことになって大変。	行政が低料金で病児保育を開設するか負担金を出す。

困っていること、不安なこと	意見・感想	考えられる解決策
移手段(移送サービス)	現在NPO法人が小規模で行っているがニーズに対応しきれていない。	小型バス(10人乗り以下)の小路までの運行(バス乗継拠点や地域内病院まで等)。
認知症、徘徊があり困っている。家族だけの見守りでは難しい。	近隣、地域での見守りネットワークが必要。	・家族の了承を得て関係機関への周知、見守り依頼(警察署生活安全課への写真・情報提供、介護保険各サービス機関への写真・情報提供)・「いまからネット(今治市認知症高齢者等見守りネットワーク)」の活用
健康の事	高齢者の独居の人、又は、夫婦の人は異常があれば連絡先は？と不安を感じている。近所が不在家であればなおさら。	自治会(単位)で声掛け気配り連絡先となる事を告げておく。
介護の事	近くに身内がない。	市、民生委員、近隣の方の見守り。
対象保護者が子どもを預けて怪我等に対しての事故防止の面。	クラブの立場も不安定さを感じる。	学校、幼稚園とまではいかないが、もっとしっかりした組織が必要。
地域の高齢化	若い世代は暮らし易さを市内に近い便利さに求めるのではないかと。それぞれの地域の良さだったり愛着があれば人が住むのではないかと。	隣近所地域のつながりが増すことで愛着が生まれるのではないかと。つながりの強固を図るためDIG座談会などを通して行っていく。また、その地域の良さをアピールできればと思う。
通院困難者が増えていること。	家族の支援で何とかなっている所が多いが、将来的には極めて不安。	公的な支援がもっと受けられれば・・・。
発達障害を伴う方々の保護者さんが、親亡きあと子どもさんたちの将来の環境構築がどうなるのか不安に思っている。	発達障害を伴う方々がご本人さんの持つ能力を十分に生かし、自立できるように事業所が支援する。	発達障害を伴う方々ができるだけ自立できる支援をしたうえで、地域の中で小さな集団(グループホーム等)で支援を受けながら生活をする。
親亡き後や親が病気等で介護ができなくなった際の障害児・者の生活について。	ヘルパーさんに支援してもらうことで対応ができればいいが、それが難しい場合の支援がない。	市内の入所型の施設に緊急対応のできる体制を整えてはどうか。
学校を卒業してから運動の機会が無くなり、運動不足や体重増加が気になる。	運動自体が好きではない人の場合、学校集団生活を離れてしまうと難しい。障害特性もあり強制も難しい。	好きな活動で体を動かしたりその活動地点まで歩いて行く等なるべく体を動かす。

問 12 支援することが困難で、他団体との連携により解決できたケースについて(抜粋)

困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
ある利用者さんが、ある保健師さんからの電話内容に腹を立てた。翌日になっても、なかなか怒りが収まらず。たまたま、近くを通り掛かったその保健師さんの車に気付き、停車中、助手席側のドアを何度も蹴りつけ、車をへこませてしまう。	ご利用者さんの方からは、伝達が無く、その保健師さんの方から直接、電話が入った。ご利用者さん自信、弁償が出来るようなお金を保持していない。またそのことで、更にその保健師さんに対して、腹いせ行為を行うことも考えられた。	相談支援専門員、就業・生活支援センター、当該保健師さん、等事業所管理者で対応を話し合う。	保健師さんの車の修理の見積もりが出しだい、ご本人さんの母親と相談し、母親から修理代を頂くことにする。ただし、母親が精神疾患の為、判断能力が低い。母親もまた、そのことをご利用者さんに気付かれると、母親にも暴力をふるってしまうおそれあり。上記の事に留意しながら、就業・生活支援センターの相談員さんに動いてもらい、支払いを済ませる。	当事業所内のことであれば、概ね事業所内で解決出来ることがほとんどである。しかし、事業所活動外で行われた事項に関しては、他機関の連携を要することが多い。相談を受けて、事業所外のことなので関与せずとは出来ない。ご利用者さんの生活上のことに関しても、他の関係機関等との話し合い・連携で、解決出来ることは多いと思われる。
要保護母子家庭でご兄弟も発達障害の利用児が通園しなくなった。理由は本人の体調不良、母親の体調不良ということだったが、育児のモチベーションの低さや養育環境の悪さが原因と考えられた。見まもりのためにも通園が必要と思われた。	何回も連絡するも返信なし。家庭訪問も行なったが、その時お通園させるような返信であるが、実際は通園なし。	今治市保険センター。保健師もかかわっていた家庭であったため、家庭訪問をしてもらい通園を勧めてもらう。	訪問をしてもらったあとは何日か利用する。しばらくすると体調を崩したということで利用が止まるので、園、保健師それぞれが訪問する。休みがちであるが、利用が続くようになる。今後も連携は必要。	役割分担してのアプローチ。施設だけの働きかけでは難しかったが、長期にかかわっている保健師により利用することが増えた。
独居老人が外へ出て、他者と交流する機会をもつことにより、孤独化を防ぐ。	訪問活動はできて、交流活動は財源的に難しい。	波方地域社会福祉協議会と、小学校での児童と独居老人の交流給食。	誘ってもなかなか、応募してくれる人が少なかったが何とか60名確保。結果は、子ども達の活達なふれ合い(給食と給食後のミニコンサート)で双方とも大満足した。	援助者(民生委員)が粘り強く、訪問説得する。足でかせぐ。
公民館等にスロープのない所があり、選挙投票に不便。自然不投票となる。又会合等への参加もなくなる。	市の施設であり、個人、任意団体では対応不可能。	市役所障害福祉課。意見を述べ、市全体の問題として取り上げてもらった。	選挙投票時、受け付けの職員で対応、介助をする。但し、困難時対応が可能かどうか。(車椅子、老人等への対応)	板で作ったスロープを設置とか、職員の手をわずらわせなくて済む方法を考慮出来ないのか。特に新設の施設は当事者の意見を事前に聞くべき。

困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
高齢者(90代)が同居している息子家族と折り合いが悪くなり、家で暮らすことが出来なくなった。虐待の心配もあった。	生活保護受給者であることと、介護認定が支援であるため、施設入所が難しかった。また、同居している息子以外の子供達との関係も複雑であった。	今治市役所、生活支援課、包括支援室、高齢介護課(養護老人ホーム入所担当者)	同居している息子夫婦や他の子供達との話し合いや、施設入所に向けての助言や支援を行ったが、本院の体調が悪くなり、病院へ入院となった。区分変更の結果、介護となり、退院後はグループホームへ入所となった。	本人の考えも大事だが、それぞれの子供達の考え方もあり、話し合いを持つことで、それぞれの立場を理解することができ、解決方法を見つけることができるのではないかと。色々な立場の人々が関わることが大切だと思う。
ほぼ寝たきりのサービス利用者達が、通院のため、外出したいが、3階が居室であり、また、階段が狭く螺旋状になっているため、移動が困難。	福祉車両設備の備え付けストレッチャーでの利用者の狭い螺旋状階段を移動することは困難。	こうした困難な状況(環境)でも、安全に移動できるスペシャリストである今治市消防本部消防課に助言を求め訪問。	今治市消防本部消防課を訪問した結果、レスキュー隊などで使用される特殊布担架を紹介していただき、当事業所でも、そのような特殊布担架をオーダーメイドし、サービス時に利用するに至った。	課題に直面したとき、様々な観点で解決の糸口を見出し、多種多様な機関、団体と連携していくことの重要性。
高齢者夫婦世帯(妻認知症重度)夫が妻の認知症の理解が出来ず、助けようとせず、薬物依存性になって入院を繰り返す。	子供二人(男性 兄、海外勤務、弟、東京)夫が特に介護サービスを入れることを納得せず。(教員だった経験から、世話になりたくない、束縛される・・・と勝手に隠しごとをする)	親族、在宅支援センター、包括支援センター、司法書士、生活支援員(社協)、協会の牧師、仲間、金融機関、精神病院のドクター、ナース。	妻は有料老人ホームへ。(自宅で洗剤を飲み、救急病院→有料へ)長男が帰国し援助。夫も入所させようとしたが、拒否。現在自宅で生活しているが、薬物依存は治っておらず、勝手に市販薬を購入。インターネット等で。	いくら事業所が息子さん達に細かくメールで状態を報告しても、結局、一番ひどい状態の時を目のあたりにしておらず、救急車で病院へ運ぶのは、私達であるため、他人言である。金銭の管理は父に任すため、勝手に市販薬を飲み続けている。多くの方の助けを借りても、最終の実施決定は事業所に子どもから任されたが不安。
入所に関する保証人。(実子がいるのに、親の年金をあてにしたり、扶養責任を果たさない)	入所者の身体上に異変があったら、ゆいの家に連絡し、対応すべきか。	今治市社会福祉協議会の権利擁護事業で管理をしていただき、支払いや、介護関係の業務、次の入所先まで連携協議をすることができた。	入所者、骨折し、認知症も進行し、当施設(自立できる方が入所している)では、該当者といえなくなり、次の入所先へ移っていただいた。	成年後見制度の普及と権利。養護事業の充実を願う。
参加児童が、保護者から暴力を受けたり、また保護者の方からも、自分が精神的に不安定であるとの訴えがあり、児童も友人間でのトラブルが多かった。	学校での様子もわからず、したがって学校ではどう対応しているかわからなかった。保護者と児童の関係も、専門家の考えを聞きたかった。	日高小学校、民生・児童委員、今治市役所子育て支援課、今治市役所健康推進課	学校とも情報交換し、保護者や児童とも対話を深め、相談にのったりして、その内、保護者や児童も落ち着いてきた。	学校や地域の団体、市役所の担当部署との情報交換、連携。

困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
知的障害を伴わない発達障害の児童。家族がようやく理解を始めたところではあるが、本人が自身の苦手なことを受け入れられない。そのため、事業所の利用に結びつかず、支援があまりない中で生活をしている。毎日パニックを起こす状態。	本人が事業所を利用できない状況では、直接的な働きかけができない。家族にアドバイスを求められなくても本人のことがわからないので適切な助言ができない。	障害者生活支援センター、本児が通う学校のクラス担任。	家族が選んだ医療機関で服薬開始。本人は落ち着いて過ごせる日が増えている。学校ではスクールカウンセラーが保護者と面談。担任とも連携をとって、本人の過ごしやすい環境作りができています。当事業所は家族連携加算のみで家族、関係者と関わっている。	福祉サービスと教育現場との連携。家族、本人ともに福祉とは縁がない、縁を持ちたくないと思っている方は多く、それでも状況が良くない時は福祉に頼るしかない時期もある。その際にできるだけ早く、教育の場にいる理解者につないでいく必要があるのではないかとと思われる。
独居老人の認知症等(病气)により徘徊により家に帰れなくなる。	家族構成、連絡先が取れない。(不在等)	民生児童委員、支援包括センター職員、警察。	連絡体制により近隣の人より通報があり保護できた。住民センターまで来て、敷地内で横になって、発見により、家族等に連絡がとれ、むかいにこられた。(サンダルに名前が書いていたため、連絡がとれた)	徘徊等がある方には必ず衣類等に連絡先を記入。また身体につけるものには連絡先、名前等を必ず書いておくこと。(名札、靴)
①住宅改修について何度も説明し、すすめていたが、介護支援専門員に相談なく行い、事後申請をするよう強要された。②15年来の患者さん。訪問看護を長年使い、通リハを開始。主治医の処方信頼せず。他病院に行き、利尿剤の減薬と、不安定な症状があるにもかかわらず、抑うつ剤を止めるようにせまってきた。	①家族が感情的になり話し合いにならなかった。何度も事業所に足を運ばれ、仕事を中断された。②デイケア、訪問看護では、体に負担をかけることもあり、薬を変更しては、主治医としては責任を負えないと判断した。	①高齢介護課②特に連携した訳ではないが患者さん自身が選び行った先の医師の治療に厚い信頼をよせているため、そちら方で医療をうけ、その医療機関には当院と同じサービスはすべてそろっているため、その先生の目の届く所で介護も受ける様すすめた。	①家族が事後申請を行ったが不受理となり、訴訟問題に発展するところだった。②当院では好き放題わがまま放題であったため、本人・家族とも「何で代わらないといけない。言うとおりに処方すればいいではないか。」と迫ってきたが、利用継続はあまりにも危険であるとの主治医の判断により利用をお断りする。	①難しい利用者、家族に対しては、説明を徹底し、特に難しい場合には、複数名で行う。記録をきちんと残すようにする。②今まで、院長、家族の知り合いという事もあり、特別に送っていったり、いろいろと特別にサービスをしていたので、本人、家族にしてもらってあたり前という意識をもたせてしまった。(家では、家族にはほとんど世話をうけていなかった。)そのために、主治医の指示はききいれないのに、自分の要求ばかりを押しつけてくるようになってしまった。今後は特定の人を特別あつかいしないようにする。

困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
精神障害者への支援の仕方。知的(重度)、自閉症、障害者への支援の仕方。	他の人とのコミュニケーションが難しく、なかなかとけこめない。	支援員や家族との話し合い。(ときめき)	時間がかかり、精神的に持続できなかった。	気の合う人を見つけ、話し合いのできる環境を作り、コミュニケーションがとれる様、支援していきたい。
訪問介護事業所としてインシュリン接種が必要な方の見守り(投薬管理)でサービスに入っていたが利用者夫婦の認知症の進行に伴い十分な見守りが困難になってきた。	利用者夫婦の認知症進行に伴い投薬管理が十分にできずインシュリン接種も医療行為に当たるため訪問介護員では行えない。	訪問看護事業所。	確実な毎日のインシュリン接種が行えて利用者も安心して生活できるようになった。	日頃から他の介護事業所と連携をとりながら業務をすることの大切さを痛感した。
すいふう苑喫茶コーナーで一名就労したが一人で働いている時に様々な問題が生じた。	支援できる人が不足し問題解決の能力もたりなかった。	就業・生活支援センター「あみ」、来島会の職員、支援計画の作成、毎月及び随時のケース会議。	会の担当者、親、あけの職員、喫茶担当主任が問題の起こった時又定期的にケース会議を行いできる限り現場につくようにしたが、お金があると本人が家に帰らなくなり生活をたて直したいという親の意向で、一年で就労を切り他の施設にかわった。	就労の現場において常時指導で得る人(マンパワーと技術)が必要である。一見出来そうに見える方でも多くのつまずきがあり問題が起きる前の対策が支援者側の能力不足で出来なかった事が課題である。
利用者の問題行動と保護者の困難事例。	事業所利用時には落ち着いて特に問題はないと思われたが家庭での状況が十分把握できず保護者への対応に苦慮していた。	今ネット:保護者及び事業所との調整、アドバイス、つばさクリニック:相談、受診、治療、今治育成園、今治福祉園:ショートステイの登録。	つばさクリニックの受診により保護者が落ち着かれた。今治育成園でのショートステイの利用開始 現在利用者、保護者ともに安定されている。	各専門機関と連携によるその都度つどの対応。
就労先と業務内容。	作業現場での障害特性の理解と作業指示、障害に対する専門的知識、職場実習先の確保。	高等技術専門学校:困り事や作業指示。 医療機関:精神的な気持ちのコントロール。 職場開拓:本人の希望に沿った特性を活かせる実習先。	就職1年後を退職日と決め最後まで勤務できた。離職となったが職場開拓と連携をとり職場実習後雇用となる。	本人の特徴(長所)を活かすことができる職種とのマッチング。 企業の障害理解(管理 現場)
高齢者夫婦が妻に夫が暴力をふるった(3年程前)家庭内別居にした為、夫は話し相手がいない為、認知症が進んで徘徊しました。	夫との話し合いは一方的で話にならない。	広括支援センターの担当者と夫婦が話し合い1階と2階に分かれ家庭内別居にした 精神病院に2ヶ月入院その後一般病院に入院3ヶ月後死亡した。	一般病棟で死亡した。	高齢者の夫に対する支援に問題があった。 グループホームに入所させれば最悪の事態は防げたのではないかと。

困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
防災訓練時の対応	自治会は町内の実情把握は出来るが他分野での協力依頼・・・炊き出し班、消防班等婦人会、消防団との平素の連携が大事である。	地区婦人会、地区消防分団(炊き出し・消火訓練)	非常に協力的であったが他団体とも高齢化、会費の減少問題をかかえている。	コミュニティー活動への若い層の参加が必要であるが今後仕事の関係上困難な面がある。雇用年齢が年金との関係で次第に上がりつつあり自治会離れも進んで来ている地域だけでは問題解決は難しい。行政も強かにバックアップして欲しい。
広場に来ている親から子どもの発達に不安がある旨の相談があった。	スタッフには保育士の免許をもった者もいたが発達障がいについての具体的なアドバイスをできる者がいなかった。	児童発達支援センター支援センターひよこ園に相談に行くように勧めた。	発達障がいが見られたためひよこ園に通園することとなった。親からは相談に行く事について勧められて感謝しているという言葉をいただいた。	この相談当時は発達支援センターがなかったが今では設立されているため相談があれば紹介しているがスタッフから親に向けて「発達障がいがあるのでは？」とのアドバイスはできない。各つどい広場や保育所などで発達障がいについての講習を聞ければと思う親が早く障がいに気づき子どもが過ごしやすい環境作りができれば安定した子育てができるし施設側でもサポートしやすい。
一人暮らしの身体・精神(人格障害)の重複障害の方 家族とは疎遠 生活保護。	サービスを調整する際や連絡する際も本人の意見が度々変わったり、責任転嫁するため調整や話し合いをすることが難しい。本人が一日に何度も色々な所に連絡し不満を言っている。	行政(生活支援課、障害福祉課 保健所) 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、ヘルパー事業所 病院(精神・内科)訪問入浴事業所。	気分の波が激しく様々な機関を巻き込んで混乱させている。ケース会などを開催し関係機関とも支援方針の統一を図ったが対応が困難である。	支援者が一人で抱え込まないことが大事 関係機関で対応を統一して関わっていく。定期的に関係機関で連絡を取り合っていく。できることと、できないことを適確に伝え冷静に対応していく。
広域派遣の利用回数が限定されており自己負担の金額が大きすぎた。	NPO愛媛難聴者協会は金銭面での個人的支援は困難。	法人全国難聴者協会、岡山県難聴者協会、岡山県の要約筆記者団体。	岡山県の要約筆記者団体のご配慮で自己負担額を減らしていただいた。	要約筆記の報酬額は全国的にバラツキがある。利用者の負担を強くないためにも統一させる必要はあると思う。また各団との連携は大切である。

困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
<p>困難とは言えないが、生活保護の受給申請について、相談者は夫婦共当時70歳代元縫製関係の自営業で国民年金に未加入のため無年金であった、現在土地家屋は長男名義で長男夫婦と同居(別棟)収入は他人の畑を借りて野菜を作り売り歩いたりしているが生活費もままならない。長男夫婦の収入は月20万円ほどで、家をリフォームした時の借入金が2千万円あり親の生計を見ることができない。</p>	<p>長男名義でも住む家がある、持病があり通院にも使用している軽自動車も所有している、市生活支援課の対応は一家4人が同一生計で生活できないかと、進言している。生活保護の条件として生計虐待とみなすか、資産の売却等が考えられる。受給承認目前になって結婚している娘が相談者名義の銀行口座を持っているのが見つかった。娘さんを見て、生活支援課に行き、その理由は事実関係をありのまま説明するように助言。</p>	<p>市生活支援課 資産の活用、家屋を売却について(長男名義)、預貯金はなし。能力の活用、高齢で持病もあり働けない。あらゆるものの活用、年金や手当なし。扶養義務者の扶養、子や親族からの援助が受けられない。</p>	<p>受給を承認された。住んでいた家を出て他校区に借家を借り転出したのでその後は関わってない。</p>	<p>相談者からの相談を受け、要点を文書にまとめ生活支援課に私がまず説明に出向いた。支援課の方の話聞いて帰り、市の係りとの話の感触を相談者に伝える。相談者に支援課に行き窮状を説明するように助言する。まとめ、相談者の近親者の確認、過去の生活履歴、資産の有無、現在の生計状態、年金受給の額等、生計に関する状況を詳細に聞き取ること。</p>
<p>入院患者Aさん(脳腫瘍摘出術後遺症、左片麻痺認知症)の年金をキーパーソンである次男が使い込み入院料金の滞納が数年続いた。何度も次男宅を訪問したが支払いの意志、協力はなし。</p>	<p>年金収入があるが次男が使い込むため生活保護の申請も出来ない。次男に何度も連絡。簡易書留。訪問し相談するが居直って支払いや協力をする意志はなし(無保険になる期間もあり)</p>	<p>障害福祉課、包括支援センターに相談したが次男に話はできるがそれ以上の事はできないと言われた為、弁護士に相談、成年後見人の申請を行い、成年後見人にAさんの年金の管理をもらう手続きを行うこととなった。</p>	<p>4親等以内で申請をしてくれる市を探し相談。弁護士支援にて手続きを行い成年後見人が年金管理を行うことでその後の滞納はなくなった。しかし滞納した入院料を払う財力はなくほとんどが時効消滅し病院として大変な損害を被った。</p>	<p>プライバシー的な部分に関与しにくいことはわかるが基準等を定めて悪質と判断される場合は公的機関に積極的に介入してもらいたい。</p>
<p>利用者のできる仕事がなく支援者の為の仕事が徐々に増えてきたように思う。</p>	<p>事業所単独では見つけられない仕事先の確保の困難。</p>	<p>就労支援ネットワークを通じて共同受注に参加して東予福祉会、朝倉事業所さんから。</p>	<p>利用者のできる仕事をまわしてもらっています</p>	<p>障害に対しての一般企業の認識不足などもあり最初は利用者のできる仕事をさせていただいたにもかかわらず仕事内容、仕事量が増えてしまった。障害者に理解のあるところからの受注のほう本来の支援ができるようになった。</p>

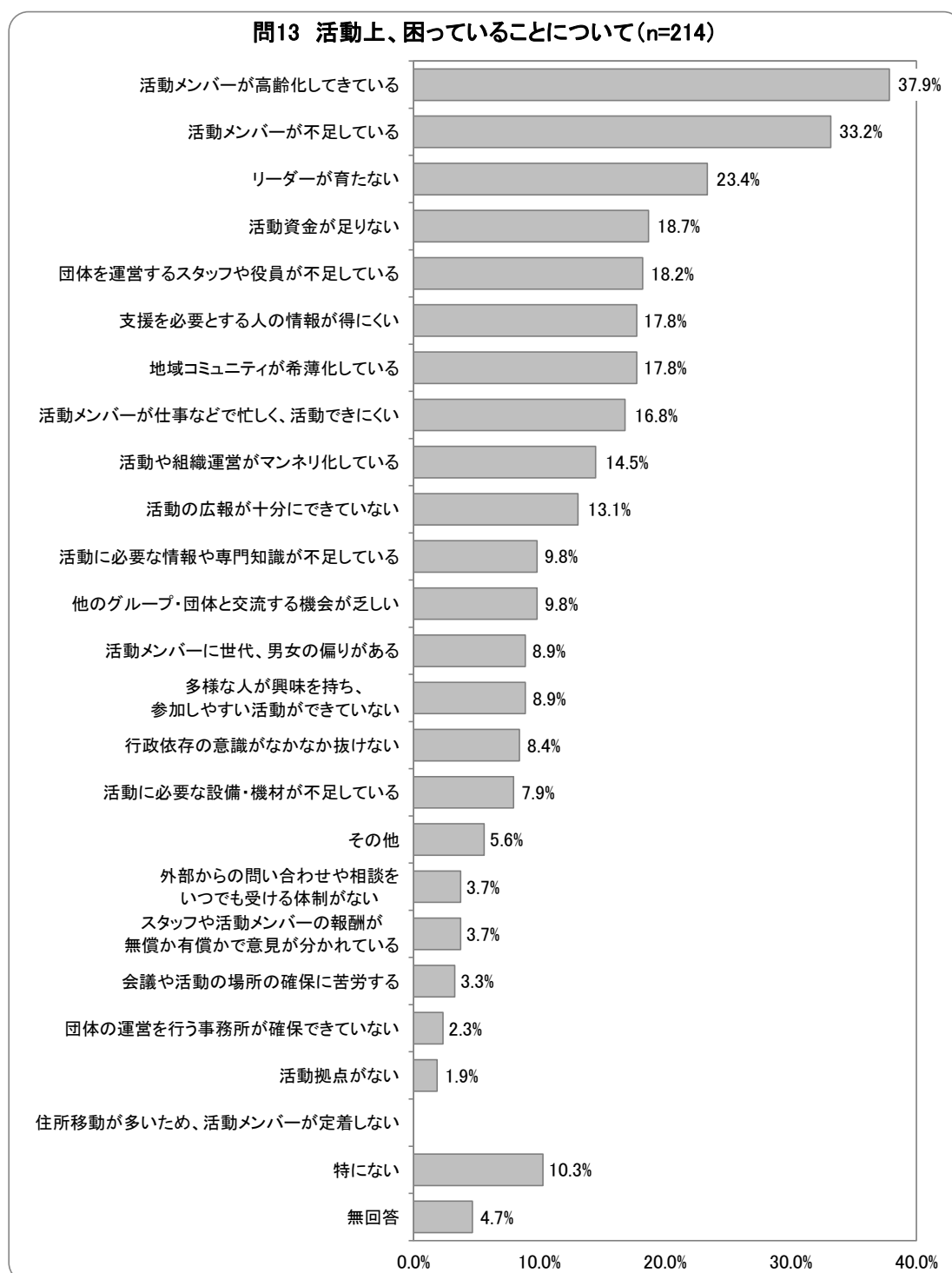
困難事例の概要	貴団体単独では支援が困難であった理由	連携した機関・団体の名称と連携内容	支援の経過・結果	課題解決のために必要と思われること
子育てに課題(ネグレクト等)を抱えている家庭への支援、サポート。	基本的に外向いての活動(訪問)が困難。	同一法人内の保育園、地域の小学校、子育て支援課、地域担当主任児童委員、地域担当保健師(保健センター)、地域連絡会(フォーリンク)での情報交換で見守り、特に主任児童委員の細やかな働きかけが大きい。	家庭内保育児が入園するケースや成長を見ながら永年の見守りで大きな事故を防いでいると感じる。	情報交換や連携が大切だが、団体によっては代表者や担当者の移動も多く、その継続には長年高い意識で活動されている主任児童委員さんの力が最も大きい。これを支えられる力が必要と感じる。
一人暮らしで認知症が見られる方の被害妄想への対応。	普段の生活の様子、親族の連絡先などが本人との面接だけでは把握できなかったため。	担当民生委員、地域包括支援センター、市生活支援課。それぞれの機関のかかわりの把握、情報交換、同行訪問。	関係機関が情報交換をしながら見守りを続ける。	普段から関係機関と情報交換を行う。
認知症がありおとなしく記憶力は低い。近所に住む知人が本人にお金を貸したといい返済を求めて度々訪問、本人に記憶はない。数人からたかられている状況、本人は保護で生活している。玄関のカギを壊されたりTVが無くなったりしている。	お金の管理が出来ない。その日食べる物を確保できない。訪問中にも知人を名乗る男性数人がどなりながら来訪。殴られたような怪我がある。	包括支援センター美須賀・立花、居宅介護支援事業所さいせい(ケアプランなど)、デイサービスさいせい(清潔保持)、今治警察(見回りの強化、緊急時の連絡)、済生会病院(入院時の報告、退院後の指導、傷口の処置など)、今治市生活支援課(金銭管理)。	知人が来訪する事がなくなり、ヘルパー支援により住環境が整えられ、必要な食糧が準備できた。金銭管理を行うことで買い物などが可能になった。新たな傷が出来ず、清潔保持によりできた傷も良くなった。その後しばらくして施設入所が決まり入所となった。	それぞれの分野のプロが連携を取りケアを行うことで一つ一つのサービスがスムーズに行えた。優先順位を決め課題が解決されていく事で達成感があった。それぞれの事業所間での連携、ケアマネジャーへの報告、相談、ケアマネジャーが常に現状を把握できるようにするための体制。
地域生活を送るうえで援助が必要な場合。	単独では地域生活を支えるだけのスタッフ、時間が無い。	ヘルパー事業所、地域包括支援センター、市健康推進課、保健師等	支援により地域生活が送られている。	地域、行政との連携による支援を提供することが、安定した地域生活を送るうえで必要と思います。
①刑務所、更生保護施設と入所を続けてきた障害当事者の支援について(住まい確保)②引きこもり障害当事者の支援について③障害に理解のない当事者と家族について	①家族(親族)が本人との接触到消極的な面や触法障がい者への対応は今回初めてであったため。金銭面の管理の支援も課題として出てきた。②関わりの糸口がなくコミュニケーションが取れない。③本人と家族が障害を理解できない。家族仲が悪い。	①愛媛県社協(地域定着支援センター)→金銭面(収入減)の確保、市内にGHを持つ法人(入居物件等の確保)②以前利用していた事業所の職員と訪問。③利用中の日中活動を提供する事業所のスタッフと話し合い。	①唯一の親族である親も本人との接触到消極的であり、身元引受人等の責任者が確保できない。②定期的に訪問するが、何も成果はなかった。③本人は障害者ではないと主張し、事業所の通所を辞める。	①各事業所が当事者のアフターフォローをするための体制作り。当事者(出所後の)住まい確保の支援。②信頼関係の構築。医師等専門家の支援。③世帯分離により、個人への支援。

XI 福祉関係団体アンケート調査結果(経営や活動などの課題について)

問 13 活動上、困っていることについて

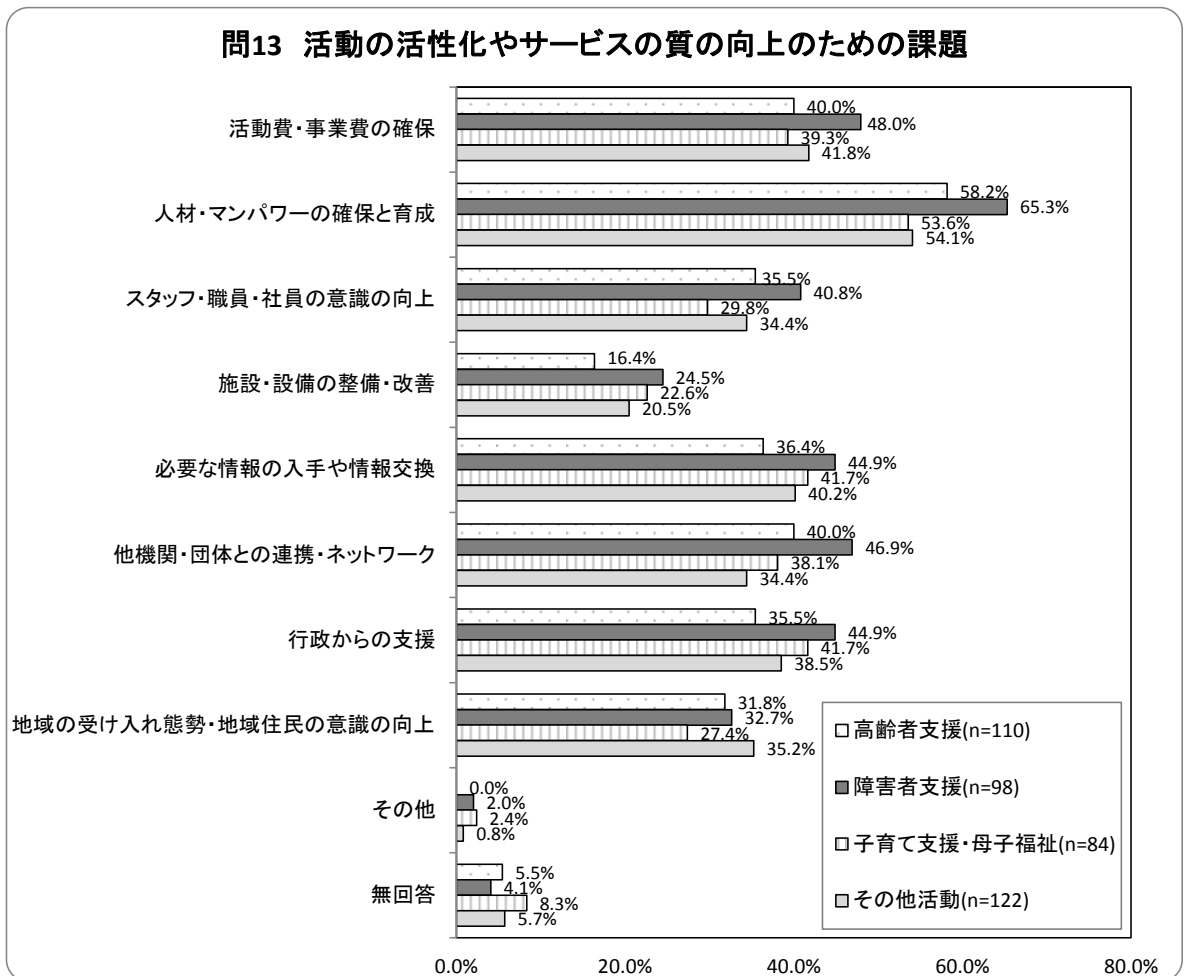
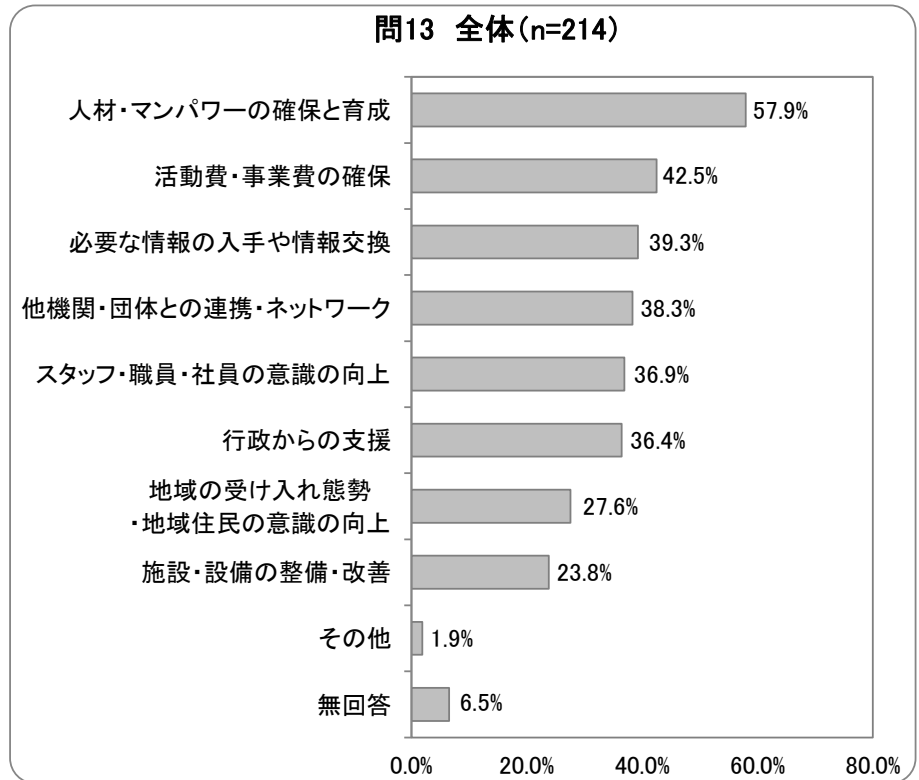
活動上、困っていることについてみると、「活動メンバーが高齢化してきている」が 37.9%と最も割合が高く、次いで「活動メンバーが不足している」33.2%、「リーダーが育たない」23.4%、「活動資金が足りない」18.7%、「団体を運営するスタッフや役員が不足している」18.2%の順となっています。

また「特にない」は 10.3%となっています。



問 14 活動の活性化や支援・サービスの質の向上のための課題について

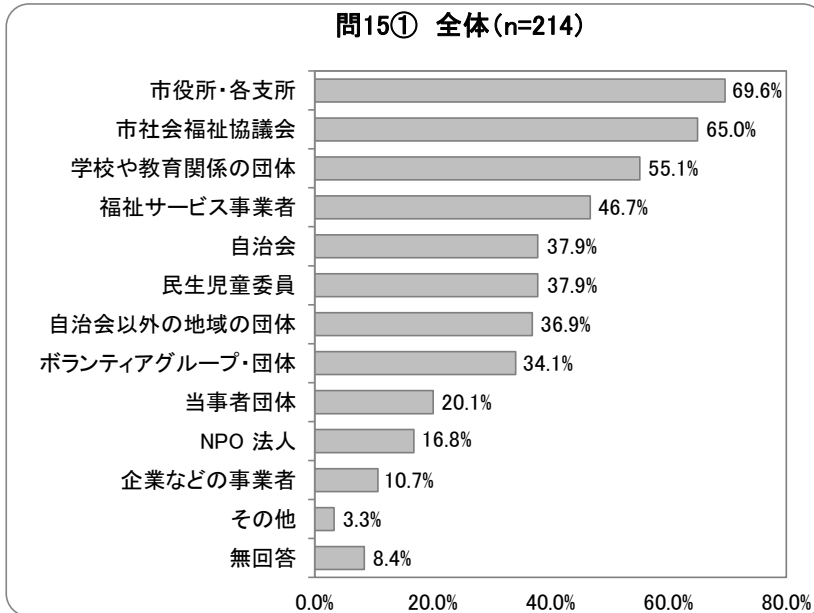
活動の活性化や支援・サービスの質の向上のための課題についてみると、「人材・マンパワーの確保と育成」が57.9%と最も割合が高く、次いで「活動費・事業費の確保」42.5%、「必要な情報の入手や情報交換」39.3%、「他機関・団体との連携・ネットワーク」38.3%、「スタッフ・職員・社員の意識の向上」36.9%、「行政からの支援」36.4%、「地域の受け入れ態勢・地域住民の意識の向上」27.6%、「施設・設備の整備・改善」23.8%、「その他」1.9%、「無回答」6.5%の順となっています。



XII 福祉関係団体アンケート調査結果(交流・連携・協働について)

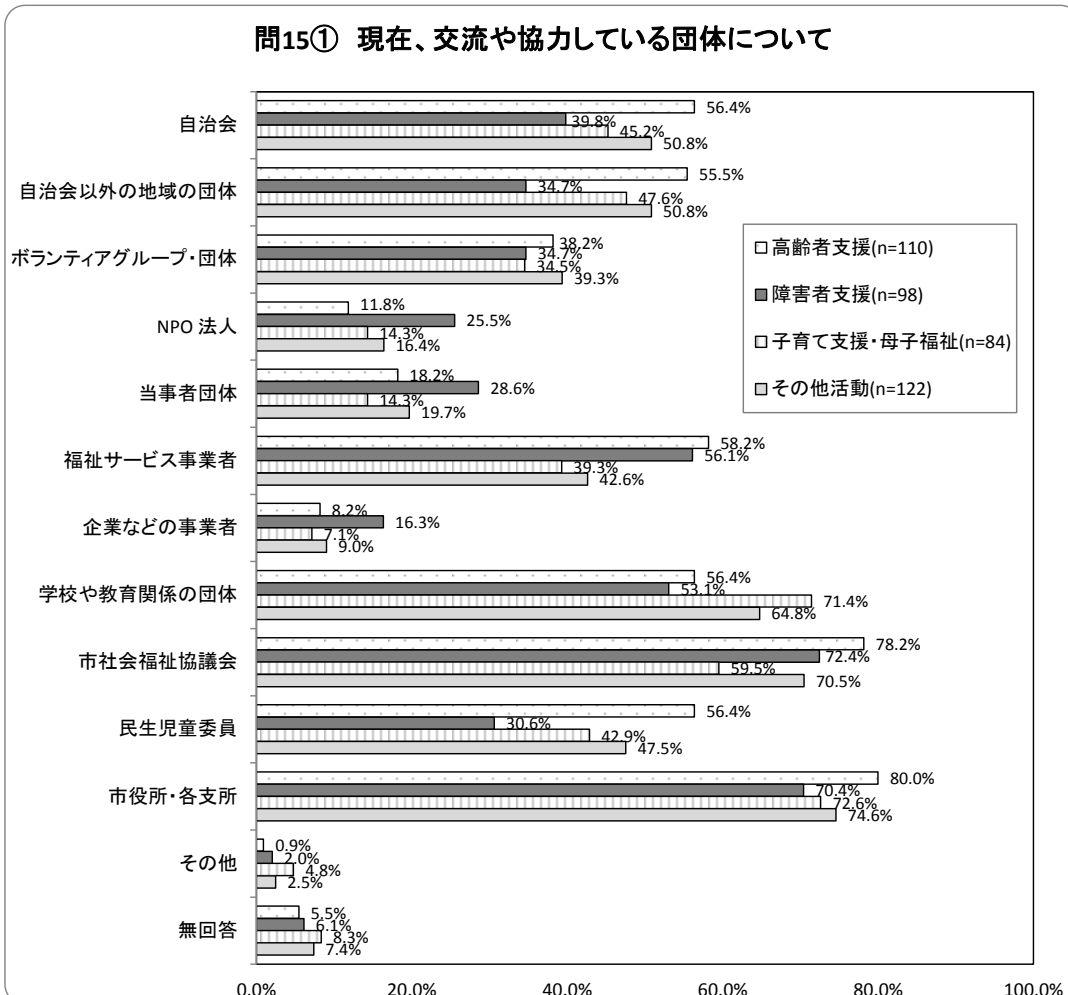
問 15 他の団体や公共団体などとの交流や協力について

①現在、交流や協力している団体について



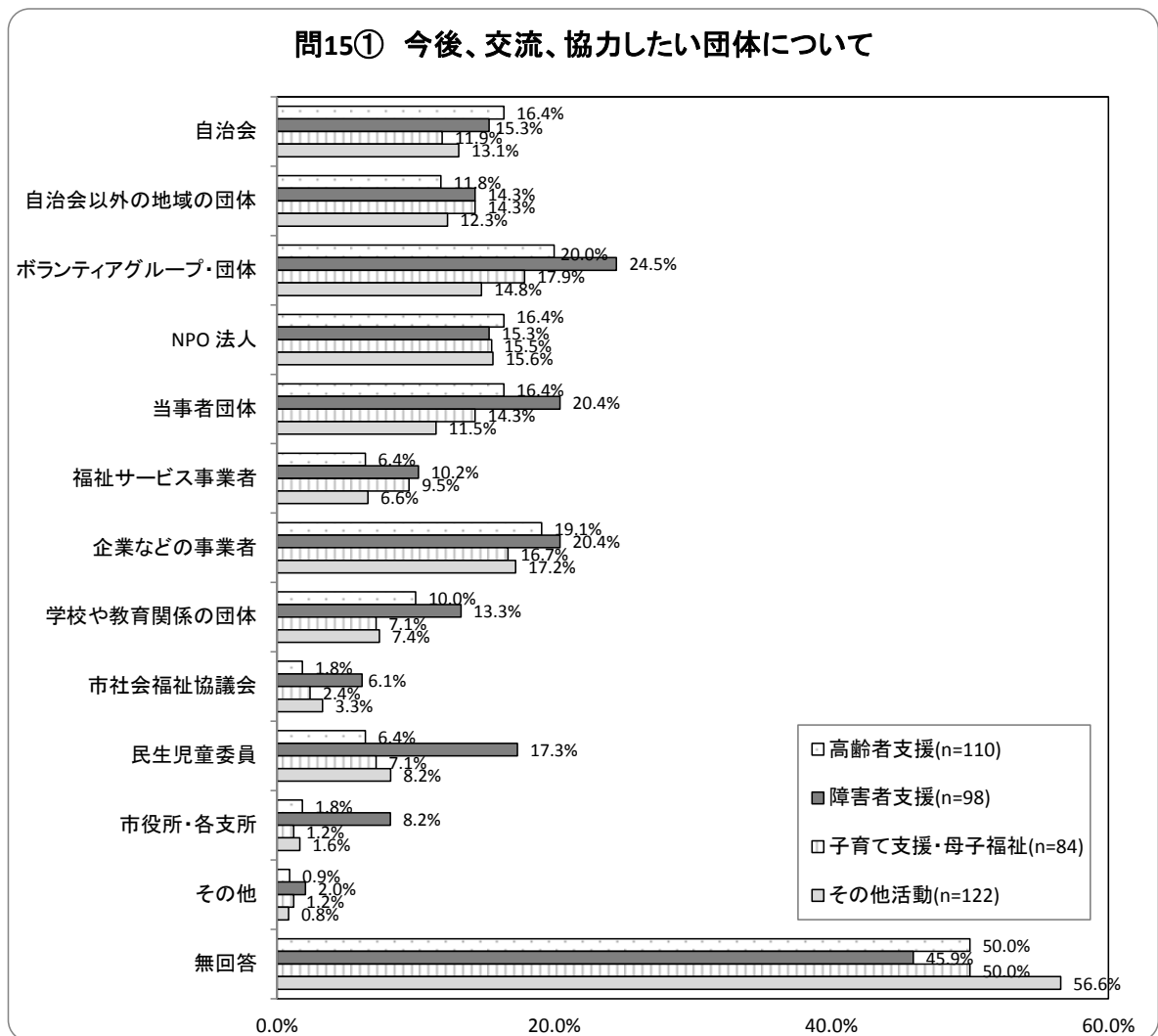
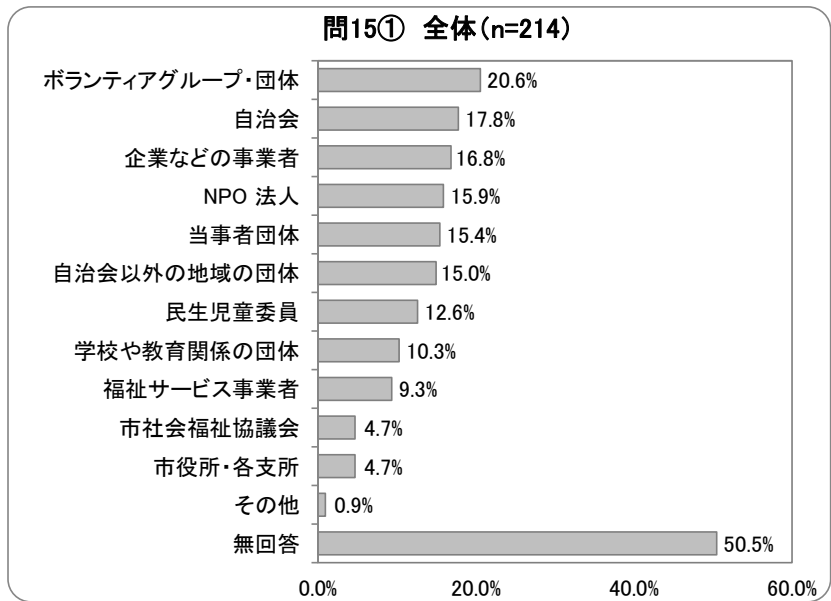
現在、交流や協力している団体についてみると、「市役所・各支所」が69.6%と最も割合が高く、次いで「市社会福祉協議会」65.0%、「学校や教育関係の団体」55.1%、「福祉サービス事業者」46.7%、「自治会」37.9%、「民生児童委員」37.9%の順となっています。

活動分野別にみると、高齢者支援と子育て支援・母子福祉、その他活動では「市役所・各支所」、障害者支援では「市社会福祉協議会」の割合が高くなっています。

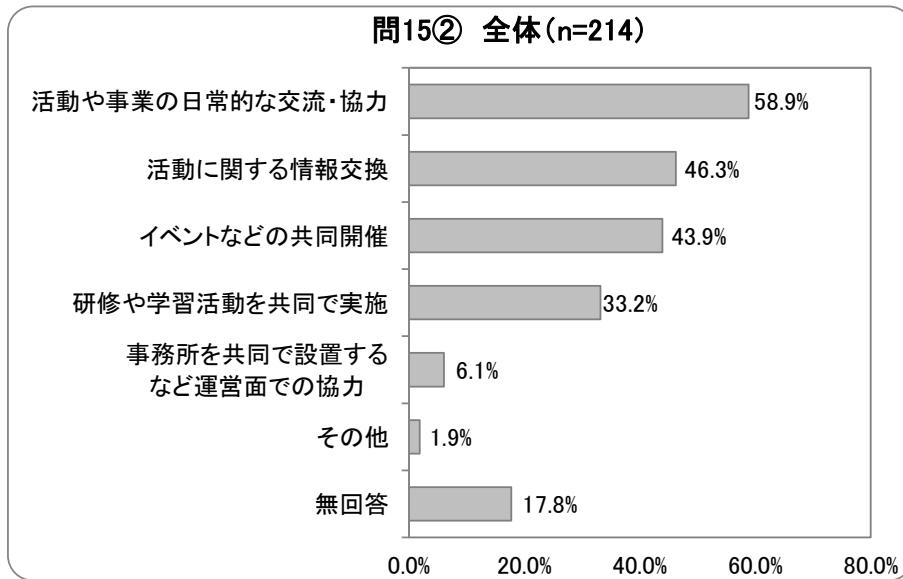


①今後、交流や協力したいと思う他の団体について

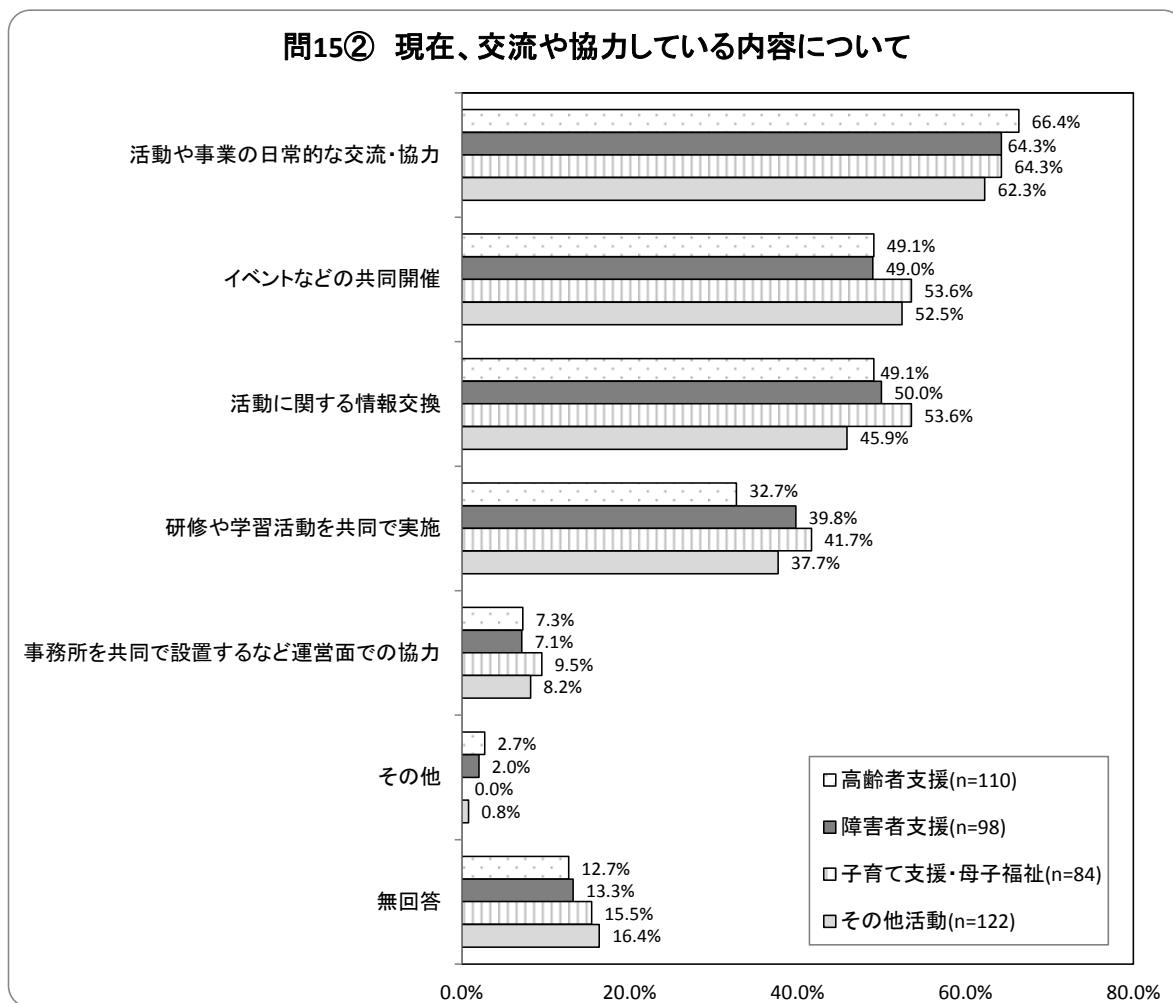
今後、交流や協力したいと思う他の団体についてみると、「ボランティアグループ・団体」が 20.6%と最も割合が高く、次いで「自治会」17.8%、「企業などの事業者」16.8%、「NPO 法人」15.9%、「当事者団体」15.4%、「自治会以外の地域の団体」15.0%の順となっています。



②現在、交流や協力している内容について

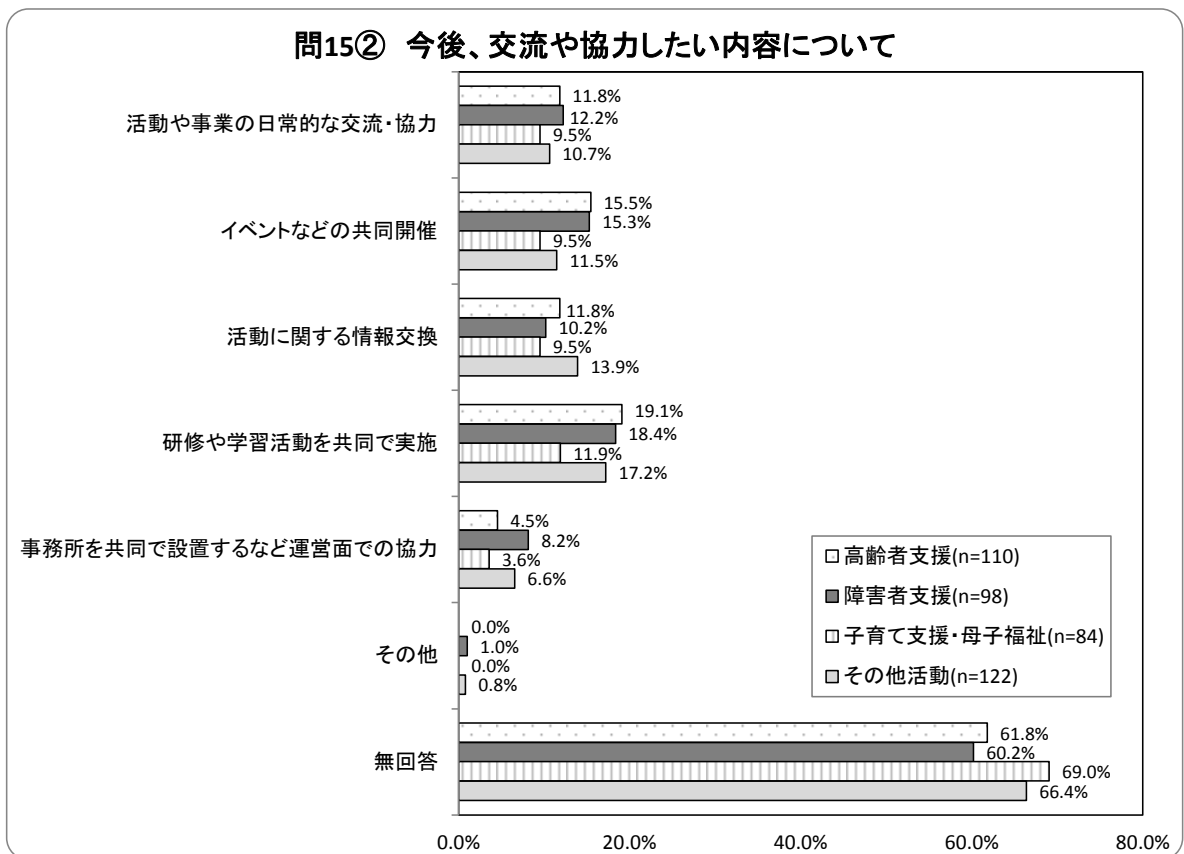
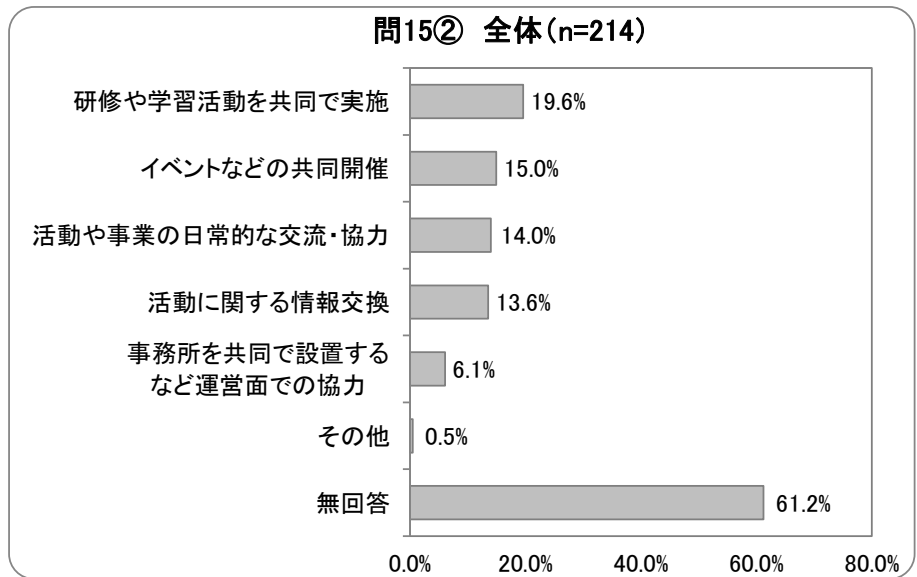


現在、交流や協力している内容についてみると、「活動や事業の日常的な交流・協力」が58.9%と最も割合が高く、次いで「活動に関する情報交換」46.3%、「イベントなどの共同開催」43.9%、「研修や学習活動を共同で実施」33.2%の順となっています。



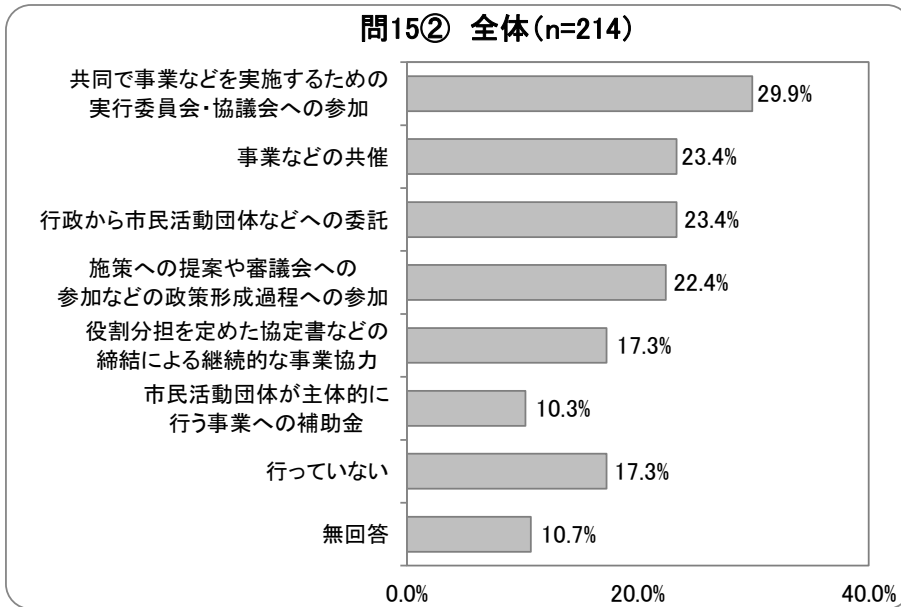
②今後、交流や協力したい内容について

今後、交流や協力したい内容についてみると、「研修や学習活動を共同で実施」が19.6%と最も割合が高く、次いで「イベントなどの共同開催」15.0%、「活動や事業の日常的な交流・協力」14.0%、「活動に関する情報交換」13.6%の順となっています。



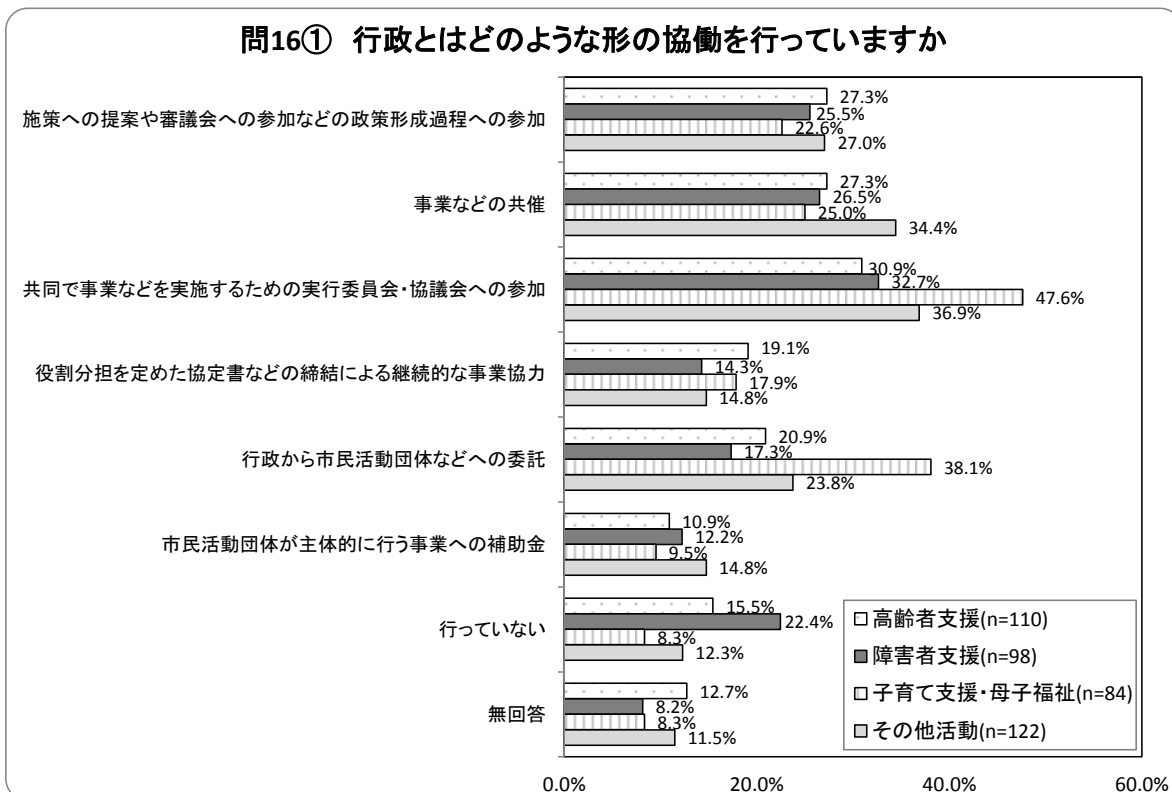
問 16 行政との協働について

①どのような形の協働を行っていますか



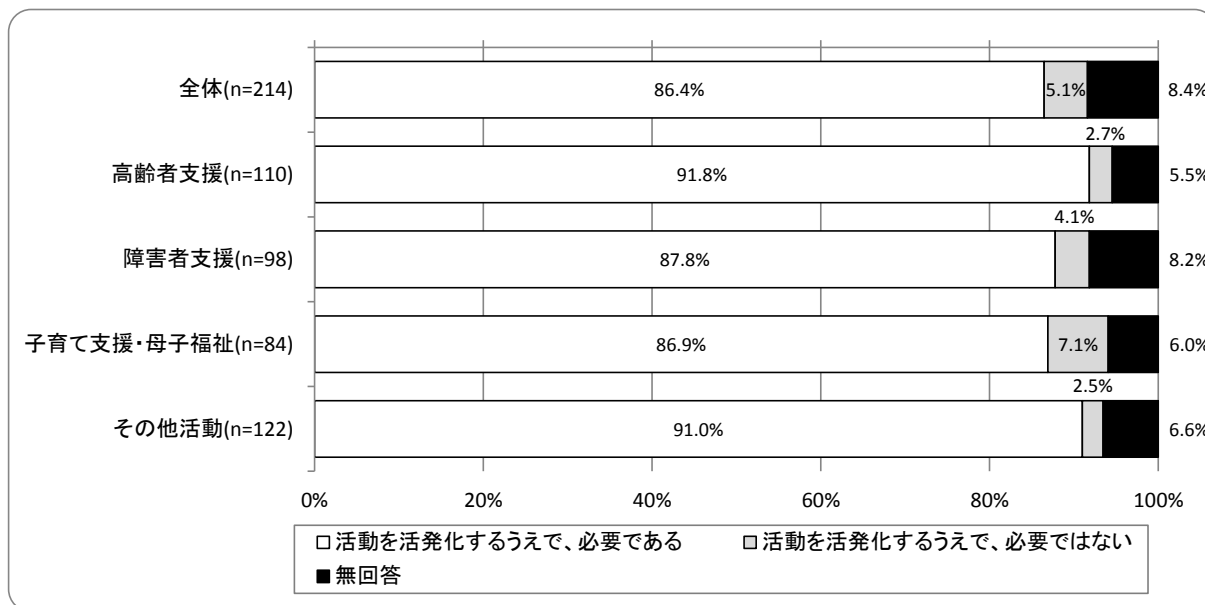
行政との協働についての形態をみると、「共同で事業などを実施するための実行委員会・協議会への参加」が29.9%と最も割合が高く、次いで「事業などの共催」、「行政から市民活動団体などへの委託」23.4%、「施策への提案や審議会への参加などの政策形成過程への参加」22.4%の順となっています。

活動分野別に「行っていない」割合をみると障害者支援が22.4%と高くなっています。



②行政との協働についての考え

行政との協働についての考えをみると、「活動を活発化するうえで、必要である」86.4%、「活動を活発化するうえで、必要ではない」5.1%となっています。



②-1 それぞれの理由

【必要である理由】

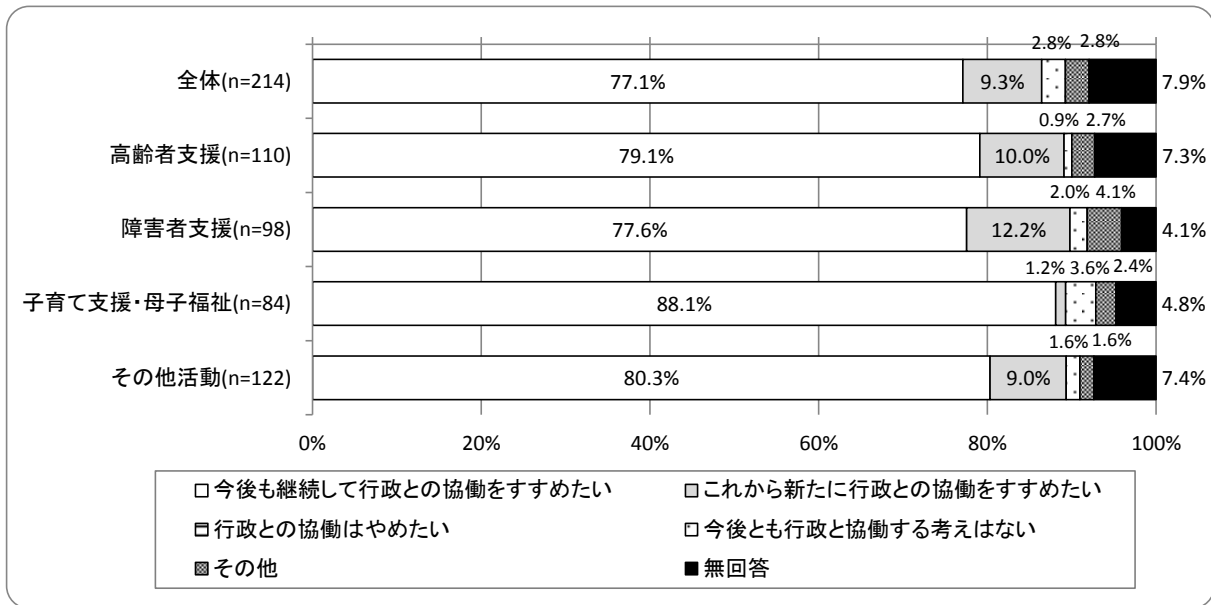
- ・運営していく上で、資金面の確保の必要あり。
- ・介護保険の制度が国によって決定されているので。
- ・活動をする上での、アドバイスなどをいただきたい。単独でしているとどうしても考えなどが狭くなる傾向があるので、広い視野に立って、意見が欲しい時があるから。
- ・活動範囲が広がる。
- ・行政から団体への依頼、又団体から行政への依頼など関係を密にして活動することが大事。
- ・行政でないと出来ないことも多いので。
- ・行政の情報提供

【必要ではない理由】

- ・行政との協働が必要だと思うような機会が特にないので。
- ・何も変わらない気がするから。
- ・サービスを提供することは行政とは別で協議の必要性は低い。しかし行政が主体的に関与することで全体のサービスが良好になったり事業者を横断的に活用できることもある
- ・サービスを提供することに行政の関与は低い方が健全である。しかし特殊なケースで行政が主体的に関与して欲しいケースも多々ある。この場合、問題解決に向けて市の担当者が関係者を招集できたり会議をもつことができる事が必要。

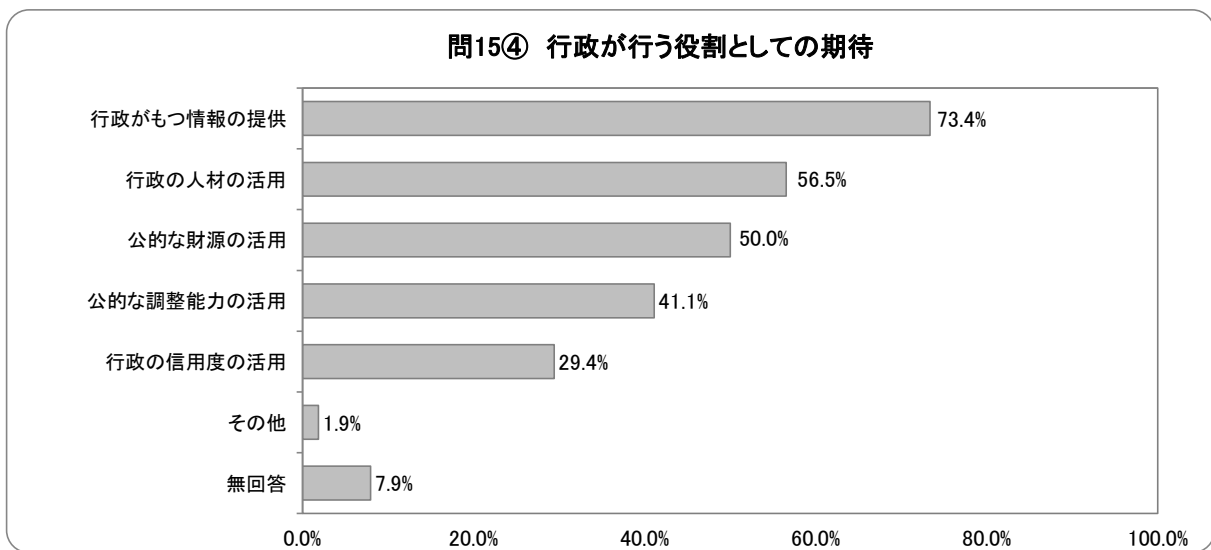
③今後の行政との協働についての考え

今後の行政との協働についての考えをみると、「今後も継続して行政との協働をすすめたい」77.1%、「これから新たに行政との協働をすすめたい」9.3%、「今後とも行政と協働する考えはない」、「その他」2.8%となっています。



④行政と協働するうえで、行政が担う役割についての期待

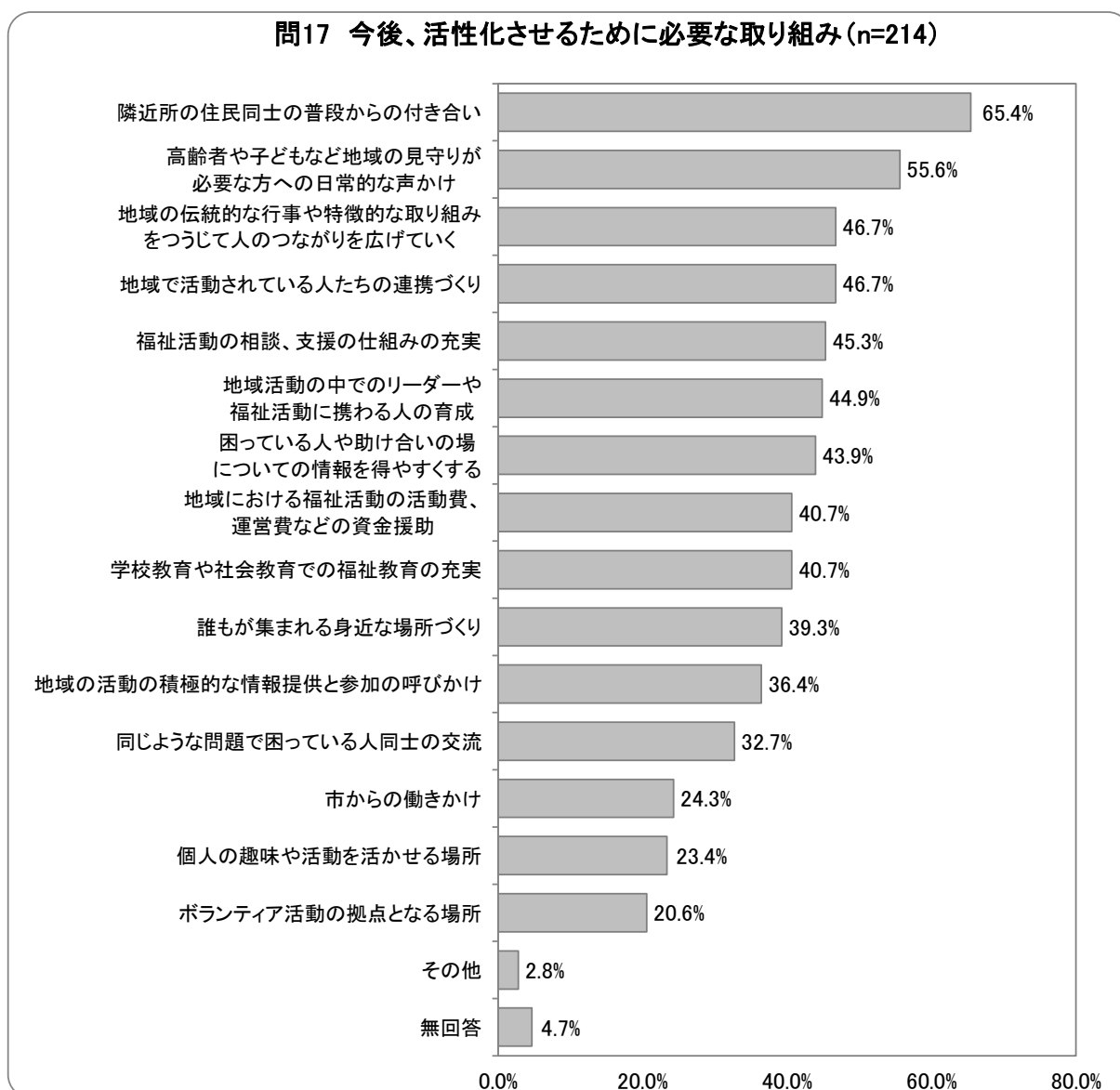
行政と協働するうえで、行政が担う役割についての期待をみると、「行政がもつ情報の提供」が73.4%と最も割合が高く、次いで「行政の人材の活用」56.5%、「公的な財源の活用」50.0%、「公的な調整能力の活用」41.1%、「行政の信用度の活用」29.4%の順となっています。



XIII 福祉関係団体アンケート調査結果(地域活動を活性化させる取り組み)

問 17 今後、地域福祉活動を活性化させるために必要な取り組みについて

今後、地域福祉活動を活性化させるために必要な取り組みについてみると、「隣近所の住民同士の普段からの付き合い」が 65.4%と最も割合が高く、次いで「高齢者や子どもなど地域の見守りが必要な方への日常的な声かけ」55.6%、「地域の伝統的な行事や特徴的な取り組みをつうじて人のつながりを広げていく」、「地域で活動されている人たちの連携づくり」46.7%、「福祉活動の相談、支援の仕組みの充実」45.3%、「地域活動の中でのリーダーや福祉活動に携わる人の育成」44.9%の順となっています。



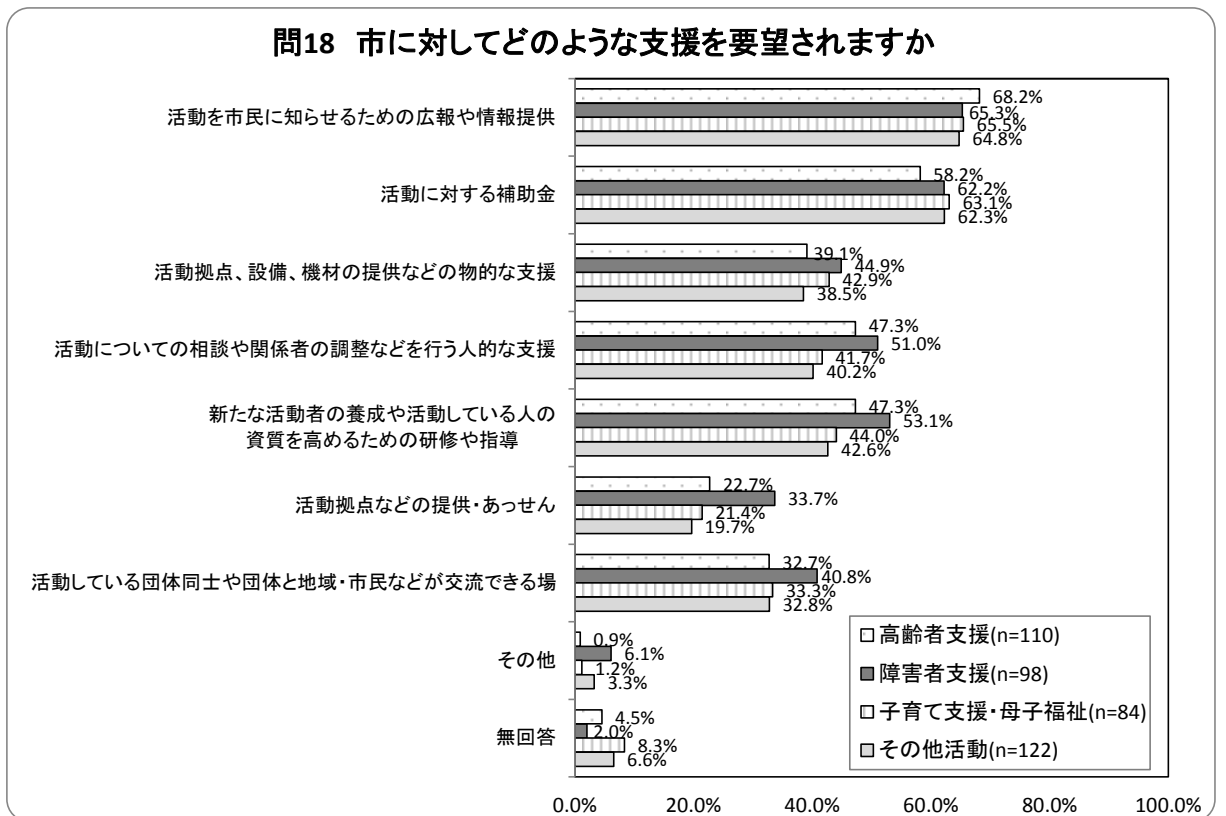
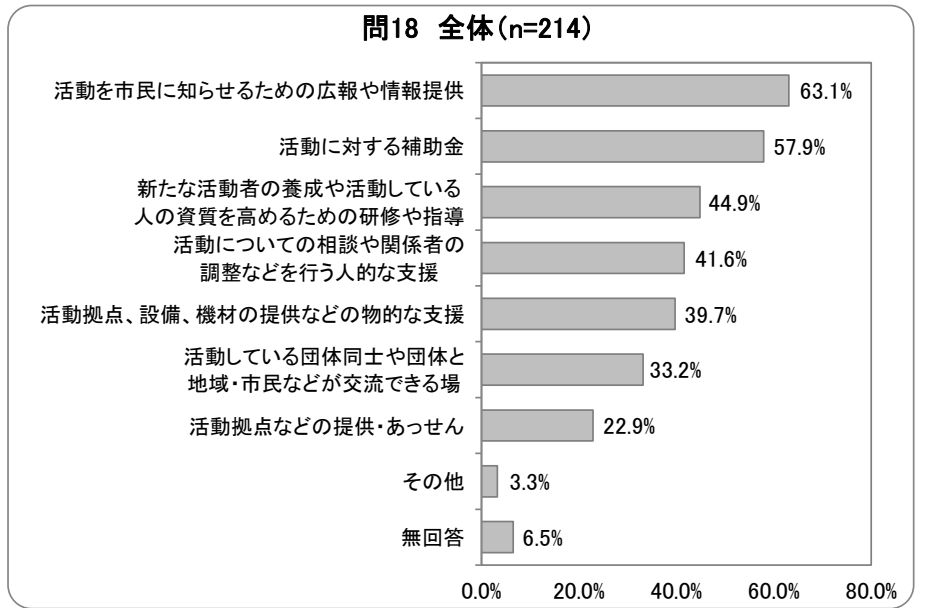
活動区分別にみると、高齢者支援、子育て支援・母子福祉、その他活動で「隣近所の住民同士の普段からの付き合い」の割合が高く、障害者支援では「福祉活動の相談、支援の仕組みの充実」の割合が高くなっています。

属性	区分	全体	隣近所の住民同士の普段からの付き合い	高齢者や子どもなど地域の見守りが必要な方への日常的な声かけ	地域の伝統的な行事や特徴的な取り組みをつづじて人のつながりを広げていく	困っている人や助け合いの場についての情報を得やすくする	地域活動の中でのリーダーや福祉活動に携わる人の育成	地域で活動されている人たちの連携づくり	同じような問題で困っている人同士の交流	地域の活動の積極的な情報提供と参加の呼びかけ	福祉活動の相談、支援の仕組みの充実
活動分野	高齢者支援	110 100.0	81 73.6	76 69.1	57 51.8	53 48.2	59 53.6	59 53.6	38 34.5	43 39.1	52 47.3
	障害者支援	98 100.0	66 67.3	55 56.1	47 48.0	52 53.1	48 49.0	59 60.2	41 41.8	41 41.8	64 65.3
	子育て支援・母子福祉	84 100.0	58 69.0	51 60.7	49 58.3	33 39.3	41 48.8	39 46.4	25 29.8	33 39.3	33 39.3
	その他活動	122 100.0	87 71.3	77 63.1	70 57.4	55 45.1	63 51.6	65 53.3	37 30.3	50 41.0	55 45.1

属性	区分	全体	誰もが集まれる身近な場所づくり	ボランティア活動の拠点となる場所	地域における福祉活動の活動費、運営費などの資金援助	学校教育や社会教育での福祉教育の充実	個人の趣味や活動を活かせる場所	市からの働きかけ	その他	無回答
活動分野	高齢者支援	110 100.0	51 46.4	26 23.6	46 41.8	48 43.6	36 32.7	33 30.0	1 0.9	3 2.7
	障害者支援	98 100.0	42 42.9	25 25.5	54 55.1	49 50.0	24 24.5	28 28.6	3 3.1	1 1.0
	子育て支援・母子福祉	84 100.0	35 41.7	19 22.6	33 39.3	37 44.0	22 26.2	18 21.4	3 3.6	6 7.1
	その他活動	122 100.0	51 41.8	30 24.6	50 41.0	51 41.8	33 27.0	35 28.7	3 2.5	6 4.9

問 18 市に対してどのような支援を要望されますか

市に対してどのような支援を要望されますかについてみると、「活動を市民に知らせるための広報や情報提供」が63.1%と最も割合が高く、次いで「活動に対する補助金」57.9%、「新たな活動者の養成や活動している人の資質を高めるための研修や指導」44.9%、「活動についての相談や関係者の調整などを行う人的な支援」41.6%の順となっています。



問 19.20 今治市の課題と解決策について(抜粋)

問 19 今治市の課題について	問 20 課題の解決策について
<p>児童発達支援については資源の乏しさが課題。生活のしにくさを持つ子どもを授かっても安心して子育てが出来ると思えるような、相談、療育の拠点の充実。</p>	<p>生活のしにくさを持つ子ども、特に発達障害や重度心身障害の発達支援技法の啓発、人材育成。</p>
<p>高齢化・人口減少に伴い、住民同士の繋がりの希薄化、高齢者・子育ての孤立など、深刻な問題がたくさんあります。</p>	<p>第2期地域福祉活動計画策定のための座団会時に、このように座団会を定期的開催し、意見・情報交換や共有する機会をもつことが大切であるとの意見も聞かれましたので、今後とも継続して話し合いの場を設けていけるように社協として積極的に関わってきたいと思ひます。また地域の方が身近に気軽に集う場(サロン)の展開をすすめていきたいと思ひます。住民同士の助け合い、活動の展開、仕組み作りが不可欠だと思ひます。</p>
<p>高齢化と地域の過疎化がすすむなか、人々が日頃からちよつと行くところ(サロン)があるとよい。月1回のサロンはかなりの地区で活動しているが、いつでも、行くところのあるようなサロン活動はない。このようなサロン活動への財政的な支援も必要。 買物難民の問題、直産市場のようなものが小学校にあるとよい。</p>	<p>高齢者の集う、日々のサロンがあつて、市が財政的な支援(光熱費や家賃の補助)をしていただけるなら、民生委員会でも協力していきたい。</p>
<p>現在は、サン・アビリティーズ今治の計画にそつて、事業を行つていますが、障害者は独立して、活動するにも無理であり、決算書を作る時は、大変苦勞致します。会員の中に会計をする人が居ません。副会長する人すらいません。すべて、会長一人でやつている状態です。相談に乗つてもらえる行政機関があれば、安心出来るのではないかとと思ひます。</p>	<p>互助会員の総会場で、会長は、会計を作らないのはお金を自分が自由にならないから会計を作らないのであろう。会長個人の為に使つているのではないか?... 大変きつい事を言つた会員がいました。心外であり、一生懸命やつているのになぜ、此の様な強い事を言うのか? 悲しい次第であります。私は妻の力をかりて、二人で一生懸命任にあつております。</p>
<p>地域間でのゆるやかな見守りと関係機関のネットワーク。</p>	<p>地域内での介護保険サービス事業所と関係機関の意見支援や交流の場の設定。</p>
<p>・地域全体での見守り体制。・子どもから大人までの福祉に対しての考え方。・自治会ごとの協力体制。・町内会ごとの助け合い。</p>	<p>・各福祉団体・各企業の連携</p>
<p>3世代が交流できる事業の実施。</p>	<p>お花見等、自治会で計画実施するが、やはり資金が必要。</p>
<p>保護者が安心して、子どもを預けて働けるよう、一層の子ども支援を行う。</p>	<p>鴨部小学校区の児童に対しては、これまで通り放課後、児童を預かる。保護者からの育児相談の力になれるよう研修を積む。</p>
<p>今一番不安なのは、「防災」です。万が一災害が起きた時、地域の方と協力し合えるのだろうかと思ひます。</p>	<p>職員の中には地元の消防団に入つている人も少々いると思ひますが、この職場内で、地域の消防団に入つて活動するとか、何かの形で地元への貢献を図ることで、共に助け合うことができるのではと思ひます。</p>
<p>各地域では自治会を中心として、文化継承する中でそれぞれ生きる力、つながりができているかと思ひますが、高齢化する状況、これらを支える人材が減少します。現実的には高齢者自身が支えています。この方々の支える源は健康であること、健康管理と介護予防の推進が必要かと考える。行政では各支所(地域)のニーズ把握が十分にできているか、高齢化している現状にどう対応すべきか。(生活産業、経済、公共施設の使用等)大きな目標を示して頂きたい。</p>	<p>住民支援のため全てに協力いたします。 (住民の生活と命を守るため)</p>

問 19 今治市の課題について	問 20 課題の解決策について
<p>・重身の方(特に学齢児)と保護者の居場所作り。・発達障害を伴う方への地域理解、家族が受容しやすい環境作り。</p>	<p>・幼児期、成人期のサービスを実施している事業所さん、または公的な機関で受け入れ先を作ることはできないでしょうか。・情報の発信、相談の対応はできますが、一事業所としてできることは限られています。発達支援センター主導で正しい知識、適切な支援が全ての方に行き届くようになれば...と思っています。</p>
<p>ゆったりとでいいので、たくさんの方が、障害について理解していける様な機会が必要であると思う。小さい時から、成人まで、今治市に貢献できる人材として、障害の方たちの施設を活かしてほしい。子どもの支援にもっとネットワークがうまく機能する様に専門性の高い相談員をしっかりと配置し、その専門性をみがきつけてほしい。</p>	<p>研修などの実施や講師の紹介など、又、学習会というより、自立支援協議会を通じて、と考えます。自立支援協議会が充実することがとても大切だと思うので。</p>
<p>貧困によって学習に支障がある児童、生徒に自治体や地域からの支援。無年金高齢者等の特養への入居。</p>	<p>退職教員への有償ボランティア呼びかけ。</p>
<p>全国的な課題であるが、子育て事業は高齢化対策と同様、社会保障施策として第一に取上げ、早急に実現化することが重要である。</p>	<p>人間らしい礎を築く源となるもので、その施策が根をおろすと、おのずと世の中全体が潤ってきて、心豊かに人間関係が形成されるのではなからうか。</p>
<p>一人暮らしの高齢者や老人世帯の方々が安心して生活できるよう、近所の方の声かけが必要になると思います。私達から見て大変そうだと思っても、がまん強い年代の方々なので頑張り過ぎて無理がいっている方も多いようです。まず、周囲の人達がそういう方々に気付くことが大切だと思います。</p>	<p>居宅サービスや施設サービス等、介護保険上のサービスを利用できれば良いのですが、そのサービスでは対応しきれない部分も多いと思います。買い物や散髪、見守りなど、地域で民間のボランティアや有料のサービス等が充実していくといいなと思います。</p>
<p>自治会員の加入が少なく、防災、防犯、環境、その他共通する問題が多くある。部分的な活動になり参加者も一定している状態で、全員の人たちと話しはできない。自治会員でない方は市の広報も見ておらず、なにごとにも無関心な方が多く、いろんな企画活動に参加しない。</p>	<p>市としても全員参加のできるようなシステム作りを考へてほしい。</p>
<p>自分さえ良ければという市民性が強いものがある。つながり、まとまりがなく、離合集散をくり返している感がある。会を開催しても、上記の特性のため、ネットワークが形成され難い。</p>	<p>自分の時間を他人の為に使う(提供する)ことを喜びとする団体が増えていけば、横断的にネットワークが広がっていく可能性があるのではないか。団体間の交流を図り、理解を深めて、繋いで行って、異業種間のネットワーク作りを地道にしてゆけば支え合うことができるのではないかと思います。</p>
<p>高齢者、特に独居老人は玄関に施錠し、外に出る機会を自ら閉ざしている。表札の無い家さえある。「向う三軒両隣」は死語になっている。そしてそのことが安全であると思いつけているのが問題である。オレオレ詐欺に合うのも当然と思う。</p>	<p>「向う三軒両隣」が如何に大切か。その為に老人も進んで外に出ること。お隣とは仲良くすること。これが何よりも大切と思う。まずは気持ちよく挨拶すること。また、子どもが親の面倒を見るのは当然である。これが一般社会の姿だと子が気付くような心の教育も大切。機会ある毎にシルバーの集い等に参加するよう手助けしたい。</p>
<p>高齢者の見守り隊。</p>	<p>声かけなどの応援。</p>
<p>高齢者や障害をもっている家族の人の理解が必要で、家の中の生活ではなく、社会との関わりを保てる様にする。</p>	<p>社会生活を通し、仕事、他の人とのコミュニケーションがもてる場を提供し、少しずつでも、社会との関わりを保つ様、支援していきたい。</p>

問 19 今治市の課題について	問 20 課題の解決策について
<p>在宅で介護している方の休息や用事(急な)がある際の受入れ先が少なく介護者の負担になっている</p>	<p>施設として空床があれば協力可能 他施設での受入状況等が分かればケアマネや家族の負担も少なくなるのではないのでしょうか</p>
<p>超高齢化社会を向け「医療から介護・施設から在宅へ」という流れの中、当介護事業所として在宅で高齢者を支援していくための高度なスキルが未熟であると感じている。また元気高齢者や要支援1, 2の分の受け皿として、どのような組織・団体が必要とされるのか今治市の方向性を早く示していただきたい</p>	<p>当JAでは助けあい組織「太陽の会」が管内8支部にあり 現在135名で活動しています。要支援1, 2の受け皿として是非協力させていただきたいと思います</p>
<p>誰もが住みなれた地域で安心して暮らして行く為には、自治会活動を充実させていくべきであるが加入率の低下が問題である。町内会費の徴収に関して年金生活者からの苦言もあり今以上の負担は望めない。若者の定着できる企業があればと思うが実情は困難であり益々高齢化に拍車がかかる。</p>	<p>自治会加入率アップの為には市営住宅、賃貸マンションの管理者への協力依頼が必要であると思う。今後連携協力依頼していきたい。</p>
<p>島しょ部の保健師の役割は大きい各町2名の保健師では十分な訪問活動はできにくいのではないかと。住民同士の声掛けや見守り活動と保健師(行政)の訪問活動は違う。生活課題をかかえた人の掘り出しには個人情報を持っている行政が行うべき。</p>	<p>地域で一番の地縁組織である自治会の基盤整備を行い若い人も自治会に加入し、自治会を主体として支え合いの地域づくりを行う必要がある。自治会の事務局を持つ行政の呼びかけで小地域ごとの研修会や見守り推進員のように組織を地区ごとに配置する(社協と協働)</p>
<p>赤ちゃんから老人まで地域を意識できる支援 行事 交流を増やしていく必要があると思います そのため人・モノ・金を整備し提供していくシステムを行政主体で構築して欲しいと考えます</p>	<p>地域ケア会議を通じて個人の生活課題解決 政策提言まで議論を深めていく 認知症サポーター養成講座を実施し 啓発活動 見守り体制につなげていく 包括的 継続的ケアマネジメント業務にて介護予防に努めるとともに介護サービス事業所との連携強化を進めていく</p>
<p>認知症見守りネットワークの実現は素晴らしいと思う。市のネットワーク事業への協力体制はあるので経済的な理由で介護を受けられない(生活保護には至らない)方々の立ち上げが必要であると思う。</p>	<p>経済的な理由でグループホームやサービス付高齢者住宅に入居できず、自宅で老々介護又は一人暮らしをしている要介護認定が3以上の利用者に対して、高齢者のシニアハウスを提案します。H27. 2月より主に訪問介護をご利用頂き低価格のシニアハウスを予定しております。モデル事業として提案いたします。</p>
<p>若い人が子育てしやすい就労環境。就労している人が安心して子育て支援を受けられる環境が望まれます。</p>	<p>学童保育の充実。</p>
<p>人間一人ひとりの個人情報の保護も大事ですが、大震災時等を考えると障害者は、地域の隣近所の住民に把握して頂き、できれば救援していただきたい。ここでいう障害者は寝たきり者等の自力で動けない者を示す。障害者の中には他人には知られたくない者もいるが放任はできない。地域の障害者の名前を知り得れば何らかのサポートができる。</p>	<p>障害者は地域の住民に知っていただく努力をする。地域での障害者の話し相手となる(生活相談)。定期的な安否確認をする。</p>
<p>クッキーボランティアでは地域の支えは大変必要と考えます 職員の質の向上は勿論のことボランティアも向上をしていかなければならないと考えます 団体の絆をはかり 人脈づくりも普段からが大切 年1回でも他団体の園に集えばよいと思います 行事の前後だともっと効率的に行えると思います</p>	<p>上記に述べたとおりですが一ヶ月前の通達では遅いです 一年間計画をお知らせ下さいませよう皆様予定を入れると思います</p>

問 19 今治市の課題について	問 20 課題の解決策について
<p>本当に支援を必要としている方々になかなか来てもらえない。気軽に入れる雰囲気づくりの大切さ。</p>	<p>地域の人々への関わりの第一歩としての赤ちゃん訪問への同行。</p>
<p>地域の繋がり支え合いは急にできる事ではないと思います 普段の生活の中で気にかけて声かけ合うような関係を持って欲しいです 近くで集まるような行事は少ない 集まりがあっても参加しない 地域から孤立してしまっているなど他者との関わりを持たないとなりがり支え合うことが難しいのではないかと思います</p>	<p>集会所などでの介護教室の開催(介護保険の説明 認知症について脳トレなど)できる範囲で内容は検討します 近所の人があつまって話をするようなきっかけになればと思っています</p>
<p>・病児保育施設の設置。・児童クラブの開設時間と定員枠が少なく待機児童がいる。</p>	<p>・病児保育の施設へ保育者の派遣。・早朝、夕方、延長時間対応できる支援員の派遣。</p>
<p>小地域(隣近所)での見守りネットワークの構築。</p>	<p>・行政と協働による住民座談会の実施からネットワーク構築につなげる。・担い手への各種講座の実施。</p>
<p>私達の地域は田舎ですので安心して楽しく老いる島づくりを目指しておりますが、若者が非常に少ないのが課題だと思います。</p>	<p>地元には事業が無いので若者は都会に仕事を求めて島を離れます。やむを得ない事と思うが定年になったらわが故郷に帰って来るように仕向けて行きたい。</p>
<p>子ども達が安全安心に遊べる広い場所が欲しい。通学路に歩道が欲しい。</p>	<p>児童クラブ以外の児童が来れば砂場などで一緒に遊ばせている。小学校の運動場などでも一緒に遊ぶのを指導することがある。</p>
<p>障害を持たれている方への地域の方々からの理解と協力が、その方の将来が充実した幸せな日々につながると思っています。まだ、現在の地域の環境としては十分ではありません。障害を持たれている方が親戚きあとも地域で安心して暮らせる環境と、必要な支援が受けられる体制の整備がとても大事な事だと思います。支援をする片側の人材の育成も急務ですが、この点も十分ではないと感じます。</p>	<p>発達障害を伴う方々には、その方の特性に合わせた支援と、その方が持てる能力を十分に発揮できるような自立に向けた支援を、出来るだけ提供しようと考えます。障害を伴う方々が自立して生活できる住まいを提供して下さる財源があったなら、生活面の支援は私たち法人が担わせていただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>※障害者福祉サービス 介護給付(サービス名 居宅介護)通院等介助(身体介護を伴う)大三島、伯方島、大島、等各島に今治市街地に設置が認められている無料タクシーの設置を。※しまなみ海道の更なる通行料の軽減化※海の道、歴史の島、食文化の観光地域、更に近代スポーツ サイクリストの聖地作りの恒久化受け皿づくり。</p>	<p>※地元住民への情報発信による啓発啓蒙が重要。</p>
<p>①地域診断として、地域の問題や特徴の把握②地域の資源等と利用者をつなげるコーディネーター③近隣の住民とのかかわり④行政の方のかかわり⑤災害時の障害児・者の安否状況確認⑥災害時の障害児・者の安否状況確認⑥当事業所が提供、支援しているサービスを通して、生活に困り事を抱える方を見つけていくにはどうすればいいかわからない。</p>	<p>①相談業務を通じて相談者や家族の声を聞いたり、同業者との情報交換をする。②③地域資源(人・場所)の情報やそのマップ作り。④状況に応じて同行をお願いする。⑤災害時、地域にお住まいの障害児者の方の安否確認や福祉避難所を案内する。⑥行政、その他の支援者等から提供される情報に応じ、必要な手立てを関係者と模索していきたい。</p>
<p>障害を持つ人が安心して地域で暮らしていけるよう積極的に余暇活動に参加したり、イベントに参加し、地域の人との関わりを多くする。その中で地域の一般の人にも障害者との正しいかかわり方を知ってもらおう。</p>	<p>ヘルパーと地域行事や余暇活動に参加する。</p>

問 21 市へのご意見・ご要望(抜粋)

公的な福祉サービスは、それぞれの分野ごとに発展してきたが、制度の谷間にあつて、対応しきれない問題がある。『不登校、ひきこもり問題』『ホームレス、ニート問題』『更生保護分野で、刑期を終えた人たちの受け入れ先問題、触法障がい者の人の受け入れ先問題』等。

また、『児童・障がい者・高齢者等への虐待、DV』全て公的な福祉サービスで、対応することは不可能であり、また、その対応が適切ではないのかもしれない。社会的排除の対象になりやすく、従来の公的な福祉サービスが十分に対応できていない問題もある。さらに、専門的な対応を必要とする問題が、近隣住民によって発見されても、それが行政や専門機関につなげられず、結果として対応が遅れてしまうという、制度へのアクセスの問題もある。これらのことに関し、厚労省の研究報告にもあるように、現在、全国的に懸念されているのは、地域の繋がりのなさである。各自治体等の関係の希薄化である。地域福祉活動は、住民の自発的な行為であるとしても、一部の人のみの活動になってはいけぬ。より多くの人が、活動に参加出来るようにし、これらの活動が疲弊することなく、継続できるよう、活動の基盤を整備することが重要だ。

住民の新たな支え合いを位置づける地域福祉計画の作成に当たっては、①住民がもっと積極的に参画する仕組みを作る。②地域福祉活動の内容にふさわしい圏域を設定する。③コーディネーターや拠点など、住民の地域福祉活動に必要な環境を整備するといったことなどが重要である。市町村はそのための財源を確保すべきであり、また、国においても、市町村が財源を確保できるよう支援が求められる。その上で、我々であれば、障がい者福祉事業に関与している者が、その分野に対して、積極的に啓発活動をする。または、社会福祉士等が、上記にあるコーディネーターとして機能する。その前に、分野を問わず、各事業所が、もっと地域に開かれた施設・事業所作りを意識していくことは、当然である。マスコミの方との連携も要るであろう。昨今の『児童虐待』の通報件数がわかりやすい例である。住民により強く周知することで、住民の意識が変わってくる。その為にも、マスコミの力は、絶大である。いずれにせよ、地域住民全体に、現行の福祉、または公的な福祉サービスで対応できていない部分にも意識付けをしていき、損得勘定なく、地域福祉に関与出来る体制を作っていくことが必要であると思う。

児童発達支援事業所が圧倒的に不足している。また高機能自閉症スペクトルや ADHD のような知的に遅れを持たない児童が見過されていることも多い。早期発見、早期療育を実施することは子どもの豊かな生活につながるし、また2次障害を予防することにもなる。特性を理解されずワガママといわれ、叱られて自己評価を下げている。場面によっては触法行為を犯すことにつながることも多い。早期の対応が本人、家族、地域での暮らしやすさにつながる。

児童クラブとしては、これ以上の贅沢を言えるような立場ではありません。これ以上の「サービス」は、親が育つ環境でなくなってしまう気がして、心配です。「子を育てるのは親」だったはずが、地域の方々にお世話になり、先生方に必要以上の世話をかける子が増えてきている事に、親が気づいていないのが現状です。地域の方々の、地域の子ども達を大切に育もうとされている姿がとてもありがたく、頭が下がる思いです。すべての親が我が子をじっくり見てやれる、心のゆとりもてる生活のできる事が希望です。勝手ばかり書きました。すみません。市の皆様がお元気でお仕事ができますように。お祈りしております。

支所の住民サービス課に担当の職員(福祉係)が配置されていることは大変ありがたい。旧市では、それを公民館がカバーしているようであるが、民生委員の活動をより積極的に支援するまでではあまりにも多忙すぎる。今の支所機能を今後とも維持して欲しい。

信頼関係を深めて、安心して生活できる様にお願ひします。

ボランティア活動に対して、無償のことが多いですが、有償(形は色々あっていいと思うのですが)の方が、より責任感ややりがいを持つことができ良いのではないのでしょうか。

これから新築される市営住宅は、スロープ、エレベーター等、バリアフリー化されると思うが、既存の住宅も何とか考えてもらいたい。障害が重度化、高齢化より階段が昇れなく、アパート型式の市営住宅はたとえ一階であっても入居が不可。又、ドアの開閉が重く、改善を要する。車椅子対応、それ以外の重度障害者の入居可能数を増やしていただきたい。

1、施設に入れたくても入れない人が入れるような施設を考えてほしい。認知症があり、少し歩ける人は、お金の関係もあるが、施設に入りにくい。2、敬老会を単位自治会で実施する。校区敬老会の参加は約十人に一人くらいで、遠くて参加しにくい。地域での交流を活性化すべきである。

<p>これも児童クラブに関するのですが、現在の児童クラブの実情は奇妙な形(体制)をとっています。すなわち、入会者が、小学生であるので、施設が小学校の校庭に設置されている所がほとんどです。運営の方法は、ほとんど文科省の考えに従って実施されています。しかし、児童クラブは、放課後と休校日、長期休暇にも開所しているので、小学校(文科省)は直接、支配下に置くことができず、厚生労働省にまかせて、主管官庁を厚生省に譲りました。女性の労働力を確保する意味からも昼間保護者が家に居ない家庭の児童を見守る児童福祉の面から考えても好都合だったからだと思います。頭は厚生省になったけど体は文科省のまま、という奇妙な形態になってしまいました。頭の指令が体に届くようになるには、小学校に少し考えなおしてほしいと思いますが、プライドの高い「世界に冠たる学校教育」を変更するなど全く期待できないので、解決策なしです。文科省は未だに「子どもは親が育てるべき」という考えを期待しています。</p>
<p>現在大西町九王方面への瀬戸内バスが運行されていません。交通が不便で高齢で車に乗れなくなることで通院や買物に困っているのが現状です。交通の便の確保、巡回する低額な交通手段を考えて欲しい。高齢者でも外出が便利で、サービスの充実した安心できる住みよい町作りを望みます。私も民生委員の一員として、大西町町民としてやれることはやっていきます。行政の方もお考え頂き、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、何が必要なか、他団体との方々と話し合っていきたいと思っています。</p>
<p>1. サービス情報の積極的開示→援助 視覚障害者の方に必要な情報が十分に伝わってないから。2. 市から出す資料(視覚障害者が使用するもの)の点訳依頼はないでしょうか。(現在は個人から受けています)</p>
<p>現在、利用している方の中で、近い親族のいない方が数名います。自分で署名できない人の書類をどうすべきか。同じく成年後見人制度を利用できないものか。できれば、他の入所施設にもおられると思うので、市の方で、申請してもらえないものか。(手続きの協力はもちろんします)・高齢者の方が、万が一病気等になって回復(快復)の見込みがなくなり、老人の施設に移ろうとした時、スムーズな対応がとれるように欲しい。・毎年少数ではあるが、他地域移行を進めているが、保護者の方が心配したりして、なかなか移行できない方もいます。安心してどこでも住める環境作りをしていただけたらと思います。用紙を汚してしまい申し訳ありません。</p>
<p>支援の必要な児童を預かる場合は、その児童の障害の度合いにもよるが、一人に指導員を一人ついてもらわねばならない場合もあるので、加算金を県の規定程度にして頂けると嬉しいです。(障害があっても、障害児として申請してない児童の割合も増えているので)・減免制度を設けて、減免家庭の月会費は半額になっているが、減額となった分の補助が無いので運営が大変な児童クラブがあると聞きますので、減免制度の補助をお願いします。</p>
<p>住民の支援する中で、個人情報なくしては援助できない事が多くあります。こちらが依頼した場合には情報提供をお願い致します。</p>
<p>担当の職員が2-3年で異動するのではなく、5年位は担当をして、絆(地域住民との)を深めていただきたい。</p>
<p>各団体の予算面が減っているから活動が鈍っている様に思う。</p>
<p>島嶼部の負担を減らして欲しい!</p>
<p>市議会議員にはもっと身(実)のある仕事をしてほしい。議員定数の削減も検討する余地があるのではなかろうか。今治市全体が思いやりあふれる、みんなが心豊かで幸福であると実感できる、そういう今治市であってほしい。</p>
<p>いろいろなサービスがあり、インターネット等で調べることはできますが、高齢者の方々は知りようがない状態です。そのようなサービスがあるということを伝える手段があればいいと思います。</p>
<p>私達の活動のイベントには、市の福祉課、推進課、地方局の参加有り、社協のボランティア係の方とも交流があります。ボランティアにはどうしても高齢化があり、仕事をもつ若い参加者が進んでボランティアに参加できないことです。</p>
<p>行政職の停(定)年後の福祉施設への配置については、経歴、肩書きではなく、向き不向き、能力、見識を考慮していただいて、適材適所へお願いしたい。(施設経営の活性化及び職員のモチベーション向上のため。)</p>
<p>祝日における一般家庭の国旗掲揚が非常に少ない。連合自治会では以前事業計画に、国旗を揚げようと記載されていた記憶があるが、現在は見当たらない。行政がこれを強制することは出来ないが、市民が素直な気持ちで国旗を揚げる日の到来を期待している。介護に従事する人の待遇はもっと改善すべきだと思います。</p>
<p>認知症の方が増え、介護でお困りの方が増えています。認知症介護の勉強会等、開催されていますが、ご存じではない方も多いため、勉強会等の機会を増やすことと、周知徹底をお願い致します。</p>
<p>来年度から始まる指導員の研修をできれば、今治でお願いしたい。指導員は全員主婦なので松山での一日研修は大変である。</p>
<p>使用しなくなった公共施設を活動場所として提供して欲しい 発達障害に特化した相談者 支援者の育成を望みます 広く会員から意見をききたいのでアンケートの期間を2ヶ月くらいは欲しい</p>
<p>横の連携をとってください。住みよい今治市を考える上で市の専門職の方が異動しない状況で委託包括の指導をしてください。</p>

<p>市の財政事情の困難な面は理解しているが今以上の地域住民への受益者負担と言って地域住民へ押し付けるのは加入率低下につながり寄付金・募金等の減少になる。他分野での財政効率化を考えて欲しい</p>
<p>自治会の役員は仕事をしている人が多いので会議等は夜にしてほしい</p>
<p>私の住んでいる地区では高齢者が多く先日も防災の調査で介助者に頼む人がいません。皆さん一人暮らしか二人(高齢者)で住んでいます。元気な高齢者でゴミ当番 自治会の役をしている状態です それぞれの家庭の事情ですが若い人が住みたい今治市になって欲しいです</p>
<p>高齢化に伴い 増加する認知症対策として認知症予防や症状を改善する運動療法など自分で出来る事の知識と方法、場を提供してほしい。ボランティア活動への少額の支援と情報提供をお願いしたい</p>
<p>行政側の視点からも住民主体の活動を主体としなければ支え合いの地域づくりは難しいと考えていると思うので住民主体の活動を支援する事業の事業員として助成事業を行ってほしい。市の空き店舗を活用できるよう維持管理費を市が負担してくれれば空き店舗を活用して活動する団体もいると思う(指定管理制度の継続) 福祉センターの指定管理業者として保健センターの維持管理を行っているにも関わらず保健センターの使用申請については行政に申請しないといけないので不便</p>
<p>点字ブロックの上に自転車などを止めている場合がある 点字ブロックの近くに自転車を止めた場合、白杖でキズをつけるおそれがある事を知らない方がいる 今治商店街に点字ブロックが整備されていない 今治の信号機は視覚障害者に分かりづらい(音声の方向が違うそうです)</p>
<p>ここ数年間、聴覚障害者＝手話だけというコミュニケーションイメージが大きかったのが手話だけでなく要約筆記や筆談を求める人もいるということが少しずつわかってもらえてきていると思う。しかし講演などで手話通訳士は講師の隣で通訳しているのに要約筆記のスクリーンは舞台の端の隅っこの方に置かれていることが多い。文字による情報を求める立場からしては顔を舞台のスマの方へ向けなくてはならなくなるので舞台の真ん中に居る講師の身振りや表情などが見えない。従ってその場の雰囲気味わいにくい。要約筆記のスクリーンも手話通訳士と同じように講師の近くに置いていただけのご配慮も望みたい</p>
<p>活動場所としている建物 設備の経年劣化等により補修、取換が必要になっても費用が無く計画できないのが現状です。安心安全に活用できるように補助をお願いします</p>
<p>①高齢化対策として選挙の会場は土足 バリアフリーとしていただきたい(部落集会所はなっていない) ②選挙の投票受付案内は以前の葉書でよい(現在はコストアップ) ③鴨池公園の松枯れ毎年あり専門の造園業を呼んで対策していただきたい 現状は新しく植えず枯れたら切るだけで5年程したら松の木は1本もなくなる模様である ④電動車イスが、今後利用者が多くなるので歩道上の交通案内板の支柱等でできるだけ端ご移設して道幅を確保して対策していただきたい⑤スーパー等の障害者等用駐車スペースに、高齢者の車が駐車できる条例はできないでしょうか⑥自転車乗者のヘルメット着用は条例で定めて居ますが高校生 障害者等ヘルメット購入時行政より一部支援していただきたい</p>
<p>児童クラブの運営は市からの補助金と保護者負担金でまかなっていますが保護者は年々非課税家庭が増えているのが現状です 年会費保護者負担金1名24000円ですが非課税家庭は半額の12000円の負担となっていて当近見児童クラブでは来年度40名中10名程が非課税家庭と思われるので120000円程の減額となり非常に運営が厳しくなるのではとされます この減額分を市の方をお願いして何とかしてほしいものです これは他の児童クラブにも言えるのではないのでしょうか</p>
<p>予算が伴う事ですから多くの希望は望みません 自分の持ち時間をフルに生かせるべくボランティアシステムをつくっていただければ嬉しい限りです できる時 できる事を皆さんとご一緒に今治市をすばらしい 街にしたいです 時間が許す限りご協力させていただきます</p>
<p>今年8月に広島市安佐南区で発生した大規模土砂災害は改めて我々市民に土砂災害への警戒と備えの重要性を再認識させるものであった 近見地区においても 湊 大浜地区を中心に土砂災害警戒区域が多数あり平成25年に校区社協 自治会が中心となり防災マップを作成したがこういった災害時に避難経路が遮断されることも十分に考えられる 今後このようなことも含め今治市が中心となり災害警戒区域での専門的な観点からの意見交換と意識を高めるための話し合い 活動を積極的に実施して頂きたい 地域でも要援護者 独居高齢者を中心に今後も防災意識の向上とつながりを持つ活動を続けていきたいと思う</p>
<p>指定認可の際の内容の透明性の確認を県に委ねるのではなく市自体が関わって行ってほしいと思っております 私たちが純粋な気持ちで支援させていただいております そうい団体は今悲痛な思いをしています 今一度市側も考えて頂きたい 宜しくお願致します</p>
<p>新しい介護予防 日常生活支援総合事業 生活支援コーディネーターなど介護保険制度の改正でかわること決定されたことがあれば早く知りたいです</p>

<p>各種団体の業務内容があいまいで重複している部分がある。例えば、配食サービス等に関するサイン、押印の依頼についても、伯方包括支援センターや支所住民サービス課その他からある。総てにサインしているが業務の住み分けがはっきりしていない面がある様に思われる。(1) その他、老人が気楽に集えるサロンの設置等にもっと積極的に協力してもらえればと思う。(2)個人情報保護の観点から資料の公開が困難で各種名簿が入手できず困っている。自分たちが調査作成した資料でもコピーもせず返してほしい等々・・・おかしいのではと思うが？</p>
<p>市役所の業務も大変だろうと思います。伯方でも支所には毎日のように夜遅くまで電気がついている様子。外部の者にはよく分かりませんが税金が厳しい中で予算の配分運用等大変だろうと思います。しかしながら市役所の業務は市民生活の中核をなすところですから、市民一人一人に地域の末端にまで気を配って血税の生きる運営に最善を尽くしてほしいと願っています。今後とも宜しくお願いします。</p>
<p>国の政策における変化が激しい中で担当課の方には大変ご配慮をいただいていると感謝しております。ただ、国の制度上の制約の中では本当にその地域が必要としている支援は難しく、その部分に対する今治市独自の財政的支援があれば・・・と思います。</p>
<p>私達のグループは社会福祉協議会が主催する傾聴の講習会に参加し、傾聴の知識を役立てたいと講習会終了後、ボランティア活動をしたいと希望する方達に入室して頂いて活動しています。包括支援センターで傾聴に関心を持っておられるケマネージャーさんからの依頼で、社協のボランティア担当の方が仲介して下さい個人のお家や施設へ傾聴のボランティアに有志として参加しています。社会資源としてのボランティア活動をしているのが現状です。</p>
<p>各町村出身者が出来るだけ各町村の支所に勤務することで(特に支所長は地元出身者が望まれる)、各種団体等とのつながりがより強固なものになり、円滑な事業展開が図れる。</p>
<p>若い人、子どもの減少、先行き不安ですが、今頑張れる人が頑張っている様子が今年の「しまのわ」で色々な地域での頑張りに感じしております。今後一歩でも前進できたらと思っております。しまのわは人の輪でしたね。</p>
<p>子育て支援に関して制度法律など現在大きく動いているようである為、実際に子育て中の方々、支援者である私たちは正しい情報を正しく理解していく事がとても難しい状況にあります。その中で、今治市の子育て支援のサービスについて、今治市の取り組み情報がより早く正しく伝えて頂けるよう望みます。私たちは拠点事業所として子育て支援事業に従事していますが、子育て家庭の方々が知りたい情報は多様化しています。一人でも多くの人々の支援をするためにも市と事業所の連携をさらに深く地域住民の理解や協力を得られる様、努力していきたいと思っております。</p>
<p>活動することは良い事である。ボランティアで行動する考えを持っている人がいるが、全て個人持ち出して活動を続けることは限界があると思う。現在の市主催の会議等は平日の勤務時間内で開催をしている。祭日、土曜、日曜日または、夜間の会議をもっと多くする工夫を考えるべき。大事な時間帯に参加を希望するのは高齢者であろうと思います。ボランティア活動での費用弁償は求めないが実費的な交通費、電話代、弁当代の支払いを考えないといけないのではないかと。職員は月給制、出張旅費は支給される。連絡の電話代も個人負担はならない。</p>
<p>岡村島の県道はきれいに舗装されていますが裏側の市道も舗装して欲しい。関前の人口は、10年前は約850名住んでいたが、現在は500名程度まで減少している。保育園は園児がいなく休園している。小、中学生は小学校6名、中学校3名で来年は減少する。企業等の職員は通勤者もいて夜間の若者人口は減少する。時代の流れとある程度理解して受け入れている様であるが、やはり寂しい思いをしている人は多い。そこで長年親しまれている農業交流センターが「公の施設等評価及びあり方方針」によって廃止の方向で検討されている、他の地域との交流の場の宿泊施設の存続を是非、お願いします。</p>
<p>現在、週20時間を超えて勤務する指導員がいなくなり、児童の状況を明日(次)の指導員に引き継ぐのに十分でないことが起こりうる。児童は毎日来る。指導員は毎日変わるようでは困ります。児童クラブの指導員の専門性を確立し、児童クラブの指導員の待遇を改善、向上させてほしいです。</p>
<p>今治市内の児童クラブの規則(運営方法)を統一して欲しい。児童クラブについての説明会をまず市の方で開催して欲しい。もしくは冊子を作成して欲しい。</p>
<p>今治市合併10年を経過し、今後地方交付税の削減があり全ての事業に於いて費用の見直しをされているのは分かるのですが、すべての事業1割カットの方式でなく、いる所と要らない所の取捨選択をもっとしていただきたい。</p>
<p>生活に困り事がある方が安心して生活できるようサービス利用についてのルール緩和等を検討していただきたい。相談支援のできる事業所の広報が必要である。関係部署以外の部署への周知。</p>
<p>同様の支援を行う事業所が市内にいくつもあります。同席して話す機会が無く、横のつながりが無い状態です。より良いサービスを提供するには、お互いが良さを見て感じる場、情報交換する場が必要不可欠だと感じています。その場で市を取りまとめる行政に作ってほしいです。</p>